APRIL 20th 1910.

Report of the Sericultural Association of Japan.

No. 218

大日本蠶絲會報

第貳百拾八號目要

▲本會第五回總會錄事▼

●人造絹絲と純絹絲　農學士　肥後俊彦
●繭質の統一に就て　學士會員　八田達也
●てぐすの化學的組成　農學士　井上柳梧
●波斯の蠶業　農學士　廣瀨次郎
●蠶室及蠶具の構造に就て　岩手縣農學校教諭　田村兼造
●蠶種の統一に就て　池田幸之助
●蠶種消毒論　小岩井宗作
●如何にして農村の荒廢を防ぐべきか　農學博士　古在由直　農學士　紫藤章
●米國絹業談　有限責任産業組合松代製絲改良組　大里忠一郎
●印度に於ける養蠶　農學士　須田金之助
●日本に於ける製絲業の經濟狀態　伊國　カルロ、バイニー

▲本邦蠶界の元勳　練木喜三先生▼
▲本邦蠶界の耆宿　下田伊左衛門翁▼

TOKYO.
The Association:
No. 18 Nishikicho Sanchome, Kanda, Japan.

中原式乾燥器

歐米機業の進歩及び我國蠶業改善の結果**乾繭器の充實**は製絲家諸氏今日の重要なる急務と存候

中原式乾燥器今日の聲望は諸氏が多大の御贊助による賜と毎に深謝罷在候就ては此際乾繭器の**賣價を改正**して諸氏が斯の急務を解決せらるゝに御便利を謀るは各位從來の**御厚誼に酬**ゆる道なるを思ひ六石入乾燥器に限り別記の通り賣價の**直下げを斷行**仕候

當春は特に乾燥器充實が良好の結果を表示致居候やに考へられ候間此機を逸せず益々御愛顧御用命願上候　謹言

火熱式六石入　舊賣價金四百五拾圓　改正價金參百八拾圓
石綿寒暖計、調帶、同　金五　圓　同　金　五　圓
蒸汽式六石入上部　同　金貳百六拾五圓　同　金貳百參拾五圓

東京市本所區德右衛門町三四

特許中原式合資會社

☎電話浅花二、二二六番（電略ナカ）
（振替貯金口座一六五〇四番）

奉送之辭

三月二十八日我　總裁宮殿下には日英博覽會總裁の御資格を以て神戸御解纜御渡英の途に上らせ給へり我拾有餘萬の會員茲に謹で　殿下の康泰を祝し奉る

恭しく惟ふに　殿下の御聰明に渡らせらるゝ啻に文武兩道のみならず殖産興業にも常に御心を傾けさせ給ふことは夙に吾人の拜承し來るところなり宜なり畏くも　殿下が各種の公益的事業に總裁の任を負はせられしことや而かも之が爲に率先誘導啓發の範を示し給ひ御席暖かならざること多しとは承るだに畏し然るに今又日英博覽會御統裁の爲に御渡英せさせらるる恐懼何ぞ堪へん日英博覽會は　殿下の御渡英により始めて錦上花を添ふべく日英の親善之より大なるはなけん若し夫れ斯業の改良發展に至りては御歸朝後の台命に則りて其大なるを得ん乃ち茲に御旅中の康泰を祝し奉りて奉送の辭と爲す

明治四十三年四月

大日本蠶絲會

大日本蠶絲會報　第貳百拾八號

目次

口繪

●大日本蠶絲會第五回總會式場の光景
●故本會理事練木喜三氏の肖像

論議……一—一〇

●人造絹絲と純絹絲
●繭質の統一に就て
●てぐすの化學的組成

農學士　肥後俊彦
學藝委員　八田達也
農學士　井上柳梧

集芳……二一—一九

●波斯の蠶業
●蠶室及蠶具の構造に就て
●蠶種の統一に就て
●蠶種消毒論
●桑樹害蟲目錄（英文）

農學士　廣瀬兼次郎
岩手縣農學校教諭　田村造助
東京蠶業講習所技手　池田幸之助
小井宗作
丹羽四郎

本會第五回總會錄事……一九—三二

●開催地は花の名古屋＝總裁殿下名古屋に御着＝知事以下の奉迎＝共進會場へ御成＝式場の光景＝愛知支會第一回總會＝第五回總會開會＝業務成績報告＝第七回功績表彰＝有功章受領者＝受賞したる男女製絲工＝總裁殿下御退名＝三百餘名の盛宴

叩門……三三—四一

●如何にして農村の荒廢を防ぐべきか
●米國絹業談
●有限責任販賣組合松代製絲改良組

農學博士　古在由直
農學士　紫藤章
大里忠一郎

調査……四二—四三

●印度に於ける養蠶

農學士　須田金之助

心影……四四—四七

●本邦蠶界の元勳　練木喜三先生
●本邦蠶界の耆宿　下田伊左衛門翁

編者

遠響……四八

●日本に於ける製絲業の經濟狀態

伊國　カルロ、バイニー

實務……四九—五三

●養蠶年中行事

愛媛縣農業學校教諭　池田榮太郎
本會事務囑託　馬場由信
吉永信

●屑物整理

林……五三—五五

●犬頭神社に就て
●繭兒頭數調査器
●微粒子病の輕減に就て

高瀨廣作
久保田德一郎
長谷川榮治

絲況……五五—六〇

●横濱市場＝佛國に於ける各國生絲

會務錄事……六〇—六三

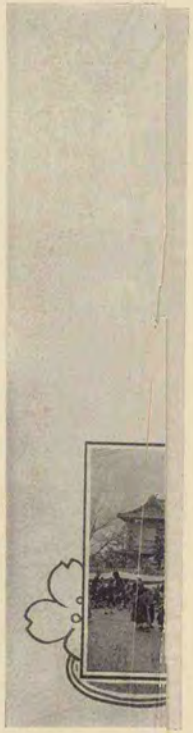
島根支會第五回品評會＝福岡支會發會式竝九州沖繩大會＝三重支會第九回總會＝支會幾員の囑託＝地方委員部幾員の囑託＝特別會員の推薦

問答……六三—六五

●蒸汽鍋竝集繭器の件に就き質問竝答●人造絹絲と普通絹絲との件に就き質問竝答●有蠶に就き質問竝答

蠶業雜觀……六九—七二

●生絲檢査所及蠶業講習所官制改正＝蠶業講習所分課規程＝蠶絲業の主任官會議＝蠶業の二大革新＝ス、ス、ス、蠶業講習所同窓會（三二）蠶種統一に關する東筑組合の意見（四一）＝製絲業の概況（四三）＝生産調査會委員（四七）＝蠶種統一竝絶乾工女養成所（五九）生絲檢査所月報（六九）＝蠶況（七〇）●文藝●蠶海出漁●新刊紹介＝養蠶法教科書＝實驗顯微鏡學＝製絲工業傳記＝改訂增補蠶體生理＝工女訓＝通俗女子製絲教本（五三）。



益々世の歡迎を受つゝあり希くは新智識の吸入を忘れ人後に立の恥を學ぶ勿らんとす

講習生募集

入學の最好機

專門大家

博士學士

二十四名

講師

學科及擔當講師氏名

蠶種論	農學士	本多豈次郎先生
桑樹栽培法	農學士	横田長太郎先生
蠶體生理論	農學士	辻武雄先生
蠶病論及消毒法	農學士	明石鶴太郎先生
蠶種製造法	農學士	外山亀太郎先生
蠶種生産者養法	農學士	佐々木忠次郎先生
蠶業經營法	農學士	林猪太郎先生
蠶業經營法	農學士	今川一郎先生
蠶業經營法	農學士	西村直次郎先生
蠶業經營法	農學士	田中家次郎先生
蠶業經營法	農學士	坂本則次郎先生
蠶業經營法	農學士	石波家次郎先生
蠶業經營法	農學士	長岡鶴次郎先生
蠶業經營法	農學士	針ヶ谷鶴次郎先生
蠶業經營法	農學士	横井時敬先生
蠶業經營法	農學士	小林榮次郎先生
蠶業經營法	農學士	原敬太郎先生
蠶業經營法	農學士	赤堀鉄太郎先生
蠶業經營法	農學士	喜多丸史先生
蠶業經營法	農學士	佐藤子女史先生
蠶業經營法	農學士	中島ゆし子女史先生
蠶業經營法	農學士	韓田順子女史先生
蠶業經營法	農學士	石井寧次郎先生

蠶業講義錄

（第一期）二十四課

期間一ヶ年　本會々員外參圓（全部千二百餘員）

女子蠶業講義錄（第二期）

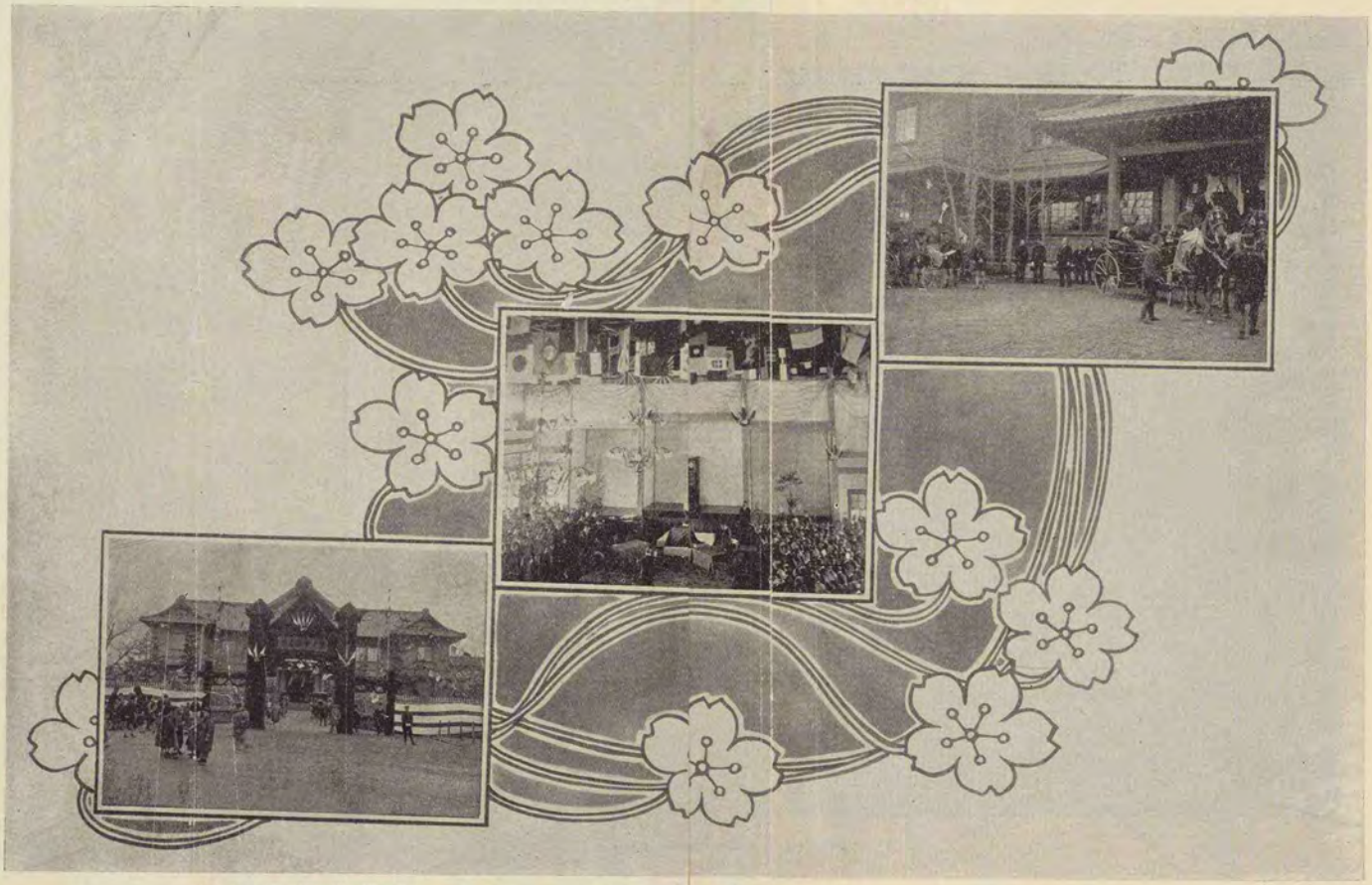
如則受付二錢を添へ申込むべし

發行所　東京市神田區錦町三丁目十八番地（電話番號本局一四七三）　大日本蠶絲會

本會が時勢の要求に應じ蠶業界の缺陷を補ひ以て聊か邦家の蠶絲業に貢獻せんとせる講義に出でゝ

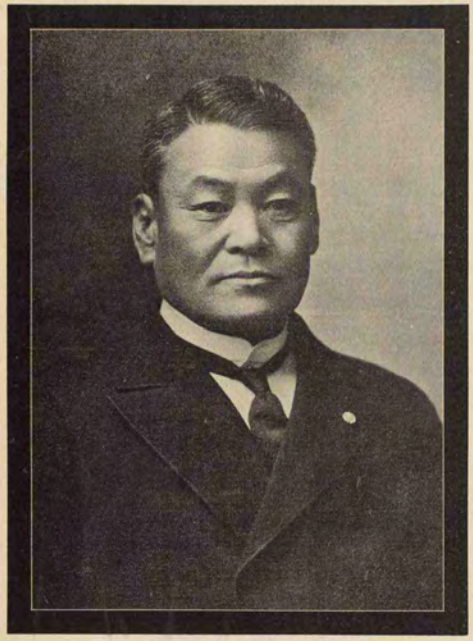
三月二十七日名古屋市縣會議事堂に於てかれたる大日本蠶絲會第五回總會の光景

Cinquième Assemblée générale de notre Association
qui s'est tenue, le 27 Mars, dans la salle du Conseil général de la ville de Nagoya.



會場正門の光景　　式場の光景　　總裁殿下御退場の光景

故本會理事練木喜三氏



Feu Monsieur K. Neriki, notre Administrateur

本會が時勢の要求に應じ蠶業界の缺陷を補ひ以て聊か邦家の蠶絲業に貢獻せんとせる講義に出でゝ

學科及指導講師氏名

弔詞

大日本蠶絲會理事從五位勲六等綿木官三君病歿の報ふ所となり悲哀なく遂に旅逝せられ物の病理殺に害蟲に關する研究に從ひ明治十四年農商務省に來り蠶業の改善發達に從事し明治十六年邦蠶種に微粒子毒の發生するや檢査するや大に蠶業界を警醒し併て蠶病試驗種に微粒子毒の發生するや檢査するや大に蠶業界を警醒し併て蠶病試驗場設立の急務なるを唱導し之が設置を觀るや其主任を命ぜられ蠶業試驗場農事試驗場蠶事部に歷任し蠶業講習所の建設せるるや其所長となり主ち後進の養成に努ひると同時に蠶業の試驗を行ひ之を世に公表して當業者の參考に供し蠶業界を物益する所多かりしが今や病魔に犯されて遂に本會幹事長に推され或は本會幹事となり學藝委員評議員を兼ね各地を巡回して蠶業改良の講話を爲し奬勵奬勵怠らざるなく蠶絲業上に貢獻すること實に著大なるを以て本會は曾て之を表彰したり最近本會理事に選ばれ事業の經營會運の發展に從事し御時來君の手腕を奏するもの多かりしが今や病魔の爲に倒れ痛惜の情ぜ堪ゆべけんや茲に本會を代表して謹しく弔詞を呈すと雖ども來り聲けよ

明治四十三年三月二十四日

大日本蠶絲會々頭　正三位勲一等　男爵　松平正直

大日本蠶絲會報　第貳百拾八號

人造絹絲と純絹絲

學士會員
農學士　肥後俊彦

貴重なる純絹絲

人工的に絹絲を製出せんと企てたる動機は實に純絹絲の貴重なる故である、來に本邦人は古來蠶を行ひ製絲機織の途を心得し爲に比較的安價に絹を得來りしを以て貴重なる其價値を感ずることが自ら未だ之を產せざる他國人の如く切實ならざることは明である、之を歐羅巴の例に就て見るも如何に絹絲が貴重なるものなるかは知ることが由來る歐羅巴に蠶種を始めて輸入せしは東羅馬帝國の明君「ヂュスチニアン」の時代にて西暦紀元第六世のことである、當時支那に到りし波斯の僧侶が密かに空筯なる杖の中に蠶種及び桑の種子を隱くして携へ來りしに「ヂュスチニアン」の皇后大に喜び之れを飼育繁殖して体播せしめたと云ふ事實は蓋く人の知る所である、それ以前に於ける歐羅巴には全く蠶絲の生產なく又絹布も專ら那と の交易によりて其供給を仰ぎしものなるが途中運搬の危險困難は非常なるものにて爲めに絹布は歐羅巴に達せしときは實に原價の百倍にもなりしと云ふことである、されば當時は專ら王者の使用のみに限られ常人は夢んて得難き貴重なる品物であつた。

蠶業書類と金塊とは同價値を有す

歐洲に蠶種の輸入せられし以來最初に蠶業の擴ぎりしは「ペルガン」島の地である、然るに未だ蠶を產せざる西部歐羅巴の諸國殊に伊太利は熱心に蠶業を自國に移さんと欲し通商に戰爭にあらゆる手段を盡くして蠶種桑樹及此等業に關する書類を獲得せんと試みたのである、甚しきは若し蠶すべしと命じたることさへもある。

終に第十二世紀に於て「シシリー」島の王「ロージャー」が十字軍よりの歸途希臘より蠶種桑樹及技術者を擕へ歸りしものが成功して今日歐洲の大利蠶業國たる伊太利蠶業の起原となつたのである、佛國西に傳はりしは第十三紀である而して蠶業の盛大となりしは「ルイ」十四世の朝である。

猶純絹絲の價格は不廉である

歐羅巴に於ても斯く諸國殊に伊佛に巨額の蠶絲を生產し一方運輸機關の發達と共に容易に東洋產の生絲をも輸入することを得て絹布の貴重なることも昔日の如く甚しくないとは云へ猶蠶絲の生產には集約なる勞力を要する關係より其價格廉ならず、從て絹布に對する一般の需要を滿足せしむること能はざる爲めに、絹絲の美質を備へ然も低廉なる纖維を人工的に製出せんと企つるものが出づる樣になつたのである。

人造絹絲の發明

人工的に絹絲の製造を企てしことを初めて公表せしは西曆千七百三十四年昆蟲學者「ローミュル」氏（Reaumur）である其後これが製出に腐心せしものが隨分多かつたが何れも其方法一途に出て植物纖維たる綿絲、麻絲等に純絹質の薄き皮膜を以て覆はんとしたる爲めに、悉く失敗に終つたのである。

然るに佛人「イレール、ブ、シャルドンネー」伯は（Comte Hilaire de Chardonnet）は細膜質の硝酸化合物を用ゐて絹絲に類似の纖維を製出し千八百八十四年其製法に就て專賣特許を受け千八百八十九年開設の巴里萬國大博覽會に之れに關する文を論文を出した。

當時は製法も未だ不完全で纖度太り漸く百二十「デニール」位のものに止まり且つ非常に引火性に富み又水に對する抵抗力弱かりしゆめに世人の之れに注目するものも少かつたが、同伯は其後種々の改良を加へ終に現今盛に商品として製產せらるゝ樣に成功したのである。

人造絹絲の種類

原料及製法に於て些少の差異なれども、現在商品として製產せらるゝ人造絹絲の種類を擧ぐれば左の六種である。

一、シャルドンネー（Chardonnet's Silk）
二、レーネー（Lehner's Silk）
三、ブ、ヴィヤー（Du Vivier's Silk）
四、ポーク（Pauly's Silk）
五、スターン（Stearn's Silk）
六、ヴァンデラ（Vandauara Silk）

成功せるは「セルロース」を原料の基礎とせるもの

以上諸種の內で「シャルドンネー」「レーネー」及「ブ、ヴィヤー」の三種は硝酸「セルロース」を用ゐ「ポーリー」は「セルロース」の安母尼亞銅溶液「スターン」は硫酸「セルロース」を用ゐて製造するのである、獨り「ヴァンデ、アラ」動物性膠質物を原料となせるものであるが、之れは其纖維に多くの缺點を有し商品として餘り歡迎せられぬものである、それ故に今諸所に於て盛に製造せらるゝ人造絹絲なるものは專ら植物性の細胞膜を原料の基礎とせるものである、此等は其組成が植物質のものなるに係す動物性蛋白質なる絹に酷似したる優美なる強き光澤を有し、外觀に於ては殆んど成功の域に達したるものと云はねばならぬ。

人造絹絲と純絹絲

外觀に於ては斯く成功せるも實際織物用纖維としての價値はドーデあるか、今人「ハサック」氏（Hussa）の研究成績を引用して主なる諸點に就き生絲との對照を試みよう。

纖度、人造絹絲の纖度は整齊であるが纖度の小なるものを製產するには頗製產者の苦心せし所である、今では餘程生絲の纖度に接近し既に二十「デニール」內外のものが出來る樣になつた、猶此點は一層改良せられ要求に應じて、夏に細絲が製出さるる樣になるであらうと思ふ。

比重、織物原料の輕いと云ふ事は、要なる條件の一である、人造絲は純絹絲に比して比重に於て大違ないけれども、少しく重い方である。

生絲	一、三六
シャルドンネー	一、五六
レーネー	一、五一
ポーリー	一、五〇
ヴァンデ、アラ	一、七〇

吸濕力、水分に吸收する力は純絹絲に比して遙に大である、風乾物に於て約二割飽和溫氣中に於て約三割も多くの濕氣を吸收する。

京都蠶業講習所創立十週年記念式に於ける官民合同觀覽會場

	風乾物の水分	飽和濕氣中に於ける含有水分
生絲	八、七一	二〇、一一
シャルドンネー	一一、一一	二七、四六
レーネー	一〇、四五	二六、二五
ポーリー	九、二五	二三、〇八
ヴァンデ、アラー	一三、九八	四五、五六

強伸力、織物纖維として重要なる強伸力に之しきは人造絹絲の一大缺點である殊に之れが濕氣を吸收するときは非常に膠大し著しく強力を失ひ脆弱となる之れ染色に困難なる所以である。

	強力		伸度	
	乾	濕	乾	濕
生絲	四、〇〇	三、〇〇	二〇、〇	二、〇
シャルドンネー	二、〇〇	〇、六〇	一六、〇	一、〇
レーネー	二、〇〇	〇、六〇	一六、〇	一、〇
ポーリー	二、〇〇	〇、六〇	一六、〇	一、〇
ヴァンデ、アラー	二、〇〇	〇、六〇	一六、〇	一、〇

強力は「ミリメール」平方「キログラム」を單位とす

總ての點に於て純絹絲に劣る

以上の結果によれば二三の點に於ては餘程生絲に近き性質を帶ぶるに至りしも、何れの點に於ても未だ生絲に劣ること明瞭である、殊に染色の困難、強伸張力及び堪久力の缺乏

等の爲めに用途制限せられ、特別なる場合のみに使用せられつゝあるは已むを得ぬ次第である。

價格と產額

然るに一方價格の點に於ては漸次に成功して低廉となり現在純絹絲と人造絹絲との價格の比は約一〇〇に對する四・七五の割合である、而して產額も年々增加し、一九〇六年には世界總產額約二千八百噸なりしが、一九〇八年には五千噸に達し、僅二年間に略二倍となつた、急激の增加と云はねばならぬ、製產國は獨逸、佛蘭西、英國、白耳義、伊太利、墺太利、瑞西及び米國であるが、就中獨逸に於て尤盛大である一九〇八年に於ける同國一日の製造高は四千基瓦であつて、其實行は亦頗良好にして各製造會社は優に二三割の配當を受けたりと傳られて居る、以て需用の一端を窺ふことが出來る。

蠶絲業者の注意を要す

晩近科學進步の程度は未だ人工を以て全く自然の巧妙を奪ふことは不可能なるも、過去進步の跡に鑑みるに今後幾多研究の結果は人造絹絲の製造法に改善を來し、益生絲に近き纖維を經濟的に製出し得るに至ることは必然である、唯之れが多々益々市場に歡迎せらるゝや否やは疑問であるが或は早晩斯る商品が蠶絲業界の一部に影響を及ぼす時機の到來することあるやも計られず、宜しく我當業者は常に之れが成行に注目して蠶絲業經營の參考に資すべきである。

繭質の統一に就て

常務委員　八田達也

世の中の趣味

とは斯かるものかや、久しく下火であつた種類統一問題が昨年來急に八釜しくなつて蠶絲業界はドヨメキ初めた、夫れが諮問會となり、答申案となり、又議會の問題となつて近く來年度には具體的成案が表はるゝ樣の形になつたのは、恰も一度噴火と迄は行かずとも噴霧位に終つた火山系の山が、息火して居つたのが急に爆發して火を吹いたが、其火を吹いたのが近く固つて蠶絲業界に美しい花を咲かせ樣と云ふ、段取になつて居る、豫言者が云ふた樣に社界の事は萬事當て嵌めて見れば渦線を廻つて進步するものであるから面白いではないか、全く趣味があると思ふ、只氣の毒の事には社界政策が判らず事業の前程が見えぬ先生方は、御先き眞闇だから愚にも付かぬ御托を並べ、後になつて初めて氣が付いて變挺の事を仕出來し笑を招く樣の事にもなる。

斯る先生方には

付ける藥りは御座らぬ、當其貧少を憐むより外に同情の仕樣もないが、憫むべきは口に候事よと云ふた處で或は吾輩夫れ自身が、其貧少を憐れんで戴く當事者であるかも知れぬが余は昨年第二百十號の本紙上に於て原々種官營論の急なるを

叫んだ、そして同志者に質し併せて社會に訴ひ、其後繭質統一問題の諮問會の折も調査委員の一員として答申案を作成する光榮を擔ふた、其關係からして玆に繭質統一に就て紙面を汚さゞるを得ぬ責任があると思ふ、何故かとならばだ原々種官營は非也とする意見もチラホラ見えるし、倘本會報二百十五號には繭質統一問題の踪始末と云ふ外山博士の意見も見へる事なり旁々以て玆に重ねて一言したいのであるが一體反對者の骨子とする處の理由を並べて見れば、

一、統一すれば優良の品種を出すことが難い、何故なれば個人競爭がなくなるから

二、今日の蠶絲は未だ孰れを良種とすべきか認定し難く、且つ現今優良種を出さんとしつゝある時期なり、故に此の期に當り强制的に統一するは不可なり。

三、現在の二三の蠶種中には少くとも數十甚だしきは數百種の異りたるものを混ずる故に、淘汰の標準を明にせずして統一するときは再び原の複雜なるものに逆戻りするから駄目だ、と云ふ念入りの理由

四、生物は外界の刺戟、遺傳、食料等に依りて變質するに依り統一は不可能なりと

五、假りに原料が統一したとするも其工場が異り否同一工場でさへも製品が整一するや否や

六、繰絲法を改良し、製絲機械を改良すると種類を統一すると何れが先決問題だらうか

七、原料が雜駁でも現に選繭してエキストラを挽て居るではないか、然らば選繭する費用と、繭質を整理する費用と何れが大なるか

我輩の眼に映じた

反對の理由を概括すれば以上の七項で略ぼ盡されてある樣だ、先づ順次之に就て余の卑見を述べて見やう。

第一　繭質統一論者じやからと云ふて現在の程度に於て優良種の現出を抑へ樣とは決して希はぬ、昨年の答申案に就て熟讀せらるゝならば自然氷解せらるゝだらうと思はれるけれども、統一するならば優良種が出來ないものと認むるのは餘り早計ではあるまいか、好し假りに一歩を譲つて優良種が出來ないものとしても、其反面にはより以上の偉大なる利益が潜んで居るのを認めねばならぬ、何故なれば若しも自然競爭に任して置けば狡猾なる種屋は萬歳かも

知れぬ、左れども、一般の養蠶家こそ實に好い迷惑と云はねばならぬ。

其理如何となれば

之は優良種なり之は劣良種なりと喋八百で固められて、何時も其職性となるものは養蠶者である、今の有樣に於ては養蠶者よりも種屋の方が蠶業に對する智識は總じて一段上にあり、從て誤魔化され易い、左なきだに日に月に進む經費の影響で、生活程度の向上と、農家の懷は比較的淋しくなつて居ると涙を有して之を傍觀して居られ樣か、抑も現今の雜駁を來した主たる理由は此の種の手段の結果ではないか自由競爭に任せるも良いが、現在の程度に於る道義と自我的蠶種製造家の在る間は、多少統一する為に繭質上不利ありとするも整理して之を救濟することは必要であると思ふ、加ふるに統一するが爲に繭質に悪影響を及ぼすものとは如何に曲解するも思へないではないか、何も統一したからとて優良種の現出は止めはせぬ、止めぬのみならず積極的に之が發見を要求する、之が發見し、又之を發見する積極的手段が伴はなくして誰れが好んで統一に賛成せやう、統一論者と雖も些

御役所的の優良種

發見は運いとか手綾いとか云ふけれども、果して然るだらうか、余は之に對して殆んど答ふるの勇氣がない、自由競爭に任せて發くならば遠慮にして寿命が早いと云ふのは、そは理屈に過きぬ、只口で云ふ優良種は來年からでも云へる、併し今日個人と云ふ優良種製造家が、如何にして爲しますか、亦之を爲すの除斧あるや否やだ、多くは實質伴はずして口にのみ云ふからしてたやすく發見し得らるゝが、戦ふる處と事實相伴ふものは算盤を以て經營し、外同業者と四苦八苦の中に策を廻らして得意を引き付けんとする製種家の云ふべくして行ふべからざる實際問題である。

之即ち講習所試驗場等を待つて初めて實現し得らるべきものであつて、若しも講習所試驗場等の發見が手綾いとしたならば之を早き方法とし方法手段はあるであらう、只試驗場や講習所其内の粗雑なるものを陶汰して善良なるものに統一するは利益はあつても害はなからうと思ふ、殊に種屋が陶汰のものでなくして各處を通じての種屋が同一の種類に就て種を製造することになれば、今度は龍落手段では種は實れなくなる、勢

ひ、事業に勤めて其蠶種より孵化した蠶兒が健全に發育し、健全に結繭する樣入念に種を製造せねば、自分の得た意は他の動勉なる種屋に取られることになるからイヤでも勉強せずには居られぬ、尚養蠶者の方面より云へば同一の種を飼つたが結繭が少いか、品質が悪いか云ふ場合になれば、イヤでも自己の力量の及ばざる點を反省して飼育上に、桑園の肥培に注意を拂はねばならぬことになる、左れば双方勤勉と云ふ方向に向ふて常に向上的進路を取りつゝ、些の油斷も許さぬ民人となつたならば從來の通弊を一掃し得て國家の福利は如何に増進するか計り知るべからざるものがある、思へば諸君養蠶者なる種屋なるは得て天狗なるものだ、失敗すれば罪を種に歸し、種屋は飼育に歸す、斯くて相互に自己を反省することなく、種屋は養蠶者與し易しと笑み、養蠶者は年々御警告と御警戒なりと駄々をこねて今日に至つたではないか。

國家の前途を憂ふる

人と斯くの如くにして現今の活舞臺に立てる農民を尚自然のまゝに放任せんとするか、國家の柱石たる蠶絲業を斯かる狀態に放任して國家百年の大計登に在りと呼び得らるゝ位置に現在の本は在りや否や。

第三世の中に標準なくして統一と云ふことあり得るや否や余の信念に依れば統一すると云ふ以上は、標準あつてはじめて統一し得らるべく基準なくして統一なる意味は生れざるべきと信ず、當今の蠶種家と雖も無暗に繁殖はせぬ、一體統一すると云ふ意味を一年統一すれば其後は統一せずして放任するものと思へるにや、第三反對の理由に依れば若か思はる）抑も原々種製造所を置かんとするは其種子繭なるが故に逆戻りせしむとするを防ぐが爲なり、標準を定めずして逆戻りせしむとするは飼育上に於て原々種製造所を設くるを要せず蠶種は是等に限ると法律でも、一盤歌へば夫れて済むことなり、強て進化論やメンデリズムをゴデ附くるに及ばざる次第にして管中窺とても解釋迄付けて出す譯にも行かないから若し夫れ外山博士の口を藉りて曰へば

コンナコトはいろはのいの字でも

知つてるものには譯りつーなものである、實に學者と云ふ名の付くものゝ駄々は實業政策と云ふ方面には疎強役に立たぬものだ、或は其標準を示さぬからかも知れぬが、管中窺の七、を御讀み下さつたら治まるだらうと思ふ。

第四　生物が自然の進化或は退化などは一世代を營び間に夫れ程變化するものだらうか、今迄の進化論やなどに依れば一ケ年間一世代を經過する間に夫れ程特異の變化がある樣に承まはらぬ、ワイズマン氏でも、ダーウン氏でもだ、若し一世代の間に星が背中に付いたり桑を喰はむと副を作つたりする樣な變化が事實表はれるとすれば夫れは種類と云ひ得るだらうか、若し亦全部又は大多數がソンなに變化したら遺傳は何で說明するだらう、メンデリズムは何で說明し得らるゝだらう、意を安まずコヂツけ付け位い苦しい變異を來すものは恐らく宇宙界の蠶兒と雖も學び得ぬだらう。（未完）

てぐすの化學的組織（前承）

農學士　井上柳梧

乙、モノアミノ酸の分離

三八瓦の「てぐす」に濃鹽酸（比重一、一八）を加へ逆流冷却器を附して三六時間煮沸した、茲に注意すべきは家蠶の絲は最も容易に分解せられ、他の野蠶の絲は分解稍困難なるが、てぐすは是等に比して一層酸に對して抵抗力強く容易に分解せられず、前記時間の終りに及び漸く溶解して其溶液を取りて試むるも、ビューレット反應を呈せない樣になつた、そこで冷却して溶液を大略同容の水にて稀薄して濾し、不溶解物を分ち、是れを能く洗淨乾燥して秤量したるに、一八、二四二八瓦（四、七四ペルセント）であつた、濾過液は低壓にて蒸溜し、是れに無水アルコールを加へ、鹽酸瓦斯を飽和せしめ再び是れを低壓にて蒸溜す、此法を再度反覆してグリコール、エチルエステル鹽酸鹽を結晶せしめた、其收量六、〇瓦であつた。

グリコール、エチルエステル鹽酸鹽を分離したる後の母液は再び低壓にて蒸溜し後エステル法に從ひて遊離エステルとなし、之れを一五耗の蠶にて分別蒸溜を行つた。

蒸溜器内の温度		蒸溜液の重量	
攝氏	五〇—一〇〇度		三九、六七瓦
II 同	四五—六〇度	同	七〇—八〇度
III 同	六〇—八〇度	同	八〇—一〇〇度
IV 同	八〇—八五度	同	九〇—一〇〇度
V 同	八五—八八度	同	一〇〇—一二〇度
VI 同	八八—八九度	同	一二〇—一七〇度
		同	一七八瓦
		同	七、六瓦

是等の蒸溜液は普通の法に從ひIより III まては水を加へ鹼化して後蒸發しVは石油エーテルを加へて振とうし、VIはエーテルを加へて振りて是れを分ち、更に其殘液に石油エーテルを加へて振とうした、かくして分ちたる液は何れもバリタ水と共に熱して加水分解を終へ、硫酸によりて精密にバリタを除去して後其液を蒸發して結晶せしめた。

此の如くして得たるアミノ酸の收量を擧ぐれば次の如くである。

	供試料より の收量	乾物一〇〇〇瓦中の量
グリコール	三九、五瓦	一〇、三瓦
アラニン	七七、二瓦	二〇、一瓦
ロイシン	三二、三瓦	八、四瓦
夾雜物を有するロイシン	五、七瓦	一、五瓦
チロシン（一〇〇瓦より）	九、五瓦	九、五瓦
アスパラギン酸	一、三瓦	〇、三瓦
フェニルアラニン	一、一瓦	〇、三瓦
プロリン	少量	微量

グルタミン酸及セリンは遂に發見することが出來なかつたセリンの存在すべきVV及VIの石油エーテル浸出液は鹼化して結晶せしめ、更に再結して分析したるに、ロイシンとセリンとの間の結果を得たから、多分ロイシンとセリンと混在して居る樣に考へらるゝフェニルアラニンは鹽酸と鹽化プロリン及アスパラギン酸は何れも銅鹽を造りて是れを識別し得たのである。

チロシンは別に一〇〇瓦の乾燥せるてぐすを取り、是れを前法と同じく濃鹽酸によりて分解して後其不溶解分を去り低壓蒸發によりて鹽酸の大部分を去り、此液より析出せしめたのである。

斯くして得たアミノ酸エステルを分溜せしめて尚殘れる殘渣は水を加へバリタ水と共に煮沸し、是れを鹼化せしめ、硫酸によりてバリタを精密に除去したる後低壓にて蒸溜したるに、黏狀の結晶を得た、此結晶は強きミロンの反應を與へ、チロシンを分離したる液は硫酸を加へて約五ペルセントとなし、是れに燐オルフラム酸を加へたるに、著しく沈澱を生じた此沈澱にバリタを加へて分解し是れを濾過し、バリタの過剩を硫酸によりて精密に除き低壓にて濃蒸したるに結晶の物質を得、遂に結晶は得ることが出來なかつた、此結晶物は水に溶けて酸性を呈し、燐オルフラム酸によりて沈澱せらる、然して微綿なる、ビウレット反應と著しきミロンの反應とを與へ、一種のポリペプチドなること推察せらるゝ結晶せざる爲め、分離すること出來ず、已むを得ず、銅鹽として析出せしめんとして再び是れを温水に溶解し普通の法によりて銅鹽を造りて見たが稍々結晶性なる鹽を得たるも、未だ充分分離すること出來ず、よりて比較的結晶性のもののみを集めて硫化水素によりて銅を去り、再び他の法によりて此化合物を分離し其組成を探らんと勉めて居るが、未だ茲に報告する迄には行かぬのである。

岩手縣盛岡市蚕業講習所生徒蠶室

丙、分離せるアミノ酸の分析

（一）グリコ、ール、エチルエステル鹽酸鹽

粗製結晶をエチルアルコールより再結して無色柱狀の美しき結晶を得た、此結晶は攝氏一四度の臨點を持つて居る其一部を其之空中にて攝氏一〇〇度に於て乾燥し、鹽素の定量を行ふた。

供試料　〇、〇九四瓦

測定したる鹽素の量　〇、〇二三八九瓦

計算數（$C_2H_5NO_2Cl$）　實驗數

鹽素　二、五四三　二、五四一

（二）アラニン、水溶液にアルコールを加へて再結し、攝氏一〇〇度にて乾燥す。

供試料　〇、一七九六瓦

窒素量　〇、〇二八三九瓦

計算數（$C_3H_7NO_2$）　實驗數

窒素　一五、七三　一五、八〇

（三）ロイシン、温水より再結し、攝氏一〇〇度にて乾燥す。

供試料　〇、二〇五〇瓦　窒素量　〇、〇二二〇九八瓦、

てぐすの化學的組織

	計算數（$C_{15}H_{23}NO_6$）	實驗數
窒素	一〇、七〇	一〇、七七

（四ナトロシン、温水より再結して攝氏一〇〇度に於て乾燥す。

供試料 〇、二瓦　窒素量 〇、〇一六一八瓦

	計算數（$C_{15}H_{23}NO_6$）	實驗數
窒素	七、七五	八、一〇

普通絹絲の分解によて生成せらるゝものアミノ酸は已に大略知られ居るものにして、其結晶形狀及特種の反應によりて大體認識せらるゝのなれば、元素分析は單に窒素の量を測定するのみに止めたのである。

てぐすの中には有機鹽基を含有すること少量であるから、此定量は省略したのである。

四、他の野蠶絲と比較

已にてぐすの組成も大略知られたので有るから、是れを他の已に知られたる絹絲の組成と比較することはてぐすの性質を知る上に於て極めて必要なることである。

各種類の絹絲の成分との比較表

	家蠶絲	柞蠶絲	天蠶絲	栗島繭	てぐす
水分	二、〇五	二、〇五	二、〇五	一〇、六六	二、〇五
乾物	九、七〇	八、六四	八、六四	八、九四	八、九四
灰分	〇、五四	〇、八〇	四、六六	三、六六	〇、一
全窒素	一、六八	一、七七	一、七五	一、七八	一、七八
蠶糞に可溶分中の窒素	一、六八	一、七七	一、七五	一、七七	一、七四

蠶糞に可溶分中の窒素　〇、二四　一四、六　〇、四四　〇、四四　〇、四四

全窒素一〇〇分中　六、四四　八、七四　四、六六　六、六四　六、六四

同　不溶分　九、四四　一四、六　三、六六　三、六六　三、六四

蠶糞中アムモニア窒素　一、六八　一四、六　一、四四　一、四六　一、四六

同上窒素分解酸化物　一、六八　一四、六　一、四四　一、四六　一、四六

同上其他の窒素（アミノ酸類）　九、六四　九、七四　四、六四　四、六四　九、六四

各種絹絲のモノアミノ酸類の比較表（乾物一〇〇瓦中より得たる量）

	家蠶絲	柞蠶絲	天蠶絲	栗島繭	てぐす
クリコ、ール（マルヴィリン）	〇、〇一〇〇	〇、一一〇〇	〇、一四	〇、一四	〇、一四
アラニン	三、〇	四、六	四、六	一四、六	四、六
ロイシン	一、四	一、四	一、四	一、四	〇、八
フェニルアラニン	一、四	一、四	一、四	一、四	〇、八
ブロリン	〇、四	一	一	一	一
グルタミン酸	一	一	一	〇、八	一
セリン	一、四	〇、八	一	一	一
チロシン	一、四	一	一	一	一
アスパラギン酸	一、四	一、四	一、四	一、四	一、四
以上比較せる結果を見るに	一〇〇	一〇	一〇	一〇	一〇

てぐすは強鹽酸に可溶分中の窒素及アミノ酸の窒素の多量なる點、灰分及び有機鹽基の甚だしく少量なる點アラニン及チロシンの多量なる點に於て其化學的組成に於ては他の野蠶絲よりも家蠶絲に類似せるものと云はねばならぬ。

附記

以上の分析は主として恩師鈴木博士の指導の許に當られたるものにして終始鴻はいたる同博士の厚き親切なる感謝すると共に常に多大の援助を與へられたる大恩を深く謝す

集芳

波斯の蠶業

農學士　廣瀬次郎

本文は同蠶業顧問佛國人ラフオン氏が佛國農學會月報に寄稿せられたるものに敢き起草したるものなり同氏は佛國蠶業試驗場場長として勤務中も好成績を擧げたる人なれば著者は氏の經歷に鑑み波斯の蠶業に關する觀察は正當なる信ず

養蠶に從事する者は貧弱無智の小農

波斯は往時支那帝國及び歐洲諸國間の交通の要路に當り、絹の貿易市場として重要なる地位を占めたれども古代同國產の絹布は原料を支那に仰き、其生絲を輸入し來りて染織したものである。養蠶業の傳來を受けたるは西洋紀元六世紀であつて、其頃セリックと呼ばれたる今日の小アカリ地方を始めとするも八世紀に到りアラビア人帝國建設せらるゝに及び波斯も同帝國の範圍に屬し、從て養蠶も漸次隆盛し、アラビア人は之を根據として地中海沿岸の地に及ぼし、遂に歐洲諸國に傳播したるものであつて波斯の蠶業は千六百年代に最高潮に達しギーラン地方のみにても絹絲の產額は殆んど三十四萬貫ありしも戰亂の影響を蒙り千七百年代には此の六分の一に減じ以後漸次增加して子八百五十年には二十七萬貫となり、其の六割は歐洲に輸出せられた、然れども伊佛諸國と同じく微粒子病の蔓延に遇ひ再び衰退して桑園の荒廢に歸せるもの多く桑葉は全く他を佛ふの悲境に陷つたけれども千八百九十年（明治二十三年）以來士耳其より毎年蠶種輸入の道開けたから又養蠶に從事する者を生じ近年は十一萬貫乃至十三萬貫の生絲を生ず即ち五六百萬基の生繭を收獲するけれども、之を二三百年前の盛時に比すれば今昔の感に堪へない、而して全國到る所風土養蠶に適するに拘らず、古より今日に到るまでギーラン地方のみに盛んであつて常に總產額の十分の八以上を占ひる古代ペルシタン地方は戰亂の爲め灌漑用の水路を破壞せられた、一般の產業衰退し絹業に就きても亦觀るに足るべきものはない、同國の耕地は概ね政府寺院及び貴族の所有に屬し、國民上下の間に貧富の懸隔甚だしく、教育が行はれないから、國勢衰弱し、一般に知識乏しく桑樹及び蠶室も主の所有するもの多く彼等は都市に住居し、小作人を頭みないから、實際養蠶に從事する者は貧弱無智の小農である。

波斯の栽桑業は如何

波斯原產の黑桑は支那より輸入繁殖したる白桑、本邦の桑と同一種に比すれば業況甚だ劣るから、今は之を飼育に供する桑殆ど無い然れども其實は味が良好であるから果樹として住宅附近に少しく植付け飼くものもある、白桑は到る所に栽

植せられ、蠶室の減亡せる地方には桑く老廢するものも少くない、栽培の方法は頗る簡單であつて果實用の黒桑を除の外は專らに實生苗を用ゐ風土の變遷に或は多く數の嫌花を生じて業者の間に、普劣等であつて收穫少なく或は多く數の嫌花を生じて業者の間に、蠶兒の孵化よりも著しく遲るることがある、又鍬園病の爲めにも收業量を減ずるものが多い、播種は六月下旬桑樹の成熟したるものを採り、袋に入れ、二三日間浸水し、後に下種し、桑、天の續くに、洗滌して苗圃に移植し、若し水を引くことの出來ない場合には、冬の末に之を掘取りて貯蔵する、代價は長さ一尺六七寸のもの千本に付き三十錢乃至五十錢であつて直に畑に定植する、桑畑一町歩の新設費用は苗木及び植付費を合せ凡そ百圓であつて、要する場合には別に六十圓を加ふると云ふことである、新設費を地主が支辨する場合に於ても、牛、馬の侵入を防ぐべき周圍の如き垣は小作人の負擔であつて、毎年小作人に一町歩に就き地主は米二石を給與し、蔬菜收穫の一半を收むる、苗木植付の賦幅は凡そ三尺三寸であつて株間の距離は其半である。植後二年間は必要に應じて灌漑及び除草し、三年目より枝條を刈取りて飼育に供用するれども、五年目に到らなければ充分なる收穫を期し難し、仕立方は高さ刈であつて幹高は一尺七寸乃至五尺とする、刈取るには鎌を用ゐ、切口が亂雜であつて且木及び植付費を合せ凡そ百圓を加ふると云ふことである、新設費用は苗代、畑、地面に到る迄で各部より要する人夫、此より以下は略す。

幼樹の間に豆類瓜類茄子等を植付し、世界各國と競爭上重大の關係を有する蠶兒の飼育は蠶業に於ける最も重要なる技術であつて、斯業の中心を形成し、而して國家及び個人の努力によりて改良し易きものである、然れども此點に關し其利害を比較するに當り、好良なる尺度を有せざるため、公平の判斷を下すことは出來ない併し出來得る限り善良の比較をなさんがために、左に余の信ずるところを述べやう。

養蠶家の注意を要すべき點の主なるものは養蠶場の組織であつて、蠶室の建築及び蠶具の選擇に關する、此等組織の選擇は一度之を定むるときは容易に變ずることは出來ないものであつて、蠶室及蠶具の構造に就て

岩手縣農業教諭
農學會員　田村兼造

より發生せる枝は早く刈取りて稚蠶飼育の料に供し、次端より田てたる良枝を挿蠶期に刈取るものとするのである、前記の如く植付より十年乃至後には衰病老候を呈し、苦類を稀着せしめ肥地にありても二十年を過ぐれば改植を要する、但し道路の空地又は郡内に二三本づつ離植したものは三十年以上の老樹にても能く繁茂するやうである、肥料は全く之を用ゐず、耕耘も蔬菜を間作する場合でなければ殆んど行はなく、ギーラン地方の桑畑反別は凡そ三萬町歩であつて近年稍々増加の傾がある。（未完）

永年間其利益不利益を與ふるものである、而して又新に之を擴張し、或は改良せんとするには、又之に應ずる資出を要するから其初めに當りて技術的及び經濟的方面より之を觀察して過りなきやうにせねばならぬ。

國「フランドル」州の小作人の住家は畜と平屋であつて、平屋は元來二棟式屋に比すれば獨合に土蠶屋等を要することが多いから、建築費多きを要するけれども、總て仕事をなすに便利であつて殊に穀倉殿場の如きも狹くして高からんより、寧ろ廣くして低い方が利益が多い。

茲に二種の農具ありて一は廉いが他は二倍の高價なるものと假定したならば高價なるものを購求するには一時多くの費金を投ぜねばならぬ。然れども永久に堪ゆるから、速に磨滅して等カ費銀は徒費とよりとなるが、故に農家は甚だ貧くない儲夫の費銀は貴く金利の安き場合に於ては高價なるものを購求するが良い、疎薄なる農業組織に於ては其屋根を葺ふに菱稈を以てするのが利益があるけれども、然れども茲に注意をせねばならぬ、然れども茲に注意をせねばならぬ、然れども茲に注意をせねばならぬ器具を設備せぬものが多い、然れども茲に注意をせねばならぬことは蠶室を二棟三棟建てとなし、貯桑場は多く土壁とするの風習である、又福島地方の如きは天井高き平屋となし、其中段に厚板を架し、以て二棟仕掛となし、又蠶具の如きも蠶座を使用する習慣である、近年折衷して蠶座に代ゆるに圓形の平籠に蓬を敷きて使用し、又秋田地方の如きは板で平籠を造り、之に藁を敷きて蠶座としてある、此等本邦に於ける風習は「ロッセエル」博士の說に反するもの、今後擴張し、改良を計らうとすれば、二棟三棟造の蠶室を改めて平屋造となし、其壁も板壁となして、蠶室の洗滌及び消毒に便し貯桑場の如きも改めて平屋造となし、養蠶前後に之を洗滌消毒し、又藁を貯蔵する場合には室氣を流通せしめ得る裝置となし、又蠶座の如きは信州形とせねばならぬと信ずる。

蠶種の統一に就て

農學會員　池田幸之助

西ヶ原と小縣蠶業學校との試驗は如何に……

蠶種を統一すれば輸く生絲統一の實を擧ぐる事が出來るであらうか、此事に就て吾輩は今より十五年前に「現今の如くに絲況の宜しい時には製絲家は夜業までして唯多量の絲を製造するに過ぎなるやうでは、繼ひ蠶の種を一定しても生絲の統一は駄目である」と云ふことを會報で論じたことがあつた、然るに近頃生絲統一の目的を以て蠶種の統一と云ふことが當業者の間に題となり時で政府の同意する處となりて是が準備に取掛られる樣であるが、是は確に幾千の効能はあるに相違ある事は明白であるが、前々號の會報で田村君も論じられた如く、唯此蠶種を統一したのみで同意者が期待するが如く

に生絲の統一を完ふすることが出來るであらうか、吾輩の見る處では田村君が一製絲法の統一は最も急の急なるものの一と云ふ點には幾頭尾同盛で其他桑類と育法の統一に大なる關係あり點に就ては成を同ふするものであるが、サテ細かに吟味したならば同君の所論中にもあると如く一蛾の產みたる種ですら必ずしも同一の繭が出來る限りでない位であるから一全國の養蠶家をして一定の一飼育の標準に依て飼育せしめた處が、其他の關係で、必ずしも同一の中高動が第一位を占め、且返が最劣等

青森縣立弘前高等女學校
校庭の桑園

青森縣立弘前高等女學校
蚕室の蔟製

青森縣立弘前高等女學校
蚕室の飼育

青森縣立弘前高等女學校
蚕室の色染

青森縣立弘前高等女學校
蚕室の煮剤

青森縣立弘前高等女學校
蚕室の繰糸

青森縣立弘前高等女學校
蚕室の織機

になるとは云ふことは何でも良いとは出來ないが、して見れば蠶種、桑樹、飼育法を統一する時は今日よりは確に統一に近づくには相違あるまいけれども、これが人々の期待する如く繭も一定し、一定の實が擧がるであらうか、況んや單に蠶種の統一に於てをやである。

何故に製絲法の統一に賛成するか

蠶種の統一でもあるから、縱ひ一定の原料を提供しても、彼の紡績綿絲を製造するやうには行くまいと思ふ、是れ田村君の一製絲法の統一は最も急なるものと云ふ、說に共同意する所である、尙本邦の生絲に品質價格に大差あるのと清國の在來絲と改良器械絲とに霄壤の差あるは果して原料の不統一より來るものか、製絲法の如何に由れるものなるかを吟味したならば蓋し思半に過ぐるであらう。

褒賞金五十萬圓を投ぜよ

そして蠶種を統一するも良いが吾輩の希望するのは其原料繭の統一に止まらず腦漿と勞力と經費の一半を郵便貯金に投ぜしめたいのであるが、茲に政府は適當の規程の下に生絲檢査所に於て檢査をなし、需用に適する優良なる蠶絲に對し一箇に付き十圓なり二十圓なりの褒賞金を與へて改良を促したならば、其結果が果るであらうと思ふ、此經費は賞格に入るもの一箇年に五萬箇あり、一箇平均十圓づゝ與ふるとしても僅々五十萬圓で輸出額の殆と二百四五十分の一に過ぎないのであるから、本邦唯一の物產の爲めに此位の支出は何んでもないことであらう、若し如斯奬勵をするときは競て改良をするやうになり隨て原料も必要上吟味することになるから養蠶家の方も製絲に適する繭を生產することになるであらうと思ふ。

郵便貯金の利用

僞用けて曰ふのだが、製絲家が資金の運轉に窮する爲め外商から足元を見透されて泣く〳〵投資を餘義なくせられる事

造するやうには行くまいと思ふ、是れ田村君の一製絲法の統一は最も急なるものと云ふ、說に共同意する所である、尙本邦の生絲に品質價格に大差あるのと清國の在來絲と改良器械絲とに霄壤の差あるは果して原料の不統一より來るものか、製絲法の如何に由れるものなるかを吟味したならば蓋し思半に過ぐるであらう。

褒賞金五十萬圓を投ぜよ

そして蠶種を統一するも良いが吾輩の希望するのは其原料繭の統一に止まらず腦漿と勞力と經費の一半を郵便貯金に投ぜしめたいのであるが、茲に政府は適當の規程の下に生絲檢査所に於て檢査をなし、需用に適する優良なる蠶絲に對し一箇に付き十圓なり二十圓なりの褒賞金を與へて改良を促したならば、其結果が果るであらうと思ふ、此經費は賞格に入るもの一箇年に五萬箇あり、一箇平均十圓づゝ與ふるとしても僅々五十萬圓で輸出額の殆と二百四五十分の一に過ぎないのであるから、本邦唯一の物產の爲めに此位の支出は何んでもないことであらう、若し如斯奬勵をするときは競て改良をするやうになり隨て原料も必要上吟味することになるから養蠶家の方も製絲に適する繭を生產することになるであらうと思ふ。

郵便貯金の利用

僞用けて曰ふのだが、製絲家が資金の運轉に窮する爲め外商から足元を見透されて泣く〳〵投資を餘義なくせられる事がある、之れに就ても政府は郵便貯金で吸收した金でも利用して需用に適する優良蠶絲に限りそれを擔保にして郵便預金位の低利で貸與し、以て良品の投資を救ふことにしたならば一は益々良絲の製造を促し一は絲價を保持する上に於て頗る有効であらうと思ふのである。

本邦第一流のドクトル方の診察

ヨモ誤診はあるまい

之を要するに現今本邦の蠶絲業は大患に罹つて居るやうなもので、之れには根本的治療を施さなくてはならぬと云ふので、ドクトル方が、先づ蠶種の統一と云ふ處方に取極められたのであらう、本邦第一流のドクトル方が全體の容體より脈診に聽診に打診に充分なる診察を遂げられた結果であらうから、寔より誤診などのあらう筈もなく、又處方も當を失するやうなこともなからうけれども胃病患者に對して先づ適切なる健胃劑を投ずる事を後にして强壯劑にのみ留意するやうなこともある、そうであるから藪醫の資格もない吾輩ではあるが、茲に聊か卑見を述べて見たのである、潛越の罪は幾重にも御赦しを願ふ。

蠶種消毒論（前承）

農商務省技師　小岩井宗作

養蠶法に就て

從來の養蠶法は、蠶種及其物の消毒を要件中に置かなかつたから、其初生蠶には撫帶園を有するものと、有せぬものとありて、之を同一飼育法に律せむとするが故に、撫帶園を有するも如何にせば其發病を免れ得るかを講究するにありとせねばならぬとは、前に既に之を言つた。

偖て撫帶園蠶兒を其發病を免れしめんとするには、勢ひ繼て生理上蠶兒に不適とする條件は、盡く之を避くるを必要とするから其養法や撫帶園なき蠶兒を飼育するに始めて能く成功すと云ふに歸着するであらう。

如上老蠶の部は、御来だ養蠶法の原理に到達するものにあらざるは明てあるが、之をして其の原理に一致せしむるには、所に於て飼育をなす事之れである。此附加條件は今日完盛に行はれつゝある處のものである。

是に於て本養蠶法原理の根底は確立すべく、傳染原なき蠶種を、傳染原なき場所に於て飼育するを以て原則となすべきである。今蠶種消毒の見地よりすれば、撫帶園なき蠶兒を

といはねばならぬ。

然れども養蠶は斯く困難な業ではない。見よ、目に一丁字なき老婆が、茅屋隅蔭の施設なくして美味の果を擧ぐる者多くある事を。此業の易き事を見て此難きを見る之に由て之を觀る、其業の易き事を見て此難きを見るのである、古人は、三人行けば必ず吾師ありと聞つたではないか、試に此等老婆に就て、其養法の極致を問へ。言下答へて云ふて曰く「良い種を飼て桑を與へれば蠶を造ります」と。言葉に無造作のやうだが、至趣極致を盡すの語は、實に傳染病原なき蠶種を意味するものではないか云ひ換へれば、傳染病原なき蠶種は簡單無造作の飼育により

病閑なる場所に飼育するに一致する。既に此の如くなれば、蠶兒は生を保ち得るの食料と空氣と溫度とあれば、夫れに準ずるの發育を遂ぐべく、蠶兒が理學的外因によりて、直純なる生理的發育を致すの幅員は甚だ廣きいから、餘程の刺戟餘程の障害も蠶兒を病せざるに至らぬてあらう、從て悲慘なる蠶の事實は之を根絶するを得べきやの明かである。

此の如くなれば、養蠶法は極めて具體的となり、其巧拙の分散點は蠶種買の上に止まるに至るてあらう、養蠶法講究の目標も蠶種買の上に集中するを得るに至るてあらう。今日は此の如き養蠶法を名けて、具體的養蠶法又は進取的養蠶法と名付けやうと思ふが、どうてあらう。

更に目下の養蠶界を見るに、相反する二大思潮が奔流してをる。一は戰後事業界の膨脹より生じたる勞銀の騰貴に依り、所業の經費を困難ならしむるとするに出づるもの、てあつて、集約養法より粗放養法に還元せしめんとするもの、即ち復古主義とも名くべきものであつて、檢飼安樂飼の如きものの是れである。一は我國生產生絲の價格の低落を防ぎ、販路の維持を確實にせむとするものであつて、生絲の優歩整否を蠶種類より導かるゝものとなし、蠶種を統一せむとするの是てある。

此兩者の結果は、全く反對の方向にあつて、共に直ちに實行すべきものてはない。而して養蠶家は安樂飼の方向に趣き易く、製糸業者は、一論に傾き易い方向に赴きたりとせば、どうであらう。製糸業者が二十世紀養蠶法と稱へて、悉く安樂飼に赴きたりとせば、どうであらう。製品の廉價を維持する事を得るかドウかを保し難く、自己身體の肉を以て自己の腹を肥さうとするにも似てをるてはないか。又今法を設けて蠶種一論を決行したりとすればドウであらう今日の製糸家の品性と全國桑園の荒廢とを以てしては、今日の生絲を生產するは覺束なきに至るは、知て蠶種の健性を損し、遂に繭を以てして生絲の强度色澤を損ずるもの多きを致さむのみである、自己額上の大汚點を拭はずに、他の帽子の冠り方を正さうとするにも類してをるてはないか。

然れども兩者の根原に測れば其歸着する所は同一てあつて唯其方向を異にするのみである。要は勞力を節減して優良多産なれば足れりとするに過ぎない、此兩者を中和し、或る程度迄之を一致せむる事を得るのは蠶種を絕無ならしむる事に存する事に存するのである。

養蠶に從事して最大の願望は蠶てある、既に蠶なきを期するを得ば、一面養蠶家は其主力を成繭の品質の上に注ぐを得べく、繭は以て桑園の復活に資すべく種類も亦絲量絲質の優良なるものを要求するに至るべく、强制を要せずして一の途に就くを得るてあらう、更に一面には卿大事主義による防禦的空勞徒費は之を節減するを得て、手段を異にするも、目的を達するを得るのみならず、安樂飼其物の如きも、蠶の危險を除外して、其施設をなすとすれば、亦發展の成算なしと云ふことを得ない、然るに、蠶種業者は、蠶種の種類を作爲する事と、上蔟の方式を轉換する事等に依りて、米國的大養蠶家の成立を見るの日あらむ事を蠶期し得

べきものである。急務は、而して當面の最高率の産額と最廉價の産品とを得るに在るのである、進取的養蠶法の本領は實に此に外ならないのである、能く其急務に適中するのみならず、益々其發展を期待らるいであらう、去れば、徒に枝葉末節の理想に走り、展々と冠々と轉倒するの愚を演ぜむよりは、養蠶法根本の缺陥を充實して、蠶病の流行を防遏し、基礎を盤石の上に設て進取發動の根據となし、銀意改善に務むるを可なりとせむ、是に於てか蠶業の國是亦自ら解決を見るに至るであらう。（完）

●蠶業の二大革新

土佐蠶業講習所技師の調査なりと東京毎日新聞に掲げられたるものは次の如く紹介せられたり本年の豚疫亦蠶業特殊の害蟲なり繁す蚊中蠶界の前途に横ほる其進展實蠶統一の▲養金發展養蠶組合の設置は蠶業の一大革新にして目下本邦の蠶業は未だ幼稚なる為に其進歩は僅に十三倍半間に於て八萬石より一躍して三萬餘石に上り、製糸高に於て四萬九千餘貫より二十五萬餘貫に進み、前者は三倍、後者は五倍の増加を示せり、此の如き發達は全く蠶種に見るところにして以て同蠶が如何に蠶業に適し、官民協力して蠶業の發展に盡瘁せるかを知るを得べし、實に全國蠶業地の模範として吾人の路程を奏するところなり、加之名古屋市は東西南北の中央にして商工業の中心地となり商工願る盛にして大阪の蠶を摩せんとするの勢あり、殊に三月十六日より三府二十八縣聯合共進會の開かるゝあり、各縣の生糸蠶種等を親の現況を知り来年を察するを得る一般産業及武事に照合して現況を知り来年を察するを得るものあるを以て或る意味に於ける蠶業大共進會なり、否其多方面なる點に於て、其大規模なる點に於て宗前の蠶業博覧會だり總合會開くの地蓋し少に過ぐるものなけん、即ち昨秋来同縣當局者と交渉する處ありたるが、熱心なる當局者能く本會の交渉に應じて諸般の準備を整へ一面至誠以て會員の大募集に努力せられ一舉にして六千餘名の會員を増募せられたり、是に於てか、會場を名古屋市縣會議事堂と定め、日を三月二十七日と下し、總裁殿の台覧を仰請し奉ると同時に左の諸氏を委員として大會の準備其他を依囑せり。

委員長　津野一三　副委員長　高橋要次郎

委員

芝山直清　堀江良二　山田島次郎　大塚右八郎　橋本定吾
田口百三　前田健次郎　吉見治兵衛　伊藤喜平
近藤友右衛門　前田清　高橋鶴三郎　大塚右八郎
川村吉六　山崎越吉　三輪久三郎　堀尾武治
森田高吉郎　荒山知一　小野田義助　柴田才一郎
桜木常吉　柴田常三郎　中村平左衛門　野村榮宮知
大林宇吉　増藤安太郎　吉原鶴太郎　原彌三郎
加藤亜三郎　武原長太郎　山田正　水文雄
岸田清　高木五郎　宮正治　橋本定吾
田中保太郎　上野良次郎　協谷義純　樋木秀盛
田中徳英　斎藤巳太郎　上野儀二郎　島内鶴
井深基　村上金一郎　大日吉六　水原勝太郎
内田勝起　白井勝次　井上文作　小林猪太郎
後藤謙治　大塚茂市　内田鶴次郎　村瀬林平
磯部程治　近多野健三郎　安知治三郎　倉田常吉
高野松次郎　安藤亀一郎　桜水良太郎　鈴木治郎
安藤巻美　水野常次郎　武市栄三郎　浅井太郎吉
伊藤禮治　山田順三郎　山本秀次　荒木鶴蔵
晨野常次郎　河合直三　本田寶之助
弁上喜市郎　中山英作　福井茂吉　伊藤米四郎
安藤久三郎　村上喜内　小野田勝平　高橋庄作
鈴木豊郎　正田武次郎　小林初太郎　加藤治郎
高瀬勝次　加藤林三郎　澁田義右衛門　瀬戸久藤
加藤林三郎　福谷元治　加藤義次郎　亀岡孝藤
竹村其次郎　林幸治　加藤和一郎　自岩久八
杉浦原七　高瀬鹿作　桜崎者三　向坂吉鶴
加藤弁次郎　田力作　三矢與六　井羽三九郎
鈴井常次　加藤徳太郎　柳原新一郎　鶴瀬

抑も愛知縣は其牧蠶高に於て全國の第四位を占め其製糸高に於て第二位せり、而して歴史的に觀察するときは往時は僅か十三倍半間に牧蠶高に於て八萬石より一躍して三萬餘石に上り、製糸高に於て四萬九千餘貫より二十五萬餘貫に進み、前者は三倍、後者は五倍の増加を示せり、此の如き發達は全く蠶種に見るところにして以て同縣が如何に蠶業に適し、官民協力して蠶業の發展に盡瘁せるかを知るを得べし、實に全國蠶業地の模範として吾人の路程を奏するところなり、加之名古屋市は東西南北の中央にして商工業の中心地となり商工願る盛にして大阪の蠶を摩せんとするの勢あり、殊に三月十六日より三府二十八縣聯合共進會の開かるゝあり、其蠶業に志ざすと全國の人皆茲に蝟集し来たり、各縣の生糸蠶種等を親の現況を知り来年を察するを得る一般産業及武事に照合して現況を知り来年を察するを得るものあるを以て或る意味に於ける蠶業大共進會なり、否其多方面なる點に於て、其大規模なる點に於て宗前の蠶業博覧會だり總合會開くの地蓋し少に過ぐるものなけん、即ち昨秋来同縣當局者と交渉する處ありたるが、熱心なる當局者能く本會の交渉に應じて諸般の準備を整へ一面至誠以て會員の大募集に努力せられ一舉にして六千餘名の會員を増募せられたり、是に於てか、會場を名古屋市縣會議事堂と定め、日を三月二十七日と下し、總裁殿の台覧を仰請し奉ると同時に左の諸氏を委員として大會の準備其他を依囑せり。

委員長　津野一三　副委員長　高橋要次郎

本會第五回總會錄事

開催地は花の名古屋

木邦の蠶絲業は近時著大の進歩を爲したりと雖も、尚各蠶業地の生産狀態を審査し及良し、技術の進歩と學理の普及とを圖りて斯業の進歩は府縣に技術官のあるあり、學理の普及は各地に技術教育機關を設置するところなかる可らず、而して技術教授の方法は東西相比し、彼此相乘除し、互に其の短を捨て其の長を採るに如くはなし、而も其効果は未だ以て全國蠶業の普遍的發達を望むべからず、而も此の如き點に至りては尚遺憾を免れざるが如し、此秋に方りて適地に本會を開催し全國の學者一當業者を一所に會し、互に異説別法の論議習得し一面斯界の勞功者を賞奬して範を全國に示すは斯業の發展振作上極当を得たるものたるべしとの見地より、本會は以て第五回總會を伊勢宮殿下の御渡英前に於て開催せんと企て先づ之が開催地を東海道の蠶地愛知縣下に卜したり。

河合程平　坂本宇一　加藤々入　俵湧榮
齋藤謙吉　辻村市太郎　大林治作　安藤伊八
中村寅三郎　野村播太郎　本郷金三郎　櫻井晋吉
白井釜嶺　木村新太郎　太田米吉　加藤米太郎
森作吉　三橋得三　赤瀬造　黒田豐太郎
福田戊永郎　竿田秀靜　三澤露平　小野猶郎
小野房若　秋山直三　奥田助七郎　山下倉太郎
大塚久永郎　湯田安太郎　有光甄茂喜　水山駐德
世間瀬千代松　中野喜平　大島德太郎　松田一吉
松山清松　橋本久樹　坂環雄藏　河合謙
松本鈴吉　熊谷嘉七　小竹政治

右委員諸氏は爾來東西に奔走して準備に於て些の遺憾なき迄に十二分の用意をせられ、本會亦臨時報告によりて檄を東西の會員に致して之を誘引し、之に鐵道割引券を送付して參列者の便に供したり。

總裁殿下新橋御發車

總裁宮殿下には日英博覽會總裁として御渡英の序を以て我第五回總會へ台覽あらせらるゝ爲、三月二十六日午前八時少し過ぐる頃、馬場別當、塚田御附武官、御牧家令以下を從へさせられ、カーキ色の大將服にて御機嫌麗しく新橋停車場へ御着、御見送の爲同じく成らせられたる閑院宮、久邇宮、竹田宮、華頂宮、東伏見若宮、各殿下を始め奉り、桂首相以下寺內、小村、平田、後藤、齋藤、岡部、小松原の各大臣、大山、東鄕、乃木、川村、柴山、西、大島の各大將、德川貴族院議長、九條鷹司の兩公爵、德川頼倫伯、同達孝伯、石井、石本、押川、河村、一木、岡田、財部、仲小路の各次官、柴田、內閣書記官長、龜井警視總監、阿部府知事、尾崎市長、其他宮內省、農商務省の各局長、政黨員、實業家等無慮數百名の奉迎を受けさせられ、少時御休憩の後八時三十分發の御召列車に御搭乘、大浦農相、馬場別當、塚田武官、御牧家令、本會本多理事以下の諸員を隨へさせられ、各員奉送の內に御氣色麗しく御發車相成りたり、此日連日の細雨猶歇まず、御召車は絲の如き春雨に車窓を打たせつゝ、花には早き東海の野を疾驅す。

總裁殿下名古屋御着……知事以下の奉迎

長亭、短亭幾十驛、熱誠なる沿道官民の奉迎奉送の聲に或は迎へられ、或は送られて御召列車は午後四時十二分恙なく清掃せられたる名古屋停車場プラットホームに入れり。

御召列車より静に降り立たせ給へる殿下には同停車場に奉迎し給へる梨本宮殿下、深野愛知縣知事、渡邊第三師團長、黒澤第五旅團長、加藤市長、藤田控訴院長、手塚檢事長、深野地方裁判所長、縣高等官、本會役員及び會員以下に御會釋を賜ひ、飯田驛長の御先導により、直ちに縣廳より差廻しの御馬車に召させられ、深野知事御先導申上げ盛裝せる市街を歡喜に滿ちたる市民及會員小學校生徒の送迎を受けさせられつゝ至極御滿足の御氣色にて細雨霏々たる間に御旅館百春樓へ入らせられたり。

共進會場へ御成

明くれば三月二十七日、本會總會の當日なり、快晴ならば駘蕩たる春風面を掠めて人の心、花の姿、清新掬すべきものあるべきも雨未だ歇まず、寒氣坐に身に染むの感あり、此の如き天候にも拘はらず畏くも皇國の產業に御心を傾けさせ給へる殿下には早朝總會御臨場前共進會場へ御成御出され、九時過ぐる頃塚田御附武官赤池警務長以下を隨へさせられフロックコートに高山帽を召させられ、憲兵先驅の下に御馬車にて共進會場へ御成あらせられたり。

是より先共進會に於ては正門北側の改札口を撤去し殿下の台覽を御待ち申上げたるに百春樓を御出發あらせられたる殿下は御順路を正門通りより東に噴水塔を左迴し、正門より胡蝶池の橋を渡らせられ、十時無事待賓館に御着御あり、御先着の大浦農相、深野知事以下玄關に御出迎へ申上げ、御座の間にて暫時御休憩後望樓に上らせ給ひて四圍の風光を御展望させ給ひ、間もなく知事の御先導にて本館北側の入口より農產第一區を西へ本館を南北に貫通する大路を北へ蠶絲館より順次工產第四區第五區を台覽あり、特に蠶絲館には精細なる御眼を注かせられたるは吾人をして例に驕らせ給はず斯業に御心を寄せさせ給ふことの深きに感泣せしめ給へり、其他工產第一區に於て大阪旭硝子合名會社出品ソーダ、タンブラーと云へる洋盃を御手に取りて御覽あり、日本陶器會社出品陶器、紀州綿フランネル等に御眼を止めさせられ、其間絶えず御奬勵の御言葉あり、然るに時計進みて早くも我總會開會の定刻に近けるより此旨言上申上げたるに畏くも

時間がなければ共進會は見ずとも總會へは臨む

との有り難き御諚を賜ひ十時三十分御機嫌麗しく待賓館より差廻しの御馬車に召させられ、正門より御順路を本會總會式場たる縣會議事堂へ向はせ給へり、申上ぐるも畏多き事なれども殿下の蠶絲業を軫念せさせ給へる叡の御言葉に溢れたり、吾人は幾多の奬勵にも勝りて右の御言葉を拜誦せんとするものなり、かく迄に殿下が重じさせ給ふ蠶絲業に携はる會員諸氏夫れ何等の幸福ぞや、有難き御言葉を賜りたる光榮は諸君の等しく擔ふべき光榮なり、會員諸氏たるもの益々刻苦勵精益々斯業の改良發展を期し、以て此御心に奉答するところなくして可ならんや。

式場の光景

會場たる縣會議事堂正門には大緑門を設けて大國旗を交叉し萬國旗を吊し、春雨霏々たる裡にも準備委員諸氏の奔走により屋外の装飾間然する所なき迄に施され、正門右側に來賓受付所左側に會員章申込所、通常會員受付所を設けたり、場內萬國々旗を縱橫に交叉し綵木、モール等にて美々しく装飾せられ總裁宮殿下の御席を上段とし、左右に會頭、

大浦農和理事、評議員、支會長、副支會長、有功章受者、特別會員、新聞記者、來賓席を設け正面に通常會員席を設けたり。

愛知支會第一回總會

午前十時半總會に先ちて愛知支會第一回總會は開かれたり第一錫によりて會員第二錫によりて、來賓一同着席するや、高橋愛知支會副會長登壇し、深野支會長に代りて開會の辭を陳べ、續て本部事長は愛知支會に於ける業務の成績を報告し、副會長の更迭、役員の異動を始めとし、愛知縣に於て第五回總會を開催するに至りたる顧末關西府縣に共通會場内に蠶絲館を設置するに至たる事項、會員增加の現況等を述べ、高橋副支會長、深野支會長の式辭を代讀して無事愛知支會第一回總會を終れり支會長の式辭左の如し。

式辭

茲に大日本蠶絲會愛知支會第一回總會を開く本縣蠶絲の業近歳大に進み產額年に增し製絲にありては實に全國の第二位を占め蠶繭に於ても第四位を下らず品質亦大に改良する所あるを見る是れ偏に會員諸君盡瘁の効果たらずんばあらず洵に慶賀に堪へざるなり然れども本會終局の目的たる蠶絲の改良進歩を圖らんには前途遠遠にして諸君の力に待つ所尚極めて多し思ふに生產事業由來浮沈多し年に豐凶あり市價に昂低あり豐穰に慣れて安んずべからず凶歉に遇ふも沮むべからず市價昂騰すれば驟りに規模を擴張し商況振はざれば忽ち事業を縮小するが如きは斯業發達の道にあらざるなり宜しく基礎を業固にし規畫を確立し一定の秩序に依り邁往勇進以て斯業の發達に努められんことを望む

明治四十三年三月二十七日

大日本蠶絲會愛知支會長　深野一三

第五回總會開會

愛知支會第一回總會終るや、茲に本會第五回總會は開かれたり、開會前より細雨を物ともせず會場指して押寄する會員引も切らず役員の繁忙を評して總し、山の如く積し居りし會員一堂は時間に早くも交付し盡くして櫛の歯を引くが如き申込に應ずる能はず、爲に今日の盛典に列して蠶業の興隆に志さんと遙に集り來れる篤志の人に對して十分の滿足を與ふるを得ざりしは遺憾なりき。

時に午前十一時三十分に指すや第一第二錫にて會員一堂賓客一席諸員敬禮の内に總裁殿下は御附武官、家令を從へさせられて御機嫌麗しく御臨場一同最敬禮の後に松平會頭代理紫藤理事は總會開會の旨を宣告し、恭しく總裁殿下の台覽を仰請し奉るや、殿下は最と御滿足の體にて堀田御附武官より奉れる左の令旨を玉音朗に讀み上げさせ給へり。

令旨

本會第五回總會を我國有數の蠶絲業地たる愛知縣下に開き多年本邦蠶絲業の爲に貢獻せる諸子の功績を表彰し且本會の發展に資せる者に有功章を授與するは眞愛の深く悅ぶ所なり

本邦の蠶絲業は輓近の發達頗る顯著なるものありと雖も外將來の需要は殆ど無限にして內發展の餘地亦尠からず然りと雖も今時絲價の低落は當業者の意氣を沮喪せしめ爲に其進運を澁滯せるが如き觀あり依て克く內外の狀況を調査し以て品質の改善に努め益生產費の節減を圖りて之を低廉に罷ぐを得ば斯業の發達に資する寔に著大なるものあるべし是本會の努力を要する所以にして之が實行は一に會員の增加に俟たざるべからず會員諸子須らく此意を體し堅忍自重本會の發展を圖り斯業改善の實を擧げ以て國富の增進に資せんことを期せよ

明治四十三年三月廿七日

大日本蠶絲會總裁大勳位功二級　貞愛親王

右令旨に對し松平會頭代理紫藤理事は恭しく進みて左の奉答文を朗讀せり。

奉答

大日本蠶絲會第五回總會を開設するに當り　總裁殿下台臨あらせられ玆に優渥なる令旨を拜し且多年本邦蠶絲業の爲に貢獻せる諸氏の功績を表彰せられんとす洵に本會の光榮にして會員一同の感激堪に能はざるところなり願ふに本邦の蠶絲業は最近著大なる發達を爲し今や世界有數の蠶絲供給國を以て稱さるゝに至り外伊佛清と拮抗し累年其產額を增し內は賣易品の柱石として國家經濟の消長を支配するも時運の然らしむる所なりとは云へ抑も殿下本會を統率指揮せさせ賜ひ拾餘萬の會員台慮の在る所を遵奉し鞭躬如として斯業に盡瘁せるに依らずんば易ぞ克く今日の隆昌を見るを得べけんや然りと雖も驕て現下の情勢を省れば其品質の精緻は伊佛に其產出の數量と生產費の低廉とは尙清國に多少の遜色あるを免れざるの憾あり

惟れば我國運の現狀は富源の涵養を以て焦眉の急務となし富源の涵養は一に蠶絲業の改善發達に待つ極て切なるものあり然るに蠶絲業前途の遼遠なる尙夫れ此の如し依ては正直等不敏と雖も能く台慮の在る所を服膺し益々多數の會員を增募し協心戮力品質の改善に努め堅忍自重生產費の低廉を計り益々本邦蠶絲の聲價を揚げ以て國富の增進に資し台諭に副ひ奉らんことを期す會員一同に代りて答辭を奉る

大日本蠶絲會愛知支會長　深野一三

正三位勳一等男爵　松平正直

次で吉澤理事は左の如く明治四十二年に於ける業務成蹟の大要を報告せり。

大日本蠶絲會々頭　松平正直

業務成績報告

第四回總會

四月四日總統殿下の台臨を仰ぎ天下一品と稱する東京小石川區後樂園に於て開設し斯業界の功勞者たる佐藤肇平氏外五名の功績を表彰し併せて二四名に賞狀及金品の授與し且つ本會の總會に出席したる諸氏及外九名に有功章を贈呈し右の日の來會者無慮一千餘名にして來賓の歡なる者は大浦農務大臣、押川水官、大久保、下岡兩局長、阿部東京府知事、島田埼玉縣知事、高橋勤業課長、行政裁判所長官、農商務局長等なりが來賓組織協會長ダイラーム、スキナー氏同會秘オツベル、スキナー嬢等遠來の客歡氏な笑へ一興を添へたり

總裁殿下又氏の御聲應　伏見宮貞愛親王殿下には大日本蠶絲業組織の御賛格なる蠶丸の來朝せる米國組織協會長ダイラーム、スキナー氏及令嬢オツベル、スキナー嬢に遠來の客歡氏なる吉藤助氏外九名に有功章二組總會を開き何れも本會の總會に強力せる諸氏に有功章を贈呈する榮譽を感じたり

支會品評會　埼玉、新潟、下野、茨城の各支會に官民一致多數の會員が智慕して其根本蠶園に其事業の第一歩として品評會を開設し出品多く優品券渉かもすが蠶絲業者が稱せしむること其大なりしなる認たる之が發賞授與式には總裁殿下台臨あらせられる筈なりしも御不例に亘らせ給ひ遂に御見合となりしも夫々其他宮山、山梨、山口、島根、宮城等の各支會に於て品評會を開催し良好の成績を收めた

日英博覽會に對する本會の活動　本年五月より六ヶ月間英國倫敦に於て開催せらるべき日英博覽會は本邦の蠶絲業な旅代世界に顯示する好個の機會なるを以て本會は日英博覽會事務局に交渉して廣、生絲の出品勸及輸送陳列裝飾等一切の事務を引受け已に其出品物は北四館地たる英國に向け輸送したり尚本會は本邦蠶業の叫欲知らしむると共に原路の機張に資する目的を以て日本會蠶絲業なる書畫を編纂して英國大始め歐米諸國の機業家に或の計畫を為し又蠶絲陳列館内に高さ約三間幅十一間に達する富士山の大模型の製作者な及本會古氏な英國に特派し蠶絲品の陳列並に裝飾の任に當らしめたり

廣東絲に對する警告　米國組織協會が廣東絲に對して爆へたる警告は本邦蠶絲業家に默過すべからざる事柄なるから其本會は其警告を綜評して各支會長に各委員長に送り夫々當業者に警告を與へらるゝ樣指幡したり

支會幹事長打合會　支會及地方委員部の漸次堅固の漸次堅固なる為に徒の本會との關格な良く相互意志の疎通な圖り歩武整々斯業の發達な期るる極めて緊要なるにより本會第四回總會の開設な機とし四月五日支會幹事長打合會な開きたり當日の出席者二十一支會幹事長三地方委員にして支會に廣告なる事柄及其經過方法其他の件に付き協議し各員駆使の問き意見な交換したり

支會の設置　鳥取縣及島取縣は從來地方委員部な設置し來りたるが會員の增加と共に會務の擴張な圖る目的な以て同地方委員部な廢し支會な設置したり

婦人部の設置　富山支會は下新川郡西四郡施行婦人部な組織し月月十四日其殺會式な擧行又其事業の第一歩として産繭整理法講習會な開き宣好の成績な收めたり

蠶學者の招請　八月十四日より五日間農商務省に於て本邦著名の蠶學者な招き此間會な開かれたるな機とし本會は一夕佐々木博士外十氏な招請し低講な交へたり

特別會員の推擧　本會功勞者及篤志者特選內規第三條に依り特別會員に推擧したるの八百四十一名あり

會員異動　明治四十二年度に於て新潟、埼玉、栃木、茨城、宮城、福島及其他の府縣より入會したるもの實に二萬三千百三十名にして之に對し退會者十名なり

會員現在數　明治四十二年度末の會員現在數七萬七千四百六十九名にして其內特別會員二千八百四十四名過常會員七萬四千六百二千五名なり

役員議員及理事　會頭一名、理事六名、監事二名、評議員三十名、學藝委員四十八名、名譽顧問委員十名通信委員八十名なり

評議員の選擧　本會評議員全四拔改選氏外二十九名は任期滿了となりたるなり以て其後任の選擧は本會第四回總會に於て會頭に一任せられたるなり以て會頭は伊藤家大郎氏外二十九氏な選擧せられたり

支會及地方委員部役員の嘱託　支會規則第四條及地方委員部規程第三條に依り支會長四名地方委員長四名支會副會長五名地方委員副長一名に總殿殿下より夫々嘱託あらせられたり

關稅調査委員の選定　本邦現行關稅率其他に於き蠶業者より本會に對し照會せらるゝ處の切なるなり以て本會々頭に加賀山長四郎氏外四氏に關稅調査委員な嘱託せられたり

名譽通信委員の嘱託　通信委員規程第二條に依り總殿殿下より來獨組織協會長ダイラーム、スキナー氏に名譽通信員な嘱託あらせられたり

通信委員の嘱託　通信委員規程第二條に依り本會々頭より來田榮松外七十二名の諸氏に通信委員な嘱託したり

學藝委員の嘱託　學藝部二十六條に依り總殿殿下より十時雄次郎外七名に學藝委員な嘱託せられたり

評議員會　明治四十二年度中に開會したる評議員會左の如し

三月三日

一　明治四十一年度決算の件
二　關稅調査の件
三　大日本蠶絲業組合慶務規程の件
四　功績調査の件

四月三十日

一　現事及監事選擧の件
二　會頭及副會頭選擧の件
三　座席規程の件
四　日英博覽會に關する件

十一月一日

一　鳥商務者よりの諮問に對する答申
二　製絲工女設計會規定案
三　四十三年の總會な愛知縣碧谷共進會な機とし開設すること
五　群馬に大會な開くこと
六　伊藤公爵の弔詞
七　製絲關體賞與大會決議の件

十二月九日

一　工場法案調査の件
二　明治四十三年度豫算案の件
三　全國農事會より受領の件
四　蠶業調査義綱規程改正の件

十二月十日

一　工場法案に關する件

十二月十日

功績調査其他の委員會

一月十九日
第一回功績及關税調査委員會を本會事務所に於て開きたり功績調査委員にては若尾幾造、北村七郎、有働良夫の諸氏本會側よりは松平會頭、酒匂副會頭、桑田、吉池の兩理事出席し功績調査委員會は午後三時より關税調査委員會は同五時より開き各審議を爲したり
二月二十五日
第二回關税調査委員會を本會事務所に開きたり本會側より松平會頭、武藤、本多其他の理事委員にては羽田、有働、北村、芳賀の四氏出席審議攻究を爲したり
十月二十五日より同三十日迄
農商務大臣より本會に對し蠶病豫防並に繭質統一に關する二件を諮問せられたるを以て本會は十月二十五日より同三十日迄本會々議室に於て蠶病豫防並に關する調査委員には池田常蔵氏外十五氏を繭質統一に關する調査委員には伊藤富次郎氏外二十氏を擧げ其調査を爲したり
十二月九、十日
農商務省より工場法案に關し本會に諮問せられたるを以て本會は評議員會を開き更に調査委員を擧げて審議することゝなしたるが十二月九、十の兩日午後一時より本會側よりは桑田、練木、吉池の各理事委員にては今西直次郎、伊藤富次郎、針塚長太郎、船越男爵、羽田桂之進、尾澤琢郎、北村七郎の諸氏出席調査攻究を爲し其結果を評議員會の議に附することゝ爲したり

巡回講話

茨城支會の請求に依り横田學藝委員は二月二十八日より二日間松平會頭、吉池學藝委員には京都、鳥取、島根の一府二縣へ七月二十四日より八月十一日迄又吉池學藝委員には秋田縣蠶種組合聯合共進會の請求に依り八月十七日より同二十七日迄吉永事務囑託には埼玉支會の請求に依り八月十七日より十九日迄練木、入田の兩學藝委員には鳥取縣よりの請求に依り九月五日より同三十日迄吉永事務囑託には又下野支會よりの請求により九月二十八日より十月二日迄巡回講話を爲したり

役員及學藝委員の出張

二月五日岐阜縣製絲同業組合創立總會開催に付き吉池理事、二月十七日宮城、福島兩支會へ及二月二十七日茨城、長野の兩支會へ會務の爲に吉池理事三月二十四日埼玉支會委員部長會議に臨席の爲に吉池理事、三月二十六日三重支會總會開催に付吉池理事、四月七日群馬縣甘樂社創立三十周年祝賀會席に共進會褒賞授與式擧行に付松平會頭、吉池理事、三月二十六日、三重支會第八回總會開催に付會頭代理として吉池理事、五月二十二日埼玉支會へ吉池理事、六月九日栃木、群馬、長野、山梨、埼玉の各支會へ吉池理事、九月六日埼玉支會へ、九月五日埼玉支會總會並に品評會に臨席の爲本多、吉池兩理事、十月十日長野縣北安曇郡并催一市七郡聯合品評會及信濃支會第一市七郡委員記聯合總會臨席の爲吉池理事、十月十五日山梨、下野、茨城三支會品評會褒賞授與式臨席の爲吉池理事、十月十六日新潟支會總會及品評會褒賞授與式臨場の爲正親町伯爵、本多理事、十月十七日下野茨城兩支會品評會褒賞授與式臨席の爲桑田理事、十一月八日富山支會品評會褒賞授與式及石川支會發會式臨場の爲練木理事、十一月十日宮城支會、總會臨席の爲本多、吉池兩理事、十一月二十一日愛知支會へ總會事務打合せ並に支會品評會褒賞授與式臨場の爲吉池理事何れも出張せられたり

記念品の贈呈

本會監事及評議員として會運振興の爲に盡瘁せられたる前農商務者加賀山辰四郎氏には官職を辭して東洋拓殖會社に入り渡韓せられたるを以て本會は氏が在任中の功勞に酬ゆる爲記念品を贈呈したり

弔詞を贈る

酒匂博士、高木三郎、ユリスペラーの諸氏逝去せられたるを以て本會は丁重なる弔詞を贈りたり

會報印刷部數

會報印刷部數は二十萬二千九百部に達したり

女子蠶業講義錄の發行

本會は女子に關する蠶業智識の涵養を急務と認め蠶業講義錄を發行し其會員一千八百餘名に達したり

會計報告

臨時報告に掲載したるを以て之を省く

右報告を終りて紫藤會頭代理は謹嚴の態度を以て恭しく御前に進み、功績褒賞御授與の件を稟請し奉りたる後吉池理事は左記表彰文を一々朗讀し、殿下には一々賞牌を御親授あらせられ、紫藤會頭代理は賞狀を授與したり、今其表彰文を掲ぐれば左の如し。

賞狀

山形縣東置賜郡屋代村
長谷川平内

明治維新以來海外貿易の發展に從ひ蠶絲の輸出增加するも品質の改良之に伴はず爲に批難を蒙ること尠からざるを憂ひ優良の蠶絲を製出せんことを企圖し明治十五年地方有志を勸誘して器械製絲場を創立せしも原料良好ならざりし爲其製産の品位意の如くならず依て養蠶者を奬勵するの得策なるを認め賞品賞金等を贈りて良繭の産出を促し又私財を出し東京蠶業講習所及生絲檢查所に傳習生を派遣し自家改良の資に供せり之を以て其製品は共進會博覽會等に出陳する每に優賞を受け又海外の需要者間には頗る聲價を博するに至れり其蠶絲業上に貢獻せるの勞効洵に著大なり仍て本會功績表彰規則に依り金賞牌を贈與し以て其功績を表彰す

明治四十三年三月二十七日

大日本蠶絲會總裁大勳位功二級 貞愛親王

島根縣簸川郡平田町 木佐德三郎

夙に地方蠶絲業の振はざるを慨し各地を遍歷して具に之が視察を爲し或は桑樹の栽培蕃殖を圖り或は養蠶の改良普及を企て或は私財を投じ養蠶製絲の傳習所を設けて子弟を養成する等斯業の指導誘掖に勉め蠶絲業の開發に資する所尠からず更に之が發展は有力の製絲場を起すにあるを認め同志を糾合して平田兩全株式會社を組織し推されて社長となり拮据經營或は自費を抛ち蠶種を購入して之を養蠶者に配布し或は懸賞を以て蠶繭を購入し良繭の産出を奬勵し鋭意熱心之が擴張に努め巨額の損失を顧みず百難を排して斯業の發達に盡瘁し地方重要の事業とならしむるに至れり其蠶絲業上に貢獻せるの勞效洵に著大なり（以下同文）

熊本縣熊本市坪井町 湯地恒雄

夙に蠶絲業の研究を爲し明治十一年職を愛知縣に奉ずるや該桑養蠶製絲の方法を教授し又自ら蠶業傳習生の養成に努め或は有志を勸誘し器械製絲を起さしむ其後熊本縣に赴くや蠶絲業の振はざるを歎じ指導誘掖到らざるなく爲に產額を増加し品質を上進するに至りしを以て先輩を說き肥後製絲株式會社を設け選まれて社長となり拮据經營懸賞其他の奬勵方法を以て良繭の產出を促し良絲の製造に努めたるを以て今や同社の製絲は名聲海外に喧傳し同縣の產繭は全國に稱揚せらるゝに至れり又小規模器械製絲業者と共同經營の利益を勸奬し肥後共同蠶絲組を成立し以て之が改良を圖り又九州信託株式會社を創立し當業者金融の便に供す此他斯業に盡力せること枚擧に遑あらず其蠶絲業上に貢獻せる勞效洵に著大なり（以下同文）

東京府東京市麻布區笄町 故 川村迂叟

昔て宇都宮藩の依賴に應じ領内を巡歷するや不毛の地多く產業の萎靡振はざるを慨歎し荒蕪を開墾して桑樹を栽植し養蠶業を起し私財を抛ち奧信上の各地より養蠶教師を招き育蠶の方法を傳習せしめ又製絲事業を興せしも區々たる製品到底海外に輸出するに適せざるを感じ明治二年特に伊太利公使に囑し同國より技師夫妻を傭聘し地を大崎村にトして機械製絲場を建設し之を大崎商舍と名く爾來拮据經營二十餘年製出の蠶絲は海外に聲價を博し汎く範を各地に示すに至れり其蠶絲業上に貢獻せるの勞效洵に著大なり仍て本會功績表彰規則に依り金賞牌を追贈して其功績を表彰す（仍て以下同文）

群馬縣多野郡美九里村　故　高山長五郎

夙に志を蠶業に注ぎ精勵刻苦飼育法を研鑽すること多年漸く一種の方法を案出して清温育と名け之を普及し斯業の進歩を圖らんが爲養蠶改良高山社を創設するや推されて社長となり拮据經營或は各縣より傳習生を集めて養法を敎へ或は遠近に授業員を派遣して改良を促し又蠶種の選擇法を考案し桑樹の栽培術を講究して範を示し又私資を投じ繭品評會を開きて礬を磨き又製絲改良の急を認め共同揚返場を設け更に製絲改良高山社を起して組長となり之が改善を圖り又桑切庖刀給桑篩蠶種催靑器輕便殺蛹器等を案出し當業者の便益に資する事て數ふべからず其蠶絲業上に貢獻せるの勞效洵に著大なり(以下同文)

福島縣伊達郡柳川町　故　中村善右衛門

父祖の事業を繼承して養蠶に從事し之を飼育するに標準なく當業者の不便甚しきを慨歎せり偶醫師の體温器を親其温度に感じて昇降することの正確なるを聞き遙かに長崎より之を購入し標本として日夜苦心慘憺遂に寒暖計を製造することを案出し更に之を養蠶上に應用せんが爲精細なる試驗を重ね硏究の末育蠶温度を創定し蠶當計秘訣と稱する著述を公にせり是れ實に嘉永二年にして蠶業上に寒暖計を使用せる嚆矢なりとす之が爲に蠶業の發達を促進せる眞に測り知るべからざるものあり又各地を遊說して蠶桑の利を敎へ或は東北地方に秋蠶の飼育を勸奬し或は風穴を發見して秋蠶種貯藏の便益に資する等其蠶絲業上に貢獻せるの勞效洵に著大なり(以下同文)

有功賞受領者

紫藤會頭代理再び　殿下の御前に進みて有功章御親授を稟請し奉るや　殿下には吉池理事より捧ぐる有功章を左記三十一名へ御親授あらせられたり。

二等有功章　深野一三	三等有功章　高橋要次郎
四等有功章　楢本定吾	四等有功章　楳木秀盛
同　山田正	同　木原勝太郎
同　岸田浩	同　福田庄一郎
五等有功章　伊藤喜平	五等有功章　島内露
同　島屋義純	同　田中從義
同　高木正輔	同　栗本文雄
同　村上金一郎	同　内田勝起
同　上野錄二郎	同　山田島次郎
同　細江貞二	同　夏目祐信
同　吉見恰兵衛	同　小林初太郎
同　辻田武次郎	同　鈴木光次郎
同　松永貞太郎	同　田中榮治郎
同　原田國作	同　高瀬初次
同　濃島才吉	同　安藤安美
同　小林岩太郎	同　川島清三郎
同　高須市太郎	同　中村圓四郎
同　村田榮文	同　藤澤五三郎
同　熊寄幸	

受賞したる男女製絲工

次に紫藤會頭代理は常に工場にありてよく業に努め二十年間終始一貫以て本邦製絲業の基礎となりて、功ある者の功を賞し、平常の勞を慰めて益々精勵杂に範たらしむる爲、左記男工女工總計百五十七名に對し、親しく賞狀を授與したり。今其所屬工場名と姓名とを示せば左の如し。

東京府

小島製絲場	小林修次郎

神奈川縣

持田製絲第一工場	青木松五郎
	安西ゑい
	細野くま
同第二工場	持田淺太郎

兵庫縣

日下製絲場	田治米順次郎
	森垣きみ
	衣川はま
氷上共同社	戸田誠一

新潟縣

北興館	渡邊岩五郎
今製絲場	日間瓦吉
	皆川のぶ
	諸橋よき
峰水館	鮎澤きい

埼玉縣

富國館	國枝正之助

群馬縣

下仁田社下仁田組合	岩崎惣次郎
	清水いし
	鈴木かや
碓氷社流漆組	金井茂八
	鬼形岩吉
	内田たみ
原富岡製絲所	内田つぎ
	内田幸
碓氷社	杉山島吉
	四島春吉
碓氷社元組製絲所	須藤豐次郎
同　藤受組	武井とり
同　白崎組	小林たさ
	小林とも
同　春日組	吉田ゆく
同　北九十九組	小河原とき
同　南九十九組	佐藤あき
同　原一組	半田くま

茨城縣

谷口製絲場	鈴木むち

栃木縣

前田製絲場	蛭澤くら
	吉田はる
一色製絲場	黑子あい

三重縣

伊藤製絲場	山北庄太郎
	山口榮次郎
	淺田いく

愛知縣

林德製絲場	柴田いそ
愛知館第八龜井製絲場	寺澤まつ

靜岡縣

河島製絲所	谷中田之吉
福川製絲株式會社	村松なか

山梨縣

雲崎製絲合資會社	小濱粟之助
	佐久長吉
	征本ふき
	小中澤やな
郷製絲場	秋山かれ
	其田ゑん
矢島組武井製絲場	河野きく
扶桑社武井製絲場	武藤ともゑ
矢崎製絲場	水上そう
天野製絲場	深澤とよ
	深澤しよう
大龍館駒井製絲場	鮎澤そのよ
山梨製絲株式會社	内藤藤市
	内田たつ

岐阜縣

大坪製絲場	細江友吉
小寺製絲場	和田ふん
丸日合名會社	田中いよ
田口製絲場	田口ぬい
関錦合資會社	大澤ゆき
今井製絲場	田上かれ
丹羽製絲場	松田はな
勝野製絲場	早川なか
昇光社	山本とら
福助製絲場	筒井はる
同	水谷あい
古池製絲場	正儀原きむ
同	佐藤せい

長野縣

命紳林製絲場	有賀林左衛門
	林喜市
佐田社	藤田五三郎
有明社	太田けん
松城館	菱川茂太郎
宮田館合名會社	青木せき
	米山しま
	村松忠之丞
	内川くめ
	小山さよ
倹明合資	小林やす
山丸製絲場	玉井つる
山七小田切製絲場	井上きく
	奈良ちよ
今勝山製絲場	和田とえ
升新製絲場	小出つぎ
信四社	三村ふつ
	上村あさ
全製絲場	田中ちよう
片倉組垣外製絲場	横内きよの
東英社石製絲場	藤林つぎ
尾澤組第二工場	伊藤すゑの
吉澤製絲場	宮川くに
六文錢合資會社	石坂せん
六工社	中川いく
木六工社	宮澤はつ
金合名會社佐藤製絲場	小林きぬ
西澤須太郎工場	長澤いわ
最信社平林製絲館	北澤けさ
	矢島てる

宮城縣

旭製絲株式會社	及川幸治郎
	高橋長八
	西城順治郎
	工藤ちよ

西條つるよ　福島縣
組製絲場　松浜館
村上ゆあの　福島縣
共同生絲貿易所　高橋絲吉
角田こま
双松館　神野忠蔵
古川けさ
自清館　竹井泰三郎
加藤鐵吉
大野仁作
小畦館　鳴信吉
芳賀長五郎
佐川もと
佐藤しげ
三盛合名會社　藤木きく
郡司はる
山形縣
多勢金上製絲場　雲河江和助
新藤七蔵
高橋はや
加藤しげ
三浦製絲場　波邊うん
今井まつ
松岡製絲所　稲飼孝
長谷川製絲所　梅木徳野
鈴木やす
我妻すい
多勢丸多製絲場　伊藤みな
菅原しん
宮内製絲株式會社　山口うち
竹田まつ
福井縣
雲南蠶絲株式會社　中野源蔵
藤田いし
村井まさ
西藤くま
櫛風社　宮山縣
正製館　竹本栄次郎
笠原さき
来子製絲株式會社　島取縣
大谷かつ
平田商会株式會社　島根縣
彼部權市
木佐しん
小村まさ
澤津まき
松江蠶業株式會社　新田易次郎
佐藤製絲所　渡部ゆき
安来製絲場　彼部金之助
小林徳吉
岡山縣
浜田製絲場　高尾正
今井まつ
山陽製絲合資會社　横北
齋藤かめ
河野合名會社　梶原りよ
粉野合名會社　智根たけ
大城館　倉谷のぶ
大分縣
大分製絲場　仲家なか

右終るや大浦農商務大臣、深野愛知支會長は順次起て左の祝辭を朗讀したり。

祝　辭

大日本蠶絲會は關西府縣聯合共進會の開設を機とし　總裁宮殿下台臨の日に茲に第五回總會を開き併せて斯業功績者を表彰す定に時宜に適するのと謂ふべし本官亦親しく此の盛典に列することを得たるは欣喜に堪へざる所なり　夫れ蠶絲は我國重要の物産にして貿易品中の巨擘たり從て之が經營其の宜しきを得ると否とは國家經濟上至大の關係を有す本會は夙に力を斯業の改善發達に盡し　總裁宮殿下の懿德と會員諸子の熱誠とに依り今重きを中外に致し之を其會員數に見るも前年に於ては六萬有餘なりしもの本年に於ては十萬有餘を算するに至れり登盛なりと謂はざるべけんや然りと雖も將來本會の負ふ所甚大にして四圍の事情は苟も其信安を容さず之を外にしては伊、佛、清の勁敵あり特に清國は近年嶄然頭角を顯はし其將來甚だ侮るべからざるものあり曾歐洲に於ては人造絹絲業の發達著しく蠶絲需用の範圍を犯さんとするあり又之れを内にしては蠶絲業の經營日に益々困難を感じ蠶種の改良繭質の統一生絲品位の均斉等改究を要すべき重要問題尠からず本會は須らく是等内外の情勢を洞察し以て會員の向ふ所を明にし斯業の改良と發達とを期せざるべからず希くば會員諸子一層努力勉勵せられんことを

明治四十三年三月廿七日

農商務大臣男爵　大浦兼武

祝　辭

大日本蠶絲會第五回總會を名古屋市に開かれ　總裁宮殿下の台臨を辱うしたるは本官の深く光榮とする所なり恭しく惟みるに本會創設以來事業惟れ羣り成績惟れ顯れ蠶絲の業大に進み產額舊に倍して名聲海外に鳴る是れ偏に　總裁宮殿下の懇篤到到本會を統率せさせ賜ふに依らずんばあらず洵に盛旋拱く能はざる所なり熟ら考ふるに蠶絲は海外輸出品の首位を占め斯業の隆盛は國家經濟に至大の關係を有す實に重要の物產たり然れども固より本邦獨占の業にあらず其產額に於ては尙清國に一籌を輸し其品質に至ては未だ伊佛を凌駕するに至らず誠に以て遺憾となす希くは會員諸君厚く合智を集戮して奮勵自强斯業の改善發達を圖り以て國富の增進に努められんことを一言を除して祝辭とす

明治四十三年三月二十七日

愛知縣知事正四位勳二等　深野一三

次に金賞牌拜受者總代長谷川平内氏、有功章拜受者總代高橋愛知縣内務部長は起ちて左の來答文を朗讀せり。

來　答

維時明治四十三年三月二十七日大日本蠶絲會は第十回關西府縣聯合共進會の主催地たる名古屋市に於て第五回總會を開設せられ不肖等多年斯業に從事すと雖も未だ何等の賞獻する所なく顧みて自ら恐慌たらざるを得ざるに　總裁殿下金賞牌を賜ふ恐懼感銘の至りに堪へざるなり然りと雖ども今日此恩典に浴するは即ち是れ不肖等が身上新なる生命を附與せられたるものなれば將來一段の努力を爲し銳意斯業改善の實を擧げ以て台旨に酬ひ奉らんことを期す功績表彰者一同に代り謹て奉答す

明治四十三年三月二十七日

金賞牌拜受者總代　長谷川平内

來　答

大日本蠶絲會第五回總會を開くに當り　總裁殿下台臨あらせられ親しく有功章を授け給ふ洵に盛儀の至りに堪へず自今益奮勵し斯業界に盡瘁し以て本日の光榮に報ひ奉らんことを斯り謹んで奉答す

明治四十三年三月二十七日

有功章拜受者總代　高橋要二郎

右にて第五回總會式典は終結を告げ　總裁宮殿下は御疲勞の御氣色更になく諸員最敬禮の裡に御退場遊ばされ、紫宸台頭の代理は閉會を宣し一同退場したり、時に正に十二時。此日朝霧來細雨或は降みみ或は降り來會者に多大の困難を與へしも會員諸氏の熱心なる雨天悪路を意とせず遠近より　總裁殿下の英姿を拜せんとて來會せしもの無慮六千餘名、會場立錐の地を除さとるの盛況を呈せり、來賓の主なるものは大浦農商務大臣、有田三重縣知事、片山博覽會課長心得、土川縣會議長縣會議員、新聞記者等なりき。

總裁殿下御退名

正午御退場遊ばされたる　殿下には早朝よりの御徒步、御佇立にも些の御疲勞の體なく、午餐を召させられ、暫時御休憩

の後御選名仰出されたるには一同唯其御勲積に感入奉るしが殿下には フロックコートに山高帽を召させられ、沿道市民の萬歳聲に、樣田御附武官以下諸員を隨へさせられ、名古屋停車場へ御着、此時驛前に整列奉送せる數千の學生徒は萬歳を三唱して殿下の御後姿を祝し奉れり。是より先、殿下の御見送の爲め參集せる深野知事、加藤市長、藤田控訴院長、手塚檢事長、松田檢事正、赤池警務長、奥田商業會議所會頭、柄戸市助役、共進會役員以下縣高等官、渡邊陸軍長、黒澤旅團長、西川旅團長、市吏員、各銀行頭取、支店長、木會職員等の五十餘名及本會々員、愛國婦人會員、特志者、國防會員等の數の奉送者は殿下の御着と共に帝國軍本殿下は一々御會釋を賜ひ、飯田驛長の御先導にて貴賓室へ入らせられ、御休憩中御待受の梨本宮殿下と御物語遊ばされ、時十分後御召列車の安着により貴賓室より飯田驛長の御先導にて憲兵、警官の護衛を受け給ひ、塚田御附武官、淺野式部官、御附牧家令、後等家從、を從へさせられ、駿橋を降らせられて御機嫌麗しく列車に御搭乘、多數官民の萬歳の聲に列車は徐々進行して無事御退名御渡英の途に上らせ給へり。

二百餘名の盛宴

總裁殿下御退名遊ばされ、流石に賑ふ花の名古屋も何となく寂しく感ぜられたるが、午後二時より開かれたる東陽亭の園遊會に各自十二分の興を盡し更に其日の午後六時名も鶴舞の公園内に最と炭壮に新築せられたる大觀亭に於て愛知

如何にして農村の荒廢を防ぐべきか（承前）

農學博士　古在由直

右は我農家の眞意か著しく面目を改めない原因の重なるものであるが、若しこの儘でいつたならは我農業の將來は實に心細いものである、どうしても出來るだけの改良を行ひ農産の增收を圖り農家の收入を多からしめ延いて農村を繁榮ならしむるよは我國家にとりて最も緊要のことである。人に依つては我邦の耕地は最早充分に改良せられて、此上收穫を增す餘地はないなどゝ言つて居るけれども、之は皮想の見たるを免れない、ナル程今から十數年前と今日とを比較してみれば米に依らず麥に依らず年均一反歩に對する收穫は增加して東京附近にて一例をとれば東京縣下にては農事改良上好果を擧たるものが尠くない、就中麥作收穫の增したのは著しきもので、同縣北足立郡大門、浦和、常光、石戸及春岡村にて明治二十年頃のものを百として昨今の平均收量を計算して見れば左の樣な割合となつて居る。

米	一反歩收量	一二五%
大麥	同	一六二
小麥	同	一四二

こう云ふ風に栽培上の改良をして行けば相當の增收を得ることは決して六ケしくないと思ふ、或人の調査に依ると米麥等にては現在の收穫高より平均二割を增加することが出來るといふことである、此二割を增加すれば宜しいか、耕地整理を行ひ、施肥耕耘を懇ろにし、良種を選定する等其方法は一にして足らざることであるが、以上に述べたる改良思想の養成と資本の豐富を圖るといふことが焦眉の急である、此急を救ふの策は一に町村農會や産業組合の如き團體の活動に待たなければならぬのであるから、是等公共團體の常事者は向一層奮目に働くやうにせられたい。

斯くすれば農村の荒廢を防ぎ、農家の富力を增進することが勿論出來るに相違ないが、尙吾輩の希望を述べれば海外に移住し民を多く出し、各自に著作を誠め、副業を盛んに行ふといふやうにして欲しいのである。現に

年々五十萬人づゝ增加

して行くのが帝國現在の狀態であるから、此新たに增加する丈けの人を滿韓地方を始めとし、其他の諸外國へ移住せしめて消極的に彼等の食扶持を減らし、積極的に海外に於ける

冥業講習所同窓會

農商務省蠶業講習所令同窓會は二十八日午後一時より名古屋商業會議所に開會せられたり來會者は關東、關西、東北、九州、北陸道方より約百十名に亡夫々席定まるの去當縣同窓長吉橋丈太郎氏開會の挨拶を爲し、愛知縣の桑作者氏小原長に種して協議會に移れり、愛知縣同窓會より提出の「蠶絲業に關する教育機關充實」なる題目の下に此れ種々討議したる來賓及び中等程度の學校者しくは蠶習所出身者にて將業教育の普及を圖る事に、次に蠶員、教員に關する件は種々議論の末弘瓶とする事に決して午後三時半散會し同窓親睦の宴会大觀亭に開きたるが頗る盛會なりし。

愛國婦人會員の一行

支會主催の一大盛宴は開かれたり、會する者何れも斯界に牛耳を取れる一騎當千の士二百餘名席定つて配膳終るや、深野支會長は拍手の間に立ちて一場の挨拶をせられ、本會業務理事赤池賓員一同を代表して歓迎の辭を述べられ、より主客相胸襟を開きて歓談し、なる緋の幕は開かれたるが、會員の一行に對して散會したるは午後九時過ぎなりき。

獨筆するに堪へ難き道院が特に本會、總會の爲に汽車の制引を爲して來會者の爲に一大便宜を與へられたると愛知支會役員諸氏並に愛知縣高等業者諸氏が非常なる盡力を以て無事閉會せしめられたるを深謝すると共に、本會役員の一行に對して與へられたる厚遇を謝す。

同胞の發展を請ずやうにせねばならぬ、斯く移住民奬勵の結果は農村の人口減少となり、勞力の缺乏を來し、耕地の荒廢を招くやうになりはせぬかと杞憂を抱く者もあらうが、夫れは決して心配するに及ばぬ。日露戰爭の當時アレ丈けの壯丁を戰地に送り出し、戰地に於ては、否寧ろ平時の時よりも農事の改良は却て能く出來て農作物の收穫も多かつたではないか、況んや年々增加する人口が五十萬人だもの、此增加する人を悉く移住させうといつたところで、チカ〳〵ソーは行かぬから、セメテは此二分の一なり、三分の一なりの人口丈けでも移住せしめたいものである。併し人は海外へ出て行け、自分は後に殘つて榮華をして居るといふことではいかぬから、各自によく戊申詔書の御趣意を奉戴して忠實業に服し、

勤儉産を治め華を去り實に就く

の心掛けがなければならぬ、プロシヤと交戰して一敗地に墜れたる佛蘭西國民は勤儉よく産を起し、國民自覺の策を講じて遂に今日の强大を致したではないか、併し勤儉其度に過ぎて食ふ物も食はず、着る物も着ぬといふやうなことではいかぬ、消費力のなき國民たるを免れないから、生活を拡上に當然要すべき、物は適應なく消費せよであるが、只吾輩の茲に注意したきは贅澤な生活をするといふことである、贅澤な生活をしたからといふて爲に生産の增加するものではない、否却て之が爲に傾惰に陷り生産力を削ぐやうになるのである。

餘暇を利用して

多少なりとも其地方に適當なる副業を行ふ、農家の收入の增加を圖ることが最も必要である、農家の副業は種々あるべきも養蠶なども其一つとして大に勧めたい、世間の地主中には養蠶を行つては田を荒らすといつて之を排斥する者もあるさうであるけれども、養蠶を行つたから必ず田を荒らすと限つたものではない、併し、春蠶の上蔟期と挿秧期とは往々衝突して、爲に其何れかが不利益の位置に陷りし例は慥に認めて居る、此點からいへば養蠶は田を荒らすことになる場合があるかも知らぬが、之れも少しの遣り方で其何れかを先に爲し得ぬこともないから、況んや春蠶の上蔟期と挿秧期とを強いて衝突せしめんでも濟むではないか、況して近來大に夏秋蠶なるものが行はれるやうになり、春蠶の餘暇を利用して春夏秋蠶を少しづゝ副業的に行へば少しも米麥作に影響を及ぼすことなく、又は水田のみの地方ならば是非もないが、畑が相應にある地方に於ては米麥のみで農家の經濟を立つるよりも養蠶を行つた方が農家經濟の上には遙かに良く知れぬ。農家の經濟が良くなれば自然資本も豐かになるから、農事改良も爲し易いことになるであらう。此間係を無視して養蠶とといへば田を荒すやうに考て荒廢に歸した例は古來何程もあるから返へす〳〵も慎むべきは者人である、贅澤である、互に者修を誡め、贅澤を慎んで眞面目に活動したならば米や麥の主業以外に他の副業を行ひ得る餘暇が必ず出て來るに相違ないから、

へ、極端に排斥するのは吾輩の贊成するとの出來ないところである。併し茲に御注意したきは一も二もなく養蠶〳〵といつて他の副業を悉く排斥してはならぬ。要するに其土地の狀態、氣候、風土の關係、勞働者の多少等を斟酌して適所に適業を行ひ以て農村の疲癈を防ぐやうにせられたいのである。我國家の收入中副業による所得の割合は餘り多くない、明治二十年頃と今日とを比べて見ても大差がないのは左表を見ても分る。

	總額	四	副業及雜收入	田畑收入	東	副業及雜收入
明治二十二年	四億四千萬	一億一千萬	二億一千萬	七八%	一一%	一一%
同 三十二年	六六億	一億一千萬	二億	八〇	一一	一〇
同 四十一年	六四	二億	二六	八二	一一	一〇

この樣に副業の收入が多く增して居らないのは今日農家の懶ろ合の稼かでない反證とも見らるゝのであるから農家は前に述べた如く其業務を勉勵し、作物の栽培に改良を加へて增收を圖るは勿論副業養蠶其他適當なる副業を行ひて收入を增し無益の費用を節約することに努めなければならぬ、がこれと同時に地主其他農家と密接の關係を有する爲工業家に於ても此點に就きて充分なる注意を拂ひ農家の保護誘導に盡されんことを望ひのである。（完）

米國絹業談（承前）

學士會員　農學士　紫藤章

（二）力織機並に蹈機械の應用

千八百五六十年時代の歐洲の絹織物は殆んど手織機に依て製造せられあつて、力織機に依るものは甚だ僅少であつた。併し米國にては、勞銀が歐洲各國に比すれば頗る高きを以て米國機業家は何とかして此勞力を省き、工賃を減ぜんとの念慮が常に腦裏を去らなかつたが爲め、歐洲にては未だ好結果を見ることを得ずして力織機例へば「ジヤカード」の如きも米國に於ては種々苦心の末歐洲に先ちて却て好結果を告げ、殊に「ドビー」の實施後に至りては力織機は昇天の勢を以て從來の手織機を壓倒せんとするの勢を呈するに至つた。當時歐洲の絹業界では專ら手織機のみ重きを置きたるを以て常に職工の供給に困難を感じたが、米國にてはしてカ織機の應用に依りて職工の不足を感ずる事が歐洲の如く大ならず之れが爲め米國に於ける力織機の應用は益々發展して政府の保護政策と相俟て斯業の發展を來たすに至つた、米國人が勞力節約の爲め、諸種の器械を考案し、極めて單純にして之れを使用するの法を講ずることは到底他の國人の及ぶ所でない、此の勢力と此の天賞とを以て織機に種々の改良を加へたる事は蓋もない、併し自分は器械の專門家でないので、深く入り入て之れを語る事は出來ないが、聞く所に依れば、燃絲器械の如き撚絲と合せ絲を同時になし、又た下撚合せ絲、上撚

の三工程を同時に行ふと云ふが如き、諸種の改良を加へたる爲め獨り勞働の效果を增加するのみならず、之より生ずる層せらるゝも所以なきに非ずと言はねばならぬ、左に掲ぐる絲の氣象に至りては實に稱賛するの外ではない、其諸機の改良を計り、依りて其如何に米國機業家が人力を省く爲めに、手織機を捨てゝ力織機を採用しつゝあるかを知るに足るのである。

年次	力織機數	手織機數
一八八〇年	五三二一	三一五三
一八九〇年	二〇、八二二	一、七四七
一九〇〇年	四四、二五七	一七一
一九〇五年	五九、七七五	四四、四二八
		二二、五六九
		八、四七四
		二、八三三
		六〇〇、五八八

（ホ）職工賃銀の不廉なる事

米國に於ける職工賃銀の不廉なることは偏へに力織機の應用を促進する動機となりたるは敢て、疑を容れざる所であるが、此賃銀の高價なるが爲め、米國機業家の一方には優等の職工を吸收すること少くなく、且つ此優ありたるが爲めに、紡績物業の發展を來たせる事も事實の上に於て之を見る事が出來るのである。

米國人は常に其人の才力に應じて之に與ふる報酬は少しも惜まず、ドシ〳〵高き給料を支拂ふて十分の責任を負はしむるの氣風が有る、此氣風は悲ふに諸工業の發達を來たせる基因なるべく、紡績物に關する職工若くは技術者の如きも亦た其通りである、往時英國にて紡績業衰頽の爲め、其業を失へる幾多の職工を米國に移住せしめ、又た廣く伊太利、佛蘭西、瑞典等に於ける優良なる紡績物職工の吸收は職工の重なる者は多くは伊佛瑞等より來りたる優等職工なりと言ふを得るのである。

古るる器械を棄つることを恰かも弊履を棄つるが如く、其散爲の氣象に至りては實に稱賛するの外ではない、其諸機の改良せらるゝも所以なきに非ずと言はねばならぬ、左に掲ぐる絲の量を減ずる價格を低下する必要を生じ、從つて工業都市に於ける注意を加へたる改良以外に紡績製作上に及ぼしたる改良も亦た少なからずして、今や米國の紡績業は其發達著しきものあり、佛蘭西、伊太利よりも遙かに高き職工賃銀を拂ひ、且つ器械代價に於ても高價を拂ひながら、其利益を收むるものあり、即ち其發部の裝置に種々の改良を加へ出來る丈け、自働的に種々の運轉をなさしむるは勿論少しく故障ある際には又た直ちに自働的に其運動を休止するの裝置完全なるが爲め、器械の運轉速力を進め、其製產力を增加し且つ精巧の織物を產出する事に至つたと云ふが如き「リボン」の力織機に改良に依りて一時に數十本の「リボン」を織成するが如き其他織機上、自働力を以て人力に代ふる等幾多の改良せるものが少ないと云ふ、例へば米國の勞働時間は端西等の夫れよりも短かく、多くは一週五十五時間なるに拘らず、其廣幅物を一箇年間一機臺にて生產する價格は端西とが千二百弗に米國は千六百万至二千弗に達すと云ふ事である、要するに米國人が時間の節約生產費の減少に深き注意を拂へる事は各種業共に然らざるはない、故に然絲若くは織物器械の如き次第なる必ずしも亦た其人の才力に應じ其人の才力に應じて之に與ふる報酬は少しも惜まず、ドシ〳〵高き給料を支拂ふて十分の責任を負はしむるの氣風が有る、此氣風は悲ふに諸工業の發達を來たせる基因なるべく、紡績物に關する職工若くは技術者の如きも亦た其通りである、往時英國にて紡績業衰頽の爲め、其業を失へる幾多の職工を米國に移住せしめ、又た廣く伊太利、佛蘭西、瑞典等に於ける優良なる紡績物職工の吸收は職工の重なる者は多くは伊佛瑞等より來りたる優等職工なりと言ふを得るのである。

從て此等に支給せる給料の如きも亦た其歐洲に於ける高きことは勿論である。例へば染色業に就て之を見るも其技師、職工は敏洲の夫よりも遙かに高き給料を以て容易に先進國たる伊、佛、若くは端西等の熟練なる技師、職工を傭聘することは出來、例へば端西とは四弗を給すれば良い職工を聘ずる事を得るが米國にては一週間四弗を給すれば良い職工にても一週間に九弗を拂はねばならぬ。又端西等職工は一週間八弗を給すれば米國にては下等職工にても一週間に三十弗以上を支給せざれば上等職工を雇ふ事は出來ないのである。歐洲に於ては職工は働くよりも米國で働くが爲めに多くの收入が有つて有る。斯の如き次第なるが故に

福島郡田地郡常陸所の武欽織造工場に於ける二十三台の調年二百二十日間に織出せる十種の實類種其ものを以て

先進國の熟練なる技術者又は職工は寧ろ喜んで米國に來たるの傾向が有る、現に米國の機業に從事する職工は伊、佛、瑞英、墺、獨等の國民多く、稀に魯西亞、「ルーメニヤ」希臘「アルメニカ」「シリア」人等も亦た少くない。

職工は實に機業に對する最大資本である。之れ無ければ如何に資金が豐富であつても如何に器械が精巧であつても、之を圓滑に且つ有効に活動せしむる事は出來ぬ、米國機業家が早くより此點に着眼し人を節して其体を厚くし、優等職工の使用に深く意を用ふるは亦た偶然でない。

豐富なる職工が其事業に熱心なる事、又た機業の企圖に就ては其土地の所有者若くは市民が常に其課稅上、市、若くは市民が常に其建築上又は資本の融通上等に

就て互に相協力して幾多の特典と便利とを與ふるが如きは實に今日の發達を來たせる間接の大原因と言はねばならぬ、殊とに「ペンシルヴアニヤ」州に於ける低廉なる石炭の供給「ニユーゼルシー」「マサチユセット」「コンネクチカット」「ニユーヨーク」等に於ける機業地の水利交通若くは生產品の販賣上等に於て至大の便利を有する事等も亦た其發達の一原因に加へねばならぬのである。

米國機業發展の原因に就ては既に其大要を說いた然らば其將來に就ては如何、米國の今日の富力を觀る時は其將來の事亦た之を想像するに難くはない、何となれば米國の財界は此二三十年來非常の膨脹發展をなし、今や歐洲の資本家と共に世界的活動と信用とを發揮するに至り、諸產業も保護政策の結果倭々乎として生產の豐富を致し、更に進んで需用地の開拓に從はんとするの情况なれば、其前途は實に光明を以て充たされて有ると言はねばならぬ、今「フヰスク、エンドロビンソン」會社の調査に係る統計表に就て近年に於ける米國々力の發展及び其將來を見るに實に驚くべきものである。左に參考の爲めに之れを揭ぐる。

種別／年次	千八百九十年	千九百年	十年間に於ける增加の割合
人口	[illegible]人	[illegible]人	[illegible]
銀行資力	[illegible]弗	[illegible]弗	[illegible]
手形交換高	[illegible]弗	[illegible]弗	[illegible]
流通紙幣	[illegible]弗	[illegible]弗	[illegible]
富力	[illegible]弗	[illegible]弗	[illegible]
農作物	[illegible]弗	[illegible]弗	[illegible]
鐵材產額(千九百七年)	[illegible]噸	[illegible]噸	[illegible]
金產額(千九百七年) 數量	[illegible]オンス	[illegible]オンス	[illegible]
價格	[illegible]弗	[illegible]弗	[illegible]
銅產額(千九百七年)	[illegible]封度	[illegible]封度	[illegible]
工作品(千九百四年)	[illegible]弗	[illegible]弗	[illegible]
輸入	[illegible]弗	[illegible]弗	[illegible]
輸出	[illegible]弗	[illegible]弗	[illegible]
汽車 哩數	[illegible]哩	[illegible]哩	[illegible]
價格	[illegible]弗	[illegible]弗	[illegible]
總收入	[illegible]弗	[illegible]弗	[illegible]
純益	[illegible]弗	[illegible]弗	[illegible]

右の數表を一覽する時は誰か米國財力增進の顯著なるに驚かざる者がある、一國財力の增加が此の如く著大なるを以て人民の財力も亦た從つて增加し、千八百八十年に於ける人口一人の富力八百五十弗二十仙なりしもの、千八百九十年には千三十八弗五十七仙千九百年には千百六十四弗七十九仙千九百六年には千三百十八弗二十仙に增進した、我國の人口一人の富力が僅かに二百五十弗餘なるに想倒する時は轉た悵悦たらざるを得ぬのである今や米國は約百五十六萬七千五百二十七方哩の面積を有し、林產、農產、鑛產、水產等其財源に富める事は一たび米國の地を踏みたる者の常に嘆賞して措かざる所、而かも其面積に比すれば人口は極めて稀薄爲めに此等富源の今日迄開發せられたるものは、僅々一小部分に過ぎないのである。今千九百年の人口調査に依れば全國の人口は七千五百六十九萬餘にして、其人口の最も稠密なる北部太西洋沿岸諸洲に於て其數一方哩平均百二十九人に過ぎず、南部太西洋沿岸に在りては三十八人北部中央諸州に在りては三十四人南部中央諸州に在りては二十三人西部太平洋沿岸諸州に在りては百七十七萬五千方哩の大面積を擁して爾かも一方哩平均の人口は僅かに三人半に過ぎぬ、全國を平均して其數漸く二十二人に滿たないのである。之れを歐洲諸國の一方哩の平均人口英國の三百六十三人佛國の百九十二人獨逸の二百九十人伊太利の三百四人和蘭の四百四十八人將た我日本の三百二十二人に對比すれば厚薄の差實に甚だしきものである。右は約十年前の調査にして人口八千七百餘萬人に增加したる今日とは多少其事情を異にして居るべきも、蓋し大差なきものと認て差支ないと思ふ、是に由て之を觀れば米國の將來は人口の增加と共に未開の地は次第に開拓せられ、生產品の價額は益々增加し、其前途の光明は洋々乎として、春海の如きものあり、富力の增進に伴ふて衣食住の度亦た昂進するや言を俟たず、從て我絹布の需要は如何なる程度まで達するや圖り知るべからざるものありと思ふ既に說ける所の如き、原因を以て起りたる米國の絹業は右の如く將來に於ても實に滿々たる希望を屬するに足ると言ふことを得るのである。(未完)

又た千九百年對千九百八年及び千九百八年對千九百二十年(豫想)增加比較表を揭ぐれば左の通りである。

種別／年次	千九百八年	八年前に對する增加割合	千九百二十年	十二年後の增加割合
人口	[illegible]人	[illegible]	100,000,000人	[illegible]
銀行資力	[illegible]弗	[illegible]	[illegible]弗	[illegible]
手形交換高	[illegible]弗	[illegible]	[illegible]弗	[illegible]
流通紙幣	[illegible]弗	[illegible]	[illegible]弗	[illegible]
富力	[illegible]弗	[illegible]	[illegible]弗	[illegible]
農作物	[illegible]弗	[illegible]	[illegible]弗	[illegible]
石炭(千九百七年) 數量	[illegible]噸	[illegible]	[illegible]噸	[illegible]
價格	[illegible]弗	[illegible]	[illegible]弗	[illegible]
石炭產額 數量	[illegible]噸	[illegible]	[illegible]噸	[illegible]
價格	[illegible]弗	[illegible]	[illegible]弗	[illegible]
鐵材產額	[illegible]噸	[illegible]	[illegible]噸	[illegible]
金產額 數量	[illegible]オンス	[illegible]	[illegible]オンス	[illegible]
價格	[illegible]弗	[illegible]	[illegible]弗	[illegible]
銅產額	[illegible]封度	[illegible]	[illegible]封度	[illegible]
工作品	[illegible]弗	[illegible]	[illegible]弗	[illegible]
輸入	[illegible]弗	[illegible]	[illegible]弗	[illegible]
輸出	[illegible]弗	[illegible]	[illegible]弗	[illegible]
汽車 哩數	[illegible]哩	[illegible]	[illegible]哩	[illegible]
價格	[illegible]弗	[illegible]	[illegible]弗	[illegible]
總收入	[illegible]弗	[illegible]	[illegible]弗	[illegible]
純益	[illegible]弗	[illegible]	[illegible]弗	[illegible]

有限責任販賣組合松代製絲改良組（承前）

有限責任販賣組合松代製絲改良組監事　大里忠一郎

ドンナ經營法をして居るか

一體此組合は私の地方に於ける座繰製絲の粗製を防がうといふを目的として經營したものでありましたが何しても初は前事の覆轍に鑑みて其成功を危み時に或は仲買人等の奸言に惑はされて加盟を躊躇するといふ有様でした、私共始め日夜奔走した結果といふものは加盟者僅に、五十餘名といふ少い數で經營上非常の困難を感じたのでありましたが組合員一同の奮勵と先進者の誘導とによりまして漸く其緒に着くことゝなりました、經營の方法は主として前の規模に據りましたもので、前組合創立以來の大要を述ぶると大略左の通であります。

家屋其他の設備

當組合の創立總會は明治二十九年一月に開いたのでありますが、其資本は極めて僅でありましたので、信用も乏しく到底完全な設備をすることは出來ませんでした、そこで事務所工場に當つべき土地、家屋、器械一切の設備を私の家で整へ、之に對して組合から若干の賃借料を支出するといふことにして松代町へ五畝二十二歩の地を求め八十餘坪の建坪で事務所、工場等を新築し揚返器械五十八臺、水車等一切を總計二千五百圓で其年の四月に造り上げました、七月一日から依托製絲や揚返加工等を開始しました、事務に不熟練の爲め、非常に繁雜を極めましたが、漸々月日の經過するに伴れ製絲其他重要品の保管の爲倉庫の必要を感じましたので、再び拙宅で新築して貸與しました、其の後繭生絲、屑物の賣買を助くる爲に二階建一棟十四坪、平家一棟二十坪を新築して之を市場と仲買人食堂に充てましたが、其後收支償はないので閉鎖致しました、併し組合製絲揚返の方は年々に盛大となりまして遂に三十四年二月又々拙宅で揚返工場二階建二十坪一棟、大繭乾燥室二階建十二坪一棟を増築して貸與することにしましたが、今度は事務所の狹隘を告げましたので、之を増築し其他水車、門棚等にも改築を加へました。

製絲の改良

わが組合では製絲改良の方針としまして揚返工場を設け、組合員の製絲は總べて小枠取とした儘揚返場に集めまして、絡交の最も完全なる改良式揚返機械で之に周到丁寧なる加工をして適當に乾燥し、夫々品位檢査を致して絲質の優劣を見別け、皆一定の纎維に揃へまして纎度の不統一を避け、成るべく機業家の需要に適する樣に努めて居ります。で、依託者に對しては賣上金の配當法に等差を付して良工の製出を奬勵して居ります、不幸にして製絲上に缺點を見出した時は丁寧に注意してやり、且つ時々技術員を遣つて繰絲法を敎へるといふ仕組にして居るのであります。今此等の順序を御話し申す代りに創立總會で取極めました取扱規則を御覽を入れませう。

松代製絲改良組取扱細則

當組合規約第壹條の趣旨により左の細則を確守せしめてをります。

第一條　繭撰分方ハ水繭、中繭、屑繭、汚繭、死籠繭等始メテ精細ニ區分スベシ

但シ水繭ハ可成足踏器械ニテ製絲スベシ

第二條　工女ニ繭ヲ配分スルニ一枠ノ絲量二十匁ヲ目的トシ四枠ヲ以テ一揚トス

第三條　揚返場ヘ小枠ニテ製絲ヲ持參スルニハ月日、工女姓名ヲ記シ及ヒ揚返委托人ノ認印等ヲ捺印セル用紙ヲ添フベシ

第四條　製絲檢査ハデニール、色澤類節等ニヨリ數等ニ區分シ檢査員ハ其檢定セル等級及ビデニールヲ記シタル小札ヲ附スベシ

第五條　檢定等級以外ノ製絲ハ無商標ニテ特別賣ヲナス

第六條　揚返絲ニ於テ丁寧ニ之ガ取扱ヲナシ完全ナル裝飾ヲ施シ首尾ノ緒ヲ見易キ様口取ヲナスモノトス

第七條　尙組合賃錢ノ割合ハ當分左ノ通リトス

一揚返括造飾裝賃共　絲量百匁ニ付金六錢五厘但シ一揚ノ絲量ハ九十匁以上九十匁ヲ目的トス故ニ過不足ノモノニ對シテハ金貳錢ヲ増加シ[illegible]立ツベシ

第八條　纎度ノ目的ハ當分ノ內十四中デニールト定メテ均一ノ纎度ニ[illegible]ス様スベシ

第九條　當組合ニ於テ天災又ハ人力ノ防グ能ハザル事變ヨリ生[illegible]セルモノハ總テ委托者ノ負擔トス

第十條　製絲ノ目切レ又ハ損シ絲等アルモ當組合取扱上ノ過失ヨリ生ジタルモノニ非ザレバ之ヲ負擔セズ

此第七條の賃錢の割合は其後物價の騰貴其他に伴ふて度々變りましたが、只今は拾錢に上げて一揚の生絲量を八十五匁にして居ります

●蠶種統一に關する東筑組合の意見

信州東筑摩蠶種同業組合は官營蠶種統一問題につき世間より往々誤解を招くの恐れありとて某新聞社へ左記の意見を寄せて之が公表を依賴したり

一　當組合總會決議の要旨は蠶種統一は若干の年所を以て官民合同の調査研究を遂げたる結果始めて其目的を期するを得べしと云ふにあり而して其方法としては官民合同の種類撰定會を組織し政府は其撰定に係る種類の公表をなすと共に該種類の模範を示し並に之が取締をなすべしとするものに候

一　蠶種統一の手段方法として原々種官營又は原種縣營の如きは民營を奪ふものなる而已ならず危險極めて多きを以て絶對に不可なりと云ふに有之候

而して組合總會に於て撰出せられたる實行委員は關東桑の方針により統一實し來りたる者に御座候本月二十三日の代議員會が總額三千七百四十餘圓の內實に八百三十圓を蠶種統一調査として議決したるは是の見に外ならず候（以下略之）

調査

印度に於ける養蠶(承前)

學藝委員 農學士 須田金之助

蠶具類

四、**剉桑器**　本邦に於ける押切の如きものであつて木製の臺に固定せる大なる刀である、是を印度にて「バンテイ」と稱するのである、之にて桑葉を左手に持ち剉切する狀況は實に巧みなるものである、細剉せる桑葉は稚蠶に給する爲に準備するものであつて、桑葉を稚蠶の上に直接散布するものである蠶兒の生長するに從て漸次剉桑の寸法を大きくし、二眠後は「ベンガル」式桑葉の小枝を蠶兒の上に置て食せしむるのである。

五、**蠶網**　蠶網に就ては別に異なりたるを見ない、網は四十枚の蠶箔に對して八十枚の準備を要すると云ふことは、彼我共に同樣である、蠶網使用の利器として說く所は次の三點にある、即ち第一除沙を每日行ふに便利である、第二、蠶兒の分箔に便利である、第三、遲眠蠶と眠蠶とを分離するにも用ゆるのである、網の使用は未だ廣く行はれ居らざるも、右の如き利益あるを以て、漸次利用するもの多くなる傾きがあるといふことである。

蠶室蠶具の消毒

消毒劑としては硫酸銅と硫黃とのみを使用し居る、各養蠶期每に硫酸銅の半「シーア」を要し、育蠶終れは蠶室、蠶箔、蠶網及他の諸道具を洗滌するのである、硫酸銅と水との割合は重量にて一と百との比例である、硫黃は又各養蠶季每に一「シーア」の準備をせなければならない。

硫酸銅を以て消毒するには以上の如く一「ペルセント」の溶液を使用するのであるが、先づ硫酸銅の半「シーア」を取り之を水五十「シーア」に溶かし、此を以て蠶室の內外前面を清潔に拭ふのてある、而して蠶具を消毒するも同樣である、唯「チヤンドラキ」即ち「エピラ」は一度火焰の中を通過し、凡て繭綿の如き附着物を燒棄し、次て流水若くは「タンク」中に浸し猶濕氣を帶べる內に之を消毒せる室內に容るゝのてある、各種の蠶具類を室內に入れ終らば、硫黃の半「シーア」を粉末にし「ハンデイ」と稱する土器に容れて、之を緩火に掛くる硫黃が熔解して自ら火を取るに至れば土器を飼育室內に入るゝのてある、而して戶外に出づる際、各窓戶を密閉して十二時間位放置しなければならない、斯くするときは硫酸銅の作用を逸れたる病芽は硫黃の火焰に據て殺滅せらるゝのてある、斯くの如く硫黃の煙蒸を終らば蠶卵を室內に入れて孵化せしむるのである。

孵化に供する蠶卵も亦消毒するのである、蠶種には框製普通製共にあるけれども、何れも消毒するが之を消毒するには矢張り硫酸銅の一「ペルセント」溶液內にて洗ひ直に廣濶なる場所にて蔭乾となし、次て消毒室內の蠶箔に容るゝのてある。

蠶種

「ニスタリ」種の蠶卵は六蛾分にて一「シーア」の繭を得べく「チョータパリユー」種は十蛾分の蠶卵を要し、歐洲種は三蛾分「バラパリユー」種は四蛾分を要する、「ニスタリ」種は一蛾四百五十粒を產卵するを以て之を飼育せば四百箇の繭を收め得べく、其繭の品質良好なれば千三百箇の繭にて一「シーア」をなす、斯樣に計算し來れば三蛾分にて一「シーア」を得らる割合であるけれども、實際多數に飼育する場合には五六蛾分にて一「シーア」の收繭を見るものである、中には蠶卵の發生せざるものもある、蜘蛛に喰害せらるゝのもある、又は守宮及鼠の害を受くるのもあれば、成熟せる蠶兒にして上蔟せるもの「エピラ」內より鳥に啄まるゝもあり、其他蜂害を蒙るものもある等之が爲めに蠶兒の減ずること少なくないのであるから、「ニスタリ」種は五六蛾「チョータパリユー」の八蛾乃至十蛾分を要する理由である。

桑葉にして三十「モーンズ」を得らるゝとせば、歐洲種百蛾分「バラパリユー」種百五十蛾分「ニスタリ」種二百五十蛾分「ヨータパリユー」種四百蛾分の蠶卵を準備せなければならない、三十「モーンズ」の桑葉を得るには喬木仕立の桑樹十五本若くは又「ベンガル」式桑園即ち根刈仕立のもの一「ビガ」丈存すれば十分である、ムアシダバッド地方では「ニスタリ」卵五百蛾分「チョータパリユー」卵八百蛾分にて一「モーンズ」半の繭を得ば好結果であるとしてある、蠶種の良好なるものを得ば一層良き結果を得らるゝてあらう。(未完)

●製絲業の概況

農商務省の最近調査に依れば全國の製絲業者は三十九萬一千百十四戶にして生絲玉絲・屑絲其他一切の製産額は一億四千八百六十六萬二千六百七十圓に達したり之れを製絲別に表示すれば左の如し

△器械製絲(製絲戶數七千百七十三)

	數量	價額
生絲	一、七七七、六七五貫	一〇一、七三七、八九一圓
熨斗絲	三八、〇〇〇	三一五、〇五五
生皮苧	三二七、九四六	二、一〇四、一九〇
屑物	一五一、三四一	四四七、九九三
價額計		一〇四、六〇四、七二九

△座繰製絲(製絲戶數三十四萬八千二百二十二)

	數量	價額
生絲	七六五、〇五九貫	三七、三六六、一六七圓
熨斗絲	九四、四四〇	六〇四、七八五
生皮苧	七九、五九一	六〇三、六三四
屑物	六六、七五九	一七五、六九六
價額計		三八、五〇〇、二八五

△玉絲製絲(製絲戶數三萬五千七百十九)

	數量	價額
玉絲	一六八、七三七貫	五、三七二、九七四圓
熨斗絲	二、一一七	六四、四三四
生皮苧	一八、一六一	八三、六二五
屑絲	一四、二三九	三六、六二三
價額計		五、五五七、六五六

△眞綿(製綿戶數十七萬七千五百三十一)

	數量	價額
眞綿	六九、七四七貫	一、三二三、二四五圓

但は全國に於ける蠶種製造者は一萬四千四百八十二戶にして其製造蠶種普通製約四百八十七萬六千餘枚、框製二億二千五百五十九萬二千餘枚に及べりと。

心影

本邦蠶界の元勳 練木喜三先生

蠶界何ぞ夫れ不幸多きや

明治四十三年三月二十一日忽然として蠶界の耆宿練木喜三逝去の報あり、蠶界の人皆愕然たり、愕きて悲しみ、悲しみて愕ける人は知ると知らざると皆先生の長逝に痛惜の情を傾倒したり、先生は是れ明治蠶界の元勳として、佐々木長淳松永伍作二氏と共に明治蠶史に不朽の名を傳ふべき人不幸松氏既に逝き先生亦其の後を追ふ、幸にして未だ佐々木翁の健在せらるゝありと雖も、吾人は轉た明治蠶界の落魄に慨せざる能はず、而かも其間副會頭酒匂博士の逝かるゝあり、玆に於て吾人敢て天に問はんとす、蠶界何ぞ夫れ不幸多きや…と

先生の閲歷……微粒子の公表

先生は嘉永三年十一月を以て東京下谷に生る、夙に動植物の研究に志し又醫學の造詣頗る深く大醫順天堂主佐藤進博士池田謙齋博士等と修交あり、明治八年今の大學部に職を奉じ十四年同部御用掛となり准講師たり、其間昆蟲學調査の爲め勸農局に出仕して深遠なる學識を傾け、又十三年植物病理研究の急を唱導して同年駒場農學校に植醫科を新設せらるゝに方りて同主任植物病理學科教師を囑せられ、其教授を擔任せる傍ら植物病理並に害蟲の試驗をなし、其結果は之を圖解として斯學に多大の貢獻をなせり、彼の螟蟲圖解、苞蟲圖解の如き即ち其の一なり、十四年內國勸業博覽會審査官に任ぜられ、同年北海道に飛蝗の害起るに及びて農商務省兼勤を命ぜられ、北海道に出張すること前後二回、よく其效を奏せり十六年に至り先生本邦蠶種にも、ノゼマ、ボンビシス（Nosema-bombycis）即ち微粒子の寄生あることを當時恰も開會中の勸業諮問會の席上に於て公表し、研究の顛末の報告と共に將來に對する注意を促し、別に「蠶病の注意」と題する一書を公にして微粒子病の恐るべきを警告し、更に蠶病試驗場設置の件を其筋に建白せり、我國に於ける微粒子の研究は是より先既に明治八年佐々木長淳翁によりて着手せられ、翁によりて本邦種にも該病毒の寄生せることを確められたるも、未だ公表せらるゝに至らざりしが、先生の研究公表は著しく蠶界を震駭し、遂に蠶病豫防に關する我當業者の注意心を喚起し彼の蠶種檢査規則制定の動機となり、蠶病豫防法の根源を爲すに至れり、此一事は明に明治の蠶界に一大光明を與へ其面目を一新せしめたるものにして先生の功や甚だ大なりといはざるべからず、次で官先生が誠衷を容れ、十七年麴町區內山下町に蠶病試驗場を設置するに及びて先生を擧げて同場主任となし、專ら其研究を行はしめたり翌年始めて蠶業傳習生の入場を許可し微粒子病毒檢査法を傳習するの傍蠶體の解剖、生理、病理の大意を教授し從來科學の基礎に立たざりし、明治の蠶界に一新紀元を開拓せり、即ち是れ我國現在の蠶業教育の濫觴にして同場は今の東京蠶業講習所の前身たりしなり。同年蠶病豫防條例、害蟲豫防條例草案取調を命ぜられ、十九年蠶種貯藏器圖解を公にし現今行はるゝ貯藏器の緒を開けり同年試驗場の西ヶ原へ移さるゝや、試驗の傍ら專ら育英の事に從事せしが、二十年に至り農商務技師に任ぜられ、二十九年蠶業講習所長を命ぜられたり其間先生の門に遊ぶもの數百、方今蠶界の名士として知らるゝ者概ね先生の敎を受けずといふことなし、三十一年職を辭するや、倘自ら一身を蠶業開發に委ね、後輩を導き進路を開拓し、又本會創立以來或は幹事となり、評議員となり、學藝委員を兼ねて日夜會務の爲に鞅掌せらるゝこと十年一日の如く其他或は大日本農會評議員、技藝委員となり、或は宮城縣養蠶顧問となり、或は巡廻講話により蠶界誘掖の實を擧げたること殆と數ふべからず、本會總裁殿下君に賜ふに金賞牌と二等有功章を以てせさせ給ふ亦所以ありといふべし、君著すところ蠶業生理問答、應用動物學、蠶敎、養蠶唱歌、女子蠶業敎科書、應用栽桑問答等十數種あり、吾人は明治蠶界の開拓者たる先生の逝去を學界と實際界とより見て再び玆に惜しまざるを得ざるなり。

足跡天下に洽し

先生我蠶界に在ること實に三十有餘年、其間或は官の命により或は地方當業者の依囑によりて講話を試みたること實に幾千回、朝に東に說き夕に西に講じ、昨は北山に識し、今日は南海に敎へて家居常に席暖ならず、先生而かも自ら以て快となし南閩、北嶺を踏破して得意の蠶業講話を試む、其一度口を開くや藴蓄せる學識と修め得たる實驗の結果とは條々として口を衝きて絕ゆることなく、平易の辭と節面白き抑揚とは君一流の快辯を助けて地方農民を醉はしめ例令難解の事と雖も尙よく理解せしむ、此の如きが故に天下至るところとして先生の名を知らざるものなく曾其の博識に風靡し

たり、然れども嘗て天下に洽かりし足跡は今や悲風慘雨の消すに任せて復た印するに由なし。嗚呼

博學多識立に萬語の説を成す

先生公職を辭してより遊説の間には泉石を愛し、骨董を陳重し老後の靜養に力めたりと雖も其の博覽多識なる、一度其説を聞かんと欲して門を叩くの士あるときは喜び之を迎へ、淳々説いて倦まず、教へて飽かず、千言萬語立に名文となりて現れ来るもの眞に敬服に堪へざるものあり、編者の如き常に其門に出入して教を受け之を諸氏に報ずること屢々なるも話頭必ず逆境に移るを見る、本年元旦號の本報に載せたる「犬頭の絲」一は君が不用意の間に同僚重富氏が聽き得たるものにして全編を通じて先生の博覽多識の溢るゝを見る、而かも今や其人なく「犬頭の絲」の一編空しく先生の絶編として誌上に殘れるを悼む。

先生の性行……凶事の豫言?

先生人となり温厚にして篤實、諂媚上に對せず、威壓下に臨まず、人と語りて城府を設けず、應酬懇切丁寧を極めて未だ嘗て人と爭へることなく宛として君子人の面影を發せり先生逝くの前二週日、本會事務所を訪はる、編者時候の挨拶を爲したる後先生の略傳を掲げ一は以て其德を公にし、一は以て蠶界に龜鑑たらしめん、願くば其閲歴の委曲を承りたしと請ふ、先生笑つて曰く「余焉ぞ君の筆を煩すの閲歴を持たん、生前には憚あり、願くは之を死後に掲せよ」と、編者此辭を聞きて未だ幾何ならざるに先生の訃に接す、嗚呼是れ凶事の豫言なりしか天の惡戲遂に此人を奪ふ編者の胸中追懐の念新なるものあり、乃ち茲に先生が閲歴の一斑を掲げて生前の約を全うし會員諸氏と共に永に先生の靈に捧けんとす嗚呼。

本邦蠶界の耆宿 下田伊左衛門翁(承前)

蠶種の鏡檢を主張して自ら蠶種檢査講習所を設く

明治十九年四月翁東京五品共進會報告を讀けて、養蠶家の失敗が微粒子病の蔓延に基因するを悟り、顯微鏡檢査法の施行の急務を感じ同志數名を糾合して群馬縣島村田島彌三郎氏に就きて親しく微粒子病檢査法の教授法を受け序を以て諸縣を歴遊し、歸途麹町區内山下町農務局蠶病試驗所に於て松永技師の講話を聽き郷に歸へりて直に蠶種檢査の事に東奔西走し、微粒子鏡檢の實を擧ぐるに至れり、是れ同地方に於ける蠶種病毒檢査の濫觴なりとす、然るに其の年六月指田藤十郎氏と埼玉、群馬、長野の諸縣を歴巡して一層蠶種檢査の等閑に付すべからざるを感じ、其の歸るや偶々神奈川縣取締所の蠶種檢査法を議するに遭ふ、即ち翁大に顯微鏡檢査の必要を主張し、遂に同所内に顯微鏡檢査の講習を開き、青年有爲の士を募りて修業せしむるに至れり、其の間反對者の迫害頗る急にして翁の苦心言ふべからざるものありしが、百折不撓よく堪へ難きに克ち遂に勝利の旗を收むるに至れり、然れども翁此の講習に意を滿す能はず、翌二十年一月農務局蠶業試驗場卒業生八隅清治氏を聘して私宅に蠶種檢査講習所を設置し、私財を擲ちて極力斯業の爲に盡瘁せり。

器械製絲場を建て宗壽館を設く

翁又地方製絲業の幼稚なるを慨し、夙に器械製絲場の設立に意ありしが、蛟龍時利あらずして雲を得ることなく、徒らに池中に蟄して其の意を果さず、然るに二十年に至り機の熟するものあるや、翁雲梯を驅突して工事を起し、四月業を始めたりと雖も、不幸にして偶々市價の暴落に遭ひ、數千圓の損失を招くに至れり、茲に於て翁更に範を諸地に採らんと欲し、直に高崎治平氏と群馬、福島兩縣下を巡視し、別に門下生十餘名を群馬縣に遣して蠶種製造法を傳習せしめ、十月養蠶傳習所を設けて宗壽館と名け廣く學生を全國に募りて養蠶法の傳習を行へり。

率先成進社を組織す

明治二十三年翁又地方蠶業の改善をなす爲めには其の機會を必要とするを認め、十月高崎治平、石川國太郎、中村半左衛門、志茂芳傳等の有志と謀り五百名の社員を糾合して成進社を組織し其社長に推されたり、翁の社長となるや、自ら業務を擔當して地方蠶業の改良を圖ること晝夜の別なく、往績漸く擧がらんとせり、翁二十四年に至り更に積極的施設の必要を感じ、社員中より養蠶教授員五十名を選拔し、各地養蠶家の聘に應じて斯業の指導に當らしめしに其の地方蠶業に及ぼせるの效少ならざるものありしより、其の社員たらんことを希望せる者激增し七百餘名の多きを加へたり、茲に於て翁更に蠶種檢査の方法を講じ、社員中蠶種製造家の蠶兒、繭、蛾、卵を檢査し以て益々斯業の改良發展に竭せり、此の結果翁の事業坦々として砥の如く進み、同年宗壽館試驗場を變じて成進社養蠶傳習所とし、更に擴張せざるべからざるに至れり、次で三十年には埼玉縣下に同社傳習所二箇所を設立し、廣く生徒を教養し四十一年には同縣下に更に旒能養蠶傳習所を增設するの盛況に達せり、而して翁又本會評議員として創立以來十有九年間よく本會の爲に盡瘁せらる、本會の發展翁に負ふ所大なりといふべし、於是か我 總裁宮殿下には翁が功績を嘉みして金賞牌を親授せさせ給へり其名譽や天地と共に不朽なるべし。

嗚呼翁の蠶業に身を委ねてより凡べて三十有餘年其の間の功勞事績蓋し筆紙の盡くすところにあらず、唯恨むらくは記したるは少く隱れたるは多からんとを、編者は翁が教養せる幾萬の才幹と翁の精力とが益々多岐なる我が蠶業界に厚からんことを希うて筆を擱せんとす。

●生產調查會委員

生產調查會委員の顏觸は陸海軍兩省を除く各省次官職並院副總裁東京京都大阪神戸名古屋横濱六商業會議所會頭貴衆兩院議員學者實業家等七十名にて事實上の主宰者たる副會長は民間にて聲望ある某實業家を擧げ兩議すべき問題は農商務省に於て目下調查中なさうだ

日本に於ける製絲業の經濟狀態（前承）

伊國　カロル、バイニー

工女一名の生絲の製産高は我伊國の夫れに比すると甚だ少い、尤も平均額は一日八十匁としてあるが、中には夫れより非常に少量を産出するものもあり、中には百匁以上の産額を得るものもある、玆に一寸云つて置き度いことがある、日本の工女は若いのは十歳から十二歳迄で一日の勞働時間は十二時乃至十四時間である、勞銀は地方々々で多少の相違があるが、平均一日十五錢乃至二十錢である、其の外食料費が十錢乃至四十錢である。

山形縣某製絲場では製絲すべき繭を工女の手に渡す前、張り掛かりの外國人が正確なる製絲價格や其の純益を精算することは殆んど不可能事である、多少正確なる標準を得んとするには根本的に繭質、前數年間の平均、各工場の仕事の力法などを調べねばならぬ、唯玆に余の確なりと信ずるものは繭が我伊國より少しく廉價に賣渡さるゝことである、此の點は輕視すべからざる最も重要なる點である。

余が取調べたる節に撰なる繭統計に據れば製絲の價格は總て包含して——詳しく云へば繭の買入れ、之れに關する雜費から橫濱に於ける檢査の費用迄込めて——六十基の一組に付百圓であるが農商務省の統計生絲檢査所の調査に依ると二百圓を下ることはない樣になつて居る（終）

請負で、仕事をやらせるのである、夫れ故か工女は一日一名百匁乃至百二十匁の生絲を製出する。

繭も亦地方によりて甚しき相違がある、其の絲量八匁乃至十一匁は十二匁乃至十五匁の重量は百匁乃至百三十匁又は夫れ以上である、併し絲量の平均は約百匁乃至十匁である、多量の平均は十匁、弱である、收繭は僅かに八匁乃至九匁で、夏繭は夫れより尙ほ少量である。

斯くの如く繭質に相違があるから、繭の代價は地方々々で多大の相違がある、余の見た所では春繭の相場は一貫目に付四圓二十五錢から五圓二十五錢、又は五圓五十錢まで の差がある、秋繭の相場は三圓五十錢から內外で秋には四圓迄で登るのもある、勿論代價は收穫の豐凶と絲價の低落とに依り多大の影響を蒙ることは云ふ迄もない。

此の通り繭質と云ふ代價と云ひ到る處區々であるから、通常の外國人が正確なる製絲價格や其の純益を精算することは殆んど不可能事である、多少正確なる標準を得んとするには根本的に繭質、前數年間の平均、各工場の仕事の力法などを調べねばならぬ、唯玆に余の確なりと信ずるものは繭が我伊國より少しく廉價に賣渡さるゝことである、此の點は輕視すべからざる最も重要なる點である。

余が取調べたる節に撰なる繭統計に據れば製絲の價格は總て包含して——詳しく云へば繭の買入れ、之れに關する雜費から橫濱に於ける檢査の費用迄込めて——六十基の一組に付百圓であるが農商務省の統計生絲檢査所の調査に依ると二百圓を下ることはない樣になつて居る（終）

養蠶年中行事（承前）

愛媛縣立農學校教諭　池田榮太郎
馬場由四郎

四月（清明）

遠山霞を籠め近郊模糊として百草芳を競ひ群花麗を爭ふの時桑芽徐ろに開綻して、宛ら蠶兒の發生を待つもの、如く一年中最も溫和な季節である、蠶兒は此好季に卵殼を離して始めて人間界の愛を蒙むるのである。

蠶種肉眼鑑定

蠶種を肉眼にて鑑定するには左の四項によるものとする、

（一）概略　其の配列の整否

健全なる蠶蛾は大低圓形又は半圓形の順序に連列して其卵殼は相密着し厚附蠶種でも各蛾の產付した卵は所々に區域せられ、之を俗に蛾の働き能い種と云ふ、之に反して產付の不順序或は粗密に又は縱橫に產下せるものは不良なものである。

（二）產着力の强弱

產着力の强弱は種類により著しく差異あるものであるから、大に注意を要するが、概して外國種は本邦種より此力が弱い、本邦種でも角又の如きは此力弱いものである、要するに固有の性質上產着力の弱いものを除く外は全面一樣に產着力の强いのを貴ぶ。

（三）卵の形狀

蠶卵の形狀は先端が稍尖圓で後端は鶏卵の如く豐圓で、中央の凹みは其形に從て正しいものを良とする、大小不同なるものは中央の凹み少いもの、又は不正形のものは不良である。

（四）卵の色澤

蠶卵の色澤も蠶兒や桑葉の種類及土質等の異なるに從ひ一樣でないけれども、本邦白繭種は概して藤色又は桔梗色を呈して光澤の鮮明なものを最上とする、總て色素の如何を問はず、暗色或は一蛾の蠶卵中に異色あるものは良くないものである。

春蠶種第四期保護（催青）

本期は蠶種を貯藏器より取り出して後發生に至るまでゝ卵內の胚子發達する時であるから、漸次溫度を昇らせる樣の手段を取るのである。

桑芽が開綻するやうになつたならば、各自飼育する所の掃立期日を豫定し種子を蠶紙の上に平置し、床板から四尺前後の高さの架に掛して蠶室に移して催青を行ふを適當とする、若し蠶種が多數で數段に分置するを要するときは蠶箔と共に上下に押し換へて成べく温度を平等に成受しめつゝ温度を漸進せしめる即ち最初の一週間は凡そ二週間の前後は毎日凡そ一度づゝ上昇せしめ、次の一週間は凡そ二度づゝ上昇せしめて催青中は卵内の胚子の發育する時期であるから呼吸も從て頻繁である、爲に卵中の水分は蒸發減耗せられて次第に缺乏するものであるから催青中蠶室内に置いて空氣中に適度の水分を含有する生の前日には當宜の法を用ひ、適宜の温氣を補ひ蠶兒を養ふに發生せしむる手段を取るが肝要である。

火力使用

火力の使用法とは先づ炭を室外適宜の場所を選んで燒らし火の充分行き渡つて針金の如く堅く燒いた炭を被せ掩ふのである、第二に掛灰の爲に炭の消ゆる憂がなく、第三に室内に火力の爲に敗損するを防ぐものである、然し其使用を誤る時は桑葉の腐敗を促がし、或は蠶兒に最も必要な空氣中の酸素を燃却し、有害な炭酸瓦斯を非常に多く生ずるものであるから天候及蠶兒發育の狀況を考へて適度に使用するがよい。

火力の効用は第一冷氣を暖め、第二水濕を去り、第三空氣の交換を密かならしむるもので、之を火力の三大効用と云ふのである。

春蠶掃立

殿國に於ては中旬頃既に蠶兒の發生を見るけれども、漸次寒國に入るに從て蠶兒の發生は遲い、例へば日向地方では四月十日以前で秋田地方では五月二十日前後で斯樣に差があるを以て此掃立法は第一蟻蠶を損傷せないこと、第二蟻量を正確に知ること、第三蟻蠶の食桑を同一にすること、第四蟻蠶の食桑を適宜配當する等の目的に叶へば何れの方法を選ぶも可い、併し掃立前に室内温度は可成七十度に保持して掃下しの前夜から適度の温氣を補ひ蠶種を紙に包み蠶箔に平置するときは大低翌日午前十時乃至正午頃に孵化するから、其より三四時間を經て午前九時頃迄には孵化するを認め掃立てるのを好時期とする、但し夏秋蠶は多少遲酌せねばならぬ。

國風圖詠

四月號、清和、麥秋如繰綺。薰風漸暖。蠶多宜分理。
高首龍鳳形。三眠復三起。蠶大葉更優。時時勤桑餌。
食如鳳雨聲。絕一心喜。殷勤三力功。絲成織能比。

屑物整理（承前）

本會常務幹事　吉永信

紬の製造法

紬繭は如何に取扱ふか、紬繭とは生絲にもならず眞綿にもならぬ、玉繭や出殼繭、穴明繭、鼠喰繭其他天蠶柞蠶などの屑屑繭を製ふものの部で中上したから茲では省きます、ソコで紬には二時間水に浸し置きまして直ぐに煮繭致しますが、其他の繭は一夜水に浸し置きます、水に浸す時分は何か重きもので能く浮き上らぬ樣に注意せねばなりません、翌日になりましたならば袋のまゝ取り出し搾りまゝ三度水を取り替へ汚れて水の出ぬ樣になりましたならば袋の中で繭が動かぬ位にして袋の口を括り、然る後沸騰せる藥湯中に入れまして釜には中蓋を覆ひ、沸き出した時に時計を見て一時間又は四十分と定めの時間まで煮くのであります、此間袋を二三度上下に返してむら煮の出來ぬ樣注意せねばなりません、餘り度々袋を動かし、又つゝきまわしますときは、繭が縺れてよろしくない、コレから茲で藥量と煮繭時間とに付て一寸御咄申して置きますが、曾根も御承知の通り紬繭は普通の繭と違ひ紬繭後に製紬致します、私の家には紬繭を專門として居りますので製した品は一々繰立て試驗を致します、然

るに製紬後に精練致しましたものは絲と絲とクツ付合ひ繰返しが非常に困難で一人が繰りますのに一人が綽へず從事して居ても少しく絲紬とか燃りても若いときなら間に合ひ後者なると云ふ位で其だけ工費を要しますし、されば之て燃が強過ぎては綽の多く入りし割合に地合薄く見へ、光澤の良くない荒々しく成て燃物が出來ますから、次に示します表は製紬後精練せずに直ちに使用するのであります、尤も始めての方が製造しますと色黑く光澤のない見悪い下等の紬より出來ませんが、逆に上達に連れ色澤美なる眞紬に劣らぬ品が出來ます、併し又白に繰り反物となして後精練致しますには、從前の通り若煮と致しても差支はありませんから、二樣に表示することゝ致します。

製紬後精練して使用するもの

屑料繭	屑料量	水量	練機	重量	煮時間
玉繭	一、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	一、〇〇
出殼繭	一、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	〇、五〇
汚繭	一、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	〇、五〇
穴明及鼠切繭	一、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	〇、四〇
天蠶及柞蠶繭	一、〇〇	二、〇〇	一、五	二、〇〇	〇、五〇

製紬後精練して使用するもの

屑料繭	屑料量	水量	練機	重量	煮時間
玉繭	一、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	一、〇〇
出殼繭	一、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	〇、五〇
穴明及鼠切繭	一、〇〇	一、五	二、〇〇	二、〇〇	〇、五〇

繭	一、	一、五	一、五	一、五	〇、四〇
天蠶及柞蠶繭	一、	一、五	五、五		一、三〇
汚繭	一、	一、五	一、五		〇、五〇

右の表は一升宛煮る時の事でありますが繭を一斗も煮る場合には藥品も少々減じて水なども少なくして宜しいのであります。

煮繭の取扱は如何にすべきか　煮繭の定時間が參りますと二三粒袋から取り出して水にて洗ひ引き延べて試みませんと火のもへが減つても煮へ工合がちがひます、適當に煮たら袋のまゝ水中に取り出し、袋のまゝ兩手にて靜かに握り三四度水を取り換へ、汚れ汁の出ぬ樣になりますと揚繭なれば袋のまゝ強く搾り、取り出して縺れ合ひし部分を指頭にて切り一握り宛分け手に持ちしまゝ靜かに水中に入れ、他の繭の水にかゝらぬ樣搾る事二三回、かくて汚れ汁の出ぬまでになりし時は僅かばかりの水の中に入れ浸し置きます、出繭などは袋より直ぐに水中に入れ、少し宛つまみ引揚げますと縺れずに思ふまゝに分ける事が出來ますから前の通り、汚れ汁の出ぬまで洗ひし後は少しの水に浸し置きます、煮繭の取扱中に注意すべき事は繭の上から水を直接にかけてならぬ事と、浸し水の多きに過ぎる事で、何れも繭がつれて製紬困難となります爲め、屑物を多く出し、製紬時間が永くかゝり出來た紬も品位を惡くいたします、併し浸し置く水は夏分などは時々取替へ、夕方仕事の終りには必ず新しい水に替へねばなりません、ソレから煮繭後直ぐに製紬しますと餘り製し易くないし、又餘り時日の立つたのも製し惡いから煮繭後二時間過ぎてより二十時間位の時が最も製紬し易いと思います。

一寸玆に練糠と重炭酸曹達とに付私の經驗を申上ますが、重曹達で煮たものは繭が殊に細くなり、何となしにキシ〳〵として製し易くないと思ひます、又練糠で煮ますと繭がふんわりとして細りません、そしてズワ〳〵として製し易く且つ絲量も重曹達より多くあります、一ぽんどの代價は重曹なれば六錢で何處にもありますし、練糠は十六錢で熊本市西坪井町山本染料店に販賣して居ります。

紬は如何にして製するか　煮繭後二時間立ちますと能くかせて製し易くなりますので、其間に紬器械に油を付け用意を爲し置きまして繭を一握り宛分け置きしものを取り出し、他の繭は水のかゝらぬ樣靜かに餘り強からず搾り、玉繭は一粒宛他は二三粒揚繭は三四粒宛分け、左の手に繭を持ち、右の

手にて二三尺引延し絲の端をくだに卷き付け小環を通じ、然る後上の方にあるわらび手にかけ、右手にて原動の大輪を向ふの方に廻し、靜かに踏木を足にて踏み、左手にて繭をまわし一つ宛加減して上層から絲の出る樣右手に引延します、始めての人が不注意に製しますと直ぐに上層丈はくるりとむけて下の方から絲が出て後になりますと上層丈手に殘り何分にも引く事の出來ぬ樣になりますから、上層は極靜かに引延べ、中になつたならば手も足も早くして出來得る丈多量に仕事をせねばなりません。

製紬中注意すべき事は絲の方が思ふ樣に早く出ぬのに、足のみ早く踏みますと烈しく撚が入り過ぎて切斷します、よし切斷せぬとしても色澤が惡いのであります、又絲が早く引出せるに足が晩いと撚が若くてむら撚りとなり、撚りの若い處は染付惡しく大變に光つて繰返しの時クッ付合ふて切斷しますし、織上げた品も染むらなどて誠に見惡くなりますから手と足のつりあふ樣能く〳〵注意せねばなりません。

斯くて一くだ出來ますとくだかけに掛け、向ふの揚枠に絲端を結び付け置きますと、自然に綛せとなります、ひとりは蛹襯と同じ樣にして一升分には五ヶ所か六ヶ所あみ置き緒止めも蛹襯と同一に致します。

通俗 **女子製絲敎本** 全　鯨島茂著
本書は本邦製絲業の狀態より說き起して、女子と製絲業との關係を說き、女子の修養に至りて最も喜ぶべき賢母良妻の道を敎へ、夫より製絲器械の說明を旨し更に進んで繰絲の方法を懇切に說き明かしてある、正價金拾五錢 發行所東京市日本橋區活屋町十四番地丸山舍書籍部。

說林

犬頭神社に就て

特別會員　高瀨慶作

關西聯合府縣共進會に際し大日本蠶絲會第六回總會を名古屋市に開催せらるゝに當り名所案內として三河國犬頭絲に緣由ある寶飯郡千兩村犬頭神社を報導せられた、然るに碧海郡六ッ美村大字宮地に犬頭大明神ありて衆庶の信仰厚く蠶絲犬頭絲に緣由あることを知られさる者の如くであるから左に之が考證を錄し江湖に之を紹介せやうと思ふ。

（一）正四位上犬頭大明神　坐碧海郡
（三河國內神明帳）（延喜年間撰）

（二）三河國犬頭白絲二千絇　夏調
（延喜式）

（三）犬頭糸蠶絲語　（全文略）
（今昔物語）

（四）藏人信勝申上二犬頭絲一解文二通下宣取レ之先內覽次持二參院一於陣二尖覽一乘太后宮御方一件絲自二參河國一街二一兩別二四百匂一近年以後三條女御々領碧海庄立券中被二施美所出一仍彼庄分進二六十匂一國領分進二三百四十匂一仍解文有二二通一也年中御服用途大事申二入宮御方一歟　（仁安三年七月六日未ノ條）
（兵範記）（古事類苑）

（五）三ヶ國上和田村に犬頭社と云ふあり顯人は深更に及び管鋼百疋をつなひて

喰へ鳥居の邊より社殿四ケ讀ひに讀ひて行けば必需を得ると云ひ傳へたり
（諸國里人談）（大日本地名辭書）

（六）犬頭社領之事
參河國碧海郡上和田宮地村之内四十壹石任先規所寄附也并宮中竹木諸役令免許
訖者神供祭禮無懈怠可勤仕之狀如件
慶長八年八月二十八日
（德川幕府寄附狀）
（七）當神社は每年四月十五日蠶神祭を執行し神符を受與す
（八）當地方は往古より畑地の境界に桑の木ありて境桑と稱し之れを以て境界標
となせしも維新改租の際木杭と改められたり之れ往昔桑園の遺物なり
（九）明治四年額田縣の命を以て糟目犬頭神社と改稱す
（神社明細帳）
（十）碧海郡六ツ美村大字宮地
鄕社　幣帛料供進指定神社
糟目犬頭神社

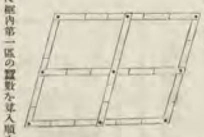
前記（一）は延喜以前に犬頭大明神の碧海郡に坐せしこと（二）（三）は犬頭糸と犬頭大明神は御名に於ても緣由あること（四）碧海郡は特に絹文を以て犬頭糸を奉りしこと（五）繭は即ち衣食にして祭神は蠶業の祖神なる保食大神なること（六）上和田と宮地村とは同意味なること及慶長以前に於ても寄付地なりしこと（七）（八）は蠶神として祭れる所由（九）は御社名の變りたること（十）は當時の御社名及社格である。

蠶兒頭數調査器

特別會員　久保田　德一郎

蠶兒の頭數は一寸調査する程の要もない樣であるが……育蠶上蠶病豫防上之を精査する必要がある、何となれば同一量の蟻蠶でも種類に依り飼育時季に依り化性化別に依り催青の如何に依り著しく其の頭數を異にして居る、のみならず實際飼育中に於て、如何に周到の注意を拂へ巧妙の技術を盡しても多小の遺失蠶乃至病蠶を出すのは免れない、從て健蠶の數は常に同一でない、からして當業者健蠶の數量に應じて飼育上の要素を酌量し或は收繭の豫想よりも製種の豫算を推定するの必要がある否 必要無いではないが唯 之を一々算數するの煩に堪えぬのであろう、併し是れも試驗的の少數なる長大の壯蠶に對しては何の苦もないが、實業的の多數なる細小の稚蠶に於ては頗る困難の事と謂はざるを得ない。

されば從來當業者と云はず、當局者と云はず、蠶況視察上蠶兒の頭數は勿論病蠶の歩合をば概ね一箔何頭若くば何十頭と殆ど概算的目の子勘定的に打算せられたのみで、更に一歩を進めた精密の調査は頗る面倒と云はんより寧ろ手間代であつた、況んや全箔全室全蠶の總頭數を算定して、減蠶や各種の病蠶蠶を調査し、飼育の巧拙を察し、蠶作の豐凶をトするに於ておやで……風毫の差が千百の謬を生じた類例も少なくない、之れと云ふのも畢竟長短を正すに尺度あり輕重を粹るに衡器ある如く、此の種の方面に一定の基準となすべき器具の闕如せる爲め各自一時の不便を忍びつゝ思ひ〳〵の考案を以て概算した結果に外ならんのであらう併し斯業日進月歩の今日、タトヘ忙中閑なき蠶期と雖も思ひ乍ら迂遁の方法に甘んじ、不便不利を敢てするを許さない、必しも時世に應じて敏速に着實に業務の進捗を圖らざるを得ずだ、余は此の邊の消息よりして左揭の器具を案出して、年來之を實地に試用したる處頗る便利を感じたから、茲に紙面を汚して識者の評正を希ふのである、



本器の裝置は甚だ簡易て、長さ五寸餘、幅一二分乃至二三分、厚さ適宜を有する竹片を圖の如く縱形に蝶着して、付着部を左右に動さるゝ樣に製作するのである、で尺度の如く目盛のあるのが便利で、框內の面積二十五平方寸即ち五寸眞四角が適當である、而して本器は菱形に屈曲が出來るから携帶に目盛があれば尺度や定規の代用にもされる、

先づ蠶の頭數を調査するには、食桑後之を實行せんとする箔上適當の位置に伸展して、初めには框内第一區の蠶數を算入順次二三四區に及ぼし全框内の數を知り、然る後此の數に四を乗じて尺枰の頭數を論し、而して六枰箔なれば僧之に六を乗じて全箔蠶兒の頭數を算定するの法で、區域が劃然として有るから各蠶紛雜の憂もなく且つ蠶體が移動するの虞もない、で多分の蠶に對しては二三箔乃至數箔に就て此の方法を施し、一箔の平均數を得れば如何に多數なりとも比較的敏捷に且つ精密に査定することが出來る、のみならず蠶れ病蠶の有無多少、蠶坐の廣狹、給桑の過不足等を理想的に而かも迅速に究知し得らるゝの便益がある。

云はずも哉、蟻量標準飼育は普通の協合大體に方て誤謬なかるべきも、世間未熟の養蠶家は概ね蟻量を粹るに拙劣なるのみならず、飼育中不識不知遺失蠶や減蠶あるに心付かずして標準の給桑や分箔を行つて却て失敗を招く者がある、又地方製種家中には自己營業上の好餌より故意に掃立蟻重を不正にし、或は讓渡蠶兒の頭數を欺瞞するやの疑ある者も無きにしも非らずだ、若夫れ是等の疑念や失敗や乃至蠶兒品評會や蠶況視察鑑定に際し、本器の應用に依りて或は其の弊害の若干を減却することが出來、多少なりとも參考に資する處が有れば敢者の光榮は之に過ぐる者なしだ。

微粒子病の輕減に就て

通常會員　長谷川榮治

微粒子病は恐るべき蠶病なるを以て古來官民一致して或は蠶種檢査に蠶室蠶具の消毒に飼育に改善を加へて之れが殺菌驅除豫防を講じつゝありと雖も未だ其成蹟の顯著なるなきは吾人の深く遺憾とする所なり。

余は玆に全國蠶種家諸君に向ひ微粒子等を全滅に近からしむるの方法を紹介し蠶病豫防上の一助となさんとす。

微粒子病毒の撲滅を圖り之れが實驗をなせるは蠶種家にして其製種に係る蠶種は余も數年來飼育を試み常に其好の結果を得たり、而して其全滅方法として實行すべきは左の各項なりとす。

一、蠶室蠶具の消毒を嚴重に勵行すること
二、飼育中類擬を利用し蠶座の温濕を防ぐこと
三、四五齡期には給桑の度每に乾燥せる切藁を散布して其上に給桑を爲し常に蠶體と蠶沙とを隔離すること
四、可成的除沙を頻繁に行ふこと
五、飼育中病蠶を淘汰し病毒の散亂を防ぐこと
六、桑園には蠶糞を肥料として施さゞること
七、極力蠶兒を強壯に成育せしむること

等の七箇條を實行せば其目的を達し得べしとなし往年の春蠶期に原種十枚を掃下し右の各項中殊に壯蠶期百五十枚に對し十三駄の藁を使用し而して此藁は長さ一寸位に切りたるを每給桑の前に撒布せり、而して五齡期には溫度下降するも戶障子を開放し、降雨の場合には焚火を爲し、濕氣の排除と空氣の新陳代謝とに意りなかりし結果、收繭中より種繭三十四貫を選別し、千三百四十枚の原種枠製を製造し、蠶病豫防事務所に於ける母蛾檢查の成績をみたるに、多くは一般一割乃至三割の病毒あるにも不拘、病毒步合は七分にして好成績を示し、五枚に對し一の病毒蛾を出す割合にして、有毒區及缺蛾區を除去し、僅かに四十枚を減し、全く千三百枚の原種を得たり。

世の養蠶家たるもの能く該病毒の依て起る所以を研究し、之れが豫防撲滅を實行せば、病毒步合を輕減するは敢て困難の事にあらざるべし、徒に目前の小利を貪るの外他あるを知らず、淡々として之を粗製濫造し、或は徒らに顯微鏡の效力を過信して、之れに依るは愚かなり、顯微鏡檢査は病毒驅除の一部なれども決して全部に非ず、蠶種家の手に依て行ふ改善と相俟つて、始めて微粒子毒全滅の效を全ふし得べきなり、敢て全國蠶種製造家に以上數項の實行を希ぐ。

●模範工女養成所

長野縣では各地に模範工女養成所を設置するさうで、之が設置の場所に就ては大に競爭があるとのことなれど、結局六ヶ所に設置することゝなり其內諏訪は最も早く開所し、遲きものも來二十五六日頃迄には開所するとのことである。

絲況

横濱市場

三月中の横濱生絲市場　前月末に信州上一番格八百二十圓とて落ち返んだが、月は代つても絲況は依然振はない、といふのは何分買人が高値に買進むほどの勢ひなく、專ら安値を寵つ、期待ちの風情であつたからであらう、ところで九日頃より歐洲向き新注文が到來したので、市場一轉に回復して上番二十圓高を頭に虚繰折返及細節共に十圓乃至十五圓方の場所に廣を告げた、斯くて一面奉換絲は漸次出廻り來るに拘らず入るに隨ひて出捌くといふ有樣で、在荷は次第に減少の姿となり、同時に定期の帰勝となり、賣人の賣惜みとなりて此一般の高値を報ずるやも知ずと思はれたが、十四五日頃より人氣又々銅に氣の狀態となり上番八百四十五圓となりて頭を打ち、商談更に面白からず、下旬に至りても格別市場に活氣を溢るの材料とてなく殊に適品拂底を告げたるよりて自然市場は薄内に陥し、品によりては五圓乃至十圓方の低落を見、月末に於ける相場は上一番八百三十圓細十中九百五十圓虚繰一番物八百六十五圓折返一頭馬八百圓であつた。

價格の差　昨年三月中の最高價は、美濃白鹿水製絲及甲斐矢島組金太千〇三十圓で、最低價は岩代共同三馬折返の七百八十五圓であつたが、本年の最高價は武藏笹本製絲細の九百二十圓で最低價は岩代共同三馬折返の七百八十圓である、されば其價格の差は高値に於て百拾圓低値に於て五圓である。

生絲の集散　三月中に於ける生絲集散の狀況は左表の如くである。

明治四十三年三月自一日至三十一日生絲集散表

器械	待越	入荷	賣了	地方快買	繰越
器械	二六、三九九	一四、六〇八	一四、三四三	二、四四九	二四、二一五
座繰	一、二八八		六四七	三三二	五一四
綿繰	一、〇八八	一九五	三一九	三三五	四七〇
折返し	一一九	三六		七六	五七
綿繰		一四			
合計	二八、八九五	一四、八三五	一五、三〇九	三、一八二	二五、二五七

備考

一、表中原位置は只賣目を指す

二、待越とは前月より本月に持越したるものにして本月末日の調査繰越とは本月より翌月に繰越すべきものにして本月末日の調査に係る

三、前月分の繰越と其數一致せざるは廣識中のものゝ如きに依る

四、賣了中米國に輸出せるものは四千九百三十五俵歐洲に輸出せるものは二千四百九十五俵にして外に玉繰十七俵なりとす

之を昨年の同月と比較すれば入荷に於て三百三十箇、積戻に於て千三百二十八箇半、手合に於て千四百六十六箇、賣了に於て千三百一二千〇二十八箇半の増加である。

御參考の爲に三月中に於ける生絲日數表を示せば左表の如くである

明治四十三年三月自一日至三十一日生絲集散日別表

	入荷	手合	賣了	引渡	輸出	地方快買	國名	社名	別種	最高價 最低價	摘要
一日	四三七	八〇	五五五	—	—	八四	未	定			積戻し市場は薄内に陥し、品によりては五圓乃至十圓方の低落を見、月末に於ける相場は上一番八百三十圓細十中九百五十圓虚繰一番物八百六十五圓折返一頭馬八百圓であつた。
二日	三一〇	—	四一二半	—	—	一〇六	相模	盛社		八七〇 八二〇	春繰絲も未だ入荷微々なりし一般に需品少なき頃とて強い手掛りしかゝる現行なりし
三日	四八二	一七四	三二五	—	—	一〇七半	信濃	山崎製絲社			必用品は少く賣行きされど大勢は依然軟調と云ふ有樣なりき
四日	三〇七	二一一	五二六	一八	—	一七八	信濃	小口	同	八三〇 八二五	細節及太節とも直段變りなく概して賣行きたるか氣配前同時なりき
五日	三六二	一五〇	四二二半	三七二	—	一〇七	米	定			米國向は負付なれど歐洲向は概して弗々商談あり人氣保合へり
六日	—	—	—	—	—	—					日曜日
七日	八七六	八四	三九六半	六七〇	六七三	六三	甲斐	甲金英社		八三〇 八一五	掛合も強しき買人現はれたる爲め信州器械は却て安含みなりし
八日	三四九	一八二	七〇七	六九六	二二五	一〇半	信濃	東郡	同	八九〇 八二五	穩りなく弗々小口の商談ありき
九日	三一八	三〇四	六九六	一八	一〇半	信濃	江尾見	附澤製糸社		九〇〇 八二五	歐洲向商館手筋へ商ひ出來し信州上一番は五圓高を告げたりし
十日	三九九	二六九	九三七半	七一〇	六七七	信濃	信濃	明	龍	八八五 八二五	相模製糸歐洲向の商談行はれ相場又々五圓高を告げたりし
十一日	四九一	二八二	六九九	一八	—	一〇八	信濃	岩代共同二馬社		八九五 八八〇	一番館買約み含み居りて手合出來し相場も小綿りの方なり
十二日	三四七	一八	四八三	七〇四 二二	—	一八二	信濃	岩代東北口組社		八三五 八二五	相場は前日同樣保合へり

十三日	—	—	—	—	—	—					日曜日
十四日	一、〇〇五	—	七〇一半	—	—	一一六	三河 信濃	東洋社 小口組	○ □	八九〇 八二五	頓と商聲を發せずして靜かなりし
十五日	五七四	九九	七三九半	四三	—	一一七	美濃 信濃	金龍社 令組金館	○ □	八九五 八二〇	折返し及細筋物の商ひ少しく出來せしのみ氣配纏いて靜かなりし
十六日	六七七半	—	二九九	三六	一、四六一	七三	信濃 飛驒	中野館 双進社	○ △	八九〇 八八〇	諸館とも氣配薄にて新規手合更に出來せざりし
十七日	五九六	三五六	三二〇	—	—	一〇三		米室			前日來の注文口へ我慢して賣應じたるより相應の手合出來せしが信州上一番八百三十圓にて不振の商談なりし
十八日	四二九	二六三	七七八	—	—	一六二	相模 岩代	獲鳳館 共同一馬	○ +	八九〇 八〇〇	歐洲向補充口へ前日の纏き少し許り出來相場は同時なりし
十九日	四一四半	—	五一三	—	玉 五五五九	九九半	三河 信濃	國寶社 金山社	○ □	九〇〇 八二〇	二三の補充談の見へたる迄にて線々氣乘りなく至て靜況なりし
廿日	—	—	—	—	—	—					日曜日
廿一日	—	—	—	—	—	—					大祭日
廿二日	一、五九七	八一	二九九半	九	—	一四三	三河 岩代	明治社 共同二馬	○ +	九〇〇 七八〇	捗々しき商談なく相變らず氣重の成行なりし
廿三日	三五八	五〇八	五一三	—	一、〇二二	一二三	信濃 同	東行社 興谷日の丸	○ □	九〇〇 八三〇	信州上一番前直より五圓安にて手合出來せり
廿四日	九七七	一六七	九〇六半	—	一八七	六〇	武藏 岩代	大星館 共同一馬	□ +	八三五 八〇〇	直段變りなく弗々補充の商談出來せり
廿五日	三一〇半	四三五	四〇六	一〇	—	一六〇半	三河 信濃	陶山製絲 矢木東	○ □	八八五 八二五	中には新規注文纏せし向もありて信州上一番五圓高にて手合出來せり
廿六日	八三四	八二	四三六	一八	四七七	一二一	武藏 信濃	小口組 林組	□ □	八四五 八二五	當用口へ弗々ながら繼續し總て保合の成行なりし
廿七日	—	—	—	—	—	—					日曜日
廿八日	八四七	二九九	五五七	—	—	六七	尾張 信濃	犬山社 金山社	○ □	九〇〇 八一五	當用商談の口へ變りなく賣行けり
廿九日	六九四半	六六〇	九四〇	四八	—	二〇一	下總 信濃	大橋製絲 開清館	○ □	八八〇 八二五	歐洲向は一兩館纏いて買氣あり中にも折返しは在荷薄の爲め相場も割合高く出來せしが來向は染たる商談なかりし
三十日	五八五半	一〇九	七一七	—	九六五	八三	越後 信濃	越陽館 令組金館	□ □	八五〇 八二五	相場變りなく補充商談弗々行はれたり
卅一日	二七五半	二八	一、〇二二半	五三	—	一八九	武藏 信濃	笹本製絲 光進館	○ □	九二〇 八二〇	目星しき商談なく底意氣は稍含みに見受けられたり
合計	一四、八五三半	四、八一四	一五、三〇九	二五三	七、一三〇 外玉一七	三、一八二					

倚本年三月中の生絲集散の狀況を示し、且つ三月末に於ける統計と前年の夫れとを對照すれば左の如くである。

▲は減じた印×印は增した印

年次	持越	入荷	賣了	殘高	繰越	輸出數量	輸出價格
四十三年一月	四二、八〇六	一四、〇三三	一八、〇四三	一、六四九	三七、一三七半	一〇、九四三	[illegible]
同 年二月	三七、一三八	一七、七五〇半	一三、一八〇半	一、八五八	三八、八九〇半	七、五五三	[illegible]
同 年三月	三八、八九〇	一四、八五三半	一五、三〇九	三、一八二	三五、二五二半	七、一三〇	[illegible]
計		四六、六三七	四六、五三二	六、六八九		二五、六二六	[illegible]
四十二年三月		三六、二〇八半	四八、〇四〇半	四、八〇九		三六、一八六	[illegible]
比較		×一〇、四二八半	▲一、五〇八半	×一、八八〇		▲一〇、五六〇	[illegible]

佛國に於ける各國生絲

在里昂木島副領事よりの報告に依り、千九百零九年度に於ける佛國の生絲及撚絲に就き、同地檢査所に於て施行したる各國生絲の檢査成績を比較すれば左の如くである。

	經絲重量 基	緯絲重量 基	生絲重量 基
佛蘭西	一二四、五三一	四五、二一七	三六八、二三四
西班牙	三三、八四三	四〇五	一九、一五〇
ヒエモン	六、二七〇	九八一	六一、六六五
伊太利	四七、八一七	八、八一一	三八二、八三六
洪牙利	四二五	—	五八、〇七三
ブルース	四〇、七九六	八、四二五	四二五、五四〇
シリー	一二七、五三九	三、三〇三	五六四、〇八八
ベンガル	一六、六五〇	一五、三五四	七一、九四二
カシミユル	一一二、六六一	五、二一八	六九、一一六
支那	一一二、六六一	一七七、五六三	一、〇二一、〇七四
廣東	一一六、六七八	五一五、六三六	一、一〇五、四二九
日本	一五七、九〇四	三六七、一六六	八七一、七七四
チユサー	七七、三三八	四一一、〇六	四六六一、三七二
合計	九八〇、五九九	一、三五六、三四三	五、四七七、三二〇

以上の表に依て之を観れば前年迄同地に於て取扱はれざりしカシミユル絲の檢査狀態をも計上するに至つた。而しイ國

別に依りて比較するに經撚絲にありては佛蘭西產第一にして日本品之れに次ぐ、緯撚絲にありてはチユサー產を第一とし日本品之れに次ぎ、生絲にありては廣東產を第一とし、支那及び日本之れに次ぎ、其の生絲及び撚絲の總量に於ては廣東、日本、支那チユサー佛蘭西の順序を持するに至つた、然れば前年に於ける總量に於て第三位たりし日本は支那を排して第二位を占むるに至つた。

▲生絲檢查所月報

三月中に於る橫濱生絲檢查所の檢查成績左の如し

檢查件報

査年月	原量	正量	品位	鑢減	計
本月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	六	[illegible]
前月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	一	[illegible]
昨年當月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	[illegible]
本年累計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	八	[illegible]
昨年當月迄累計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	[illegible]

正量檢查

檢查件數	三、〇〇五
總全量	二五三、八九四斤
總風袋量	四、七二六斤
總原量	二四九、一六八斤
總無水量	二二一、四四二斤
正量	二四五、八〇一斤

含水量百分比例	
平均	一一、一五
最多數	一三、五七
最少數	八、〇〇

品位檢查

類別	檢查件數	再繰中切斷數	纖度 平均	纖度 纖太の差	類節 大類	類節 小類	強力及伸度 纖度	強力及伸度 強力	強力及伸度 伸度
細絲器械	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
中絲器械	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
座繰改造	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
座繰折返	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
太絲器械	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
座繰改造	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
座繰折返	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
特太器械	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
座繰改造	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
特太玉絲	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

會務錄事

島根支會第五回品評會

大日本蠶絲會島根支會第五回品評會は昨秋十月三日より四日間能義郡安來町高等小學校に於て開催せられたり、會場の入口には桑樹の幹を配列して造りたる緑門を建て、蠶種を以て扁額を作り繭を連ねて會名を表はしたる等仲々の意匠を凝らし、室の內外には萬國旗を吊し、室內各所には各府縣の蠶絲業統計表を揭げ、又音樂堂商品館を設け觀覽者をして倦くを覺えしめず、殊に夜間は「イルミネーション」を點じて不夜城たらしめ最も壯觀を呈せり、安來町は全町に渉り意匠を極めたる裝飾をなし、又同町有志相謀り協贊會を組織し、古書畫展覽會及盆栽の陳列等をなし、安來公園には各所に休憩所を設け、遊覽者に茶菓を饗し、風光明媚なる孤島の十神山へは舟を艤して隨意に渡海せしめ、偶々古和淸水寺は寶塔五十年祭を執行し、蠶絲會員には特に寶物の拜覽をなさしむる等多大の便宜を與へたり、同地は海陸の交通至便なるが上に、會期中汽車汽船の割引をなし、加も晴天打續きしにより、參觀者日々數萬を算し非常の盛況を呈したり。

出品の種類は繭、蠶種及生絲の三品にして、尙參考品をも、出陳せしめたり、出品區域は一府二十一縣に渉り、出品點數は繭二千〇二十五點、蠶種八十點生絲百三十六點に達し、さしもに廣き會場も處狹き迄に陳列されたり、殊に參考品室には三十年前の面影を顯し、既往各種の產繭を集めたるものありて、觀者をして今昔の感に堪えざらしむるものあり、又縣立農事講習所縣立原蠶種製造所及蠶病豫防事務所より出陳の各種標本は、當業者を裨益する實に尠なからざりき、褒賞授與式は同月四日午後三時を以て會場前庭に於て舉行せられたり、當日來賓の主なるものは熊谷陸軍少將、和田事務官、綾部典獄各部長園山代議士及縣會議員等にして烟火を合圖に一同着席し、靑山事務委員長舉式の挨拶を爲し、次て練木審查長は左の審告文を朗讀し褒賞授與の申請を爲せり。

審告

大日本蠶絲會島根支會第五回繭外二品々評會の開催に當り客三乏を審查長に享け審務長以下諸氏周到なる用意と審查員諸氏の熱誠なる勞勵とにより審查結了を告げ茲に出品の成蹟數に審查の概況を報告し併せて褒賞の授與を申請するを得るに至れるは眞に光榮とする所なり

抑も本回の出品は繭二千二十五點蠶種八十點生絲百三十六點總數二千二百四十一點にして成繭の一定せるは實に本縣蠶絲業の特長と稱す可く品質に於て改良進步の實蹟顯著なるものあるは當局者の施設其宜しきを得たると當業者の熱心業に當りたるとの結果に外ならざるを信す今審查の概況を陳すれば即ち左の如し

繭　春蠶繭にありては殆と固有の形狀を保ち縮皺亦佳良にして賞すべきもの少からずと雖形狀或は少に失し或は長に過ぎて兩端尖圓のものあり縮皺亦粗大若くは細密に過ぐるものなきにあらず色澤鑑較は概して不良にして繭量の少きものありしは甚だ遺憾とする所なり而して是等の缺點は種繭の撰擇其宜しきを得ざるより生じたるあり或は本年の氣候三三齡期に於て高温に過ぎ次で四五齡期及在蔟期中に晴り降雨の日多くして多濕なりしに是れか相當の注意を缺き又は給養に乏しき桑葉を給與せると給桑の適當なる節約等より來れる現象にして將來最も注意す可きの點なりとす殺蛹と貯繭とは良好なるもの多く解舒概れ良好纖度類節の審查上可なるもの亦少からず

秋蠶繭は品種雜駁色澤形狀共に區々にして形狀膨大に失し儕に浮皺なるものありしも繭層良好にして絲量又た豐富なるもの少からず秋蠶繭として大に進步の跡あるを認むると雖尙ほ漸次種類の一定を期せざるべからず

蠶種　蠶種は概して良好にして調製上進步の跡なきにあらざるも色澤形狀羞付の點に至りては尙ほ改良を要するものあり宜しく注意すべきなり病毒の絕無なるは大に喜ぶべき點にして益々之れか豫防に努力あらんことを望む

生絲　生絲は特に優秀なるものなく亦甚だ不良なるものなしと雖概するに束裝不良色澤光澤を缺きたるもの少からず捻變は良好のもの少く特角の固着なきもの緩幅の廣きに過ぎたるものありて抱合概れ不良經編概硬にして軟弱なるもの少からず大類は僅少なりしも小類の多かりし等は大に改良を要す可き點にして再繰概して良好纖度稍々均齊にして緒留方絲の掛方前年に比して改良の跡あるは喜ふべき點なりとす

之れか要するに總ての點に於て大に進步の見るべきものありと雖改良を加ふべき點尠からず特に繭に於て滋養に乏しき桑葉を給與せるの跡あるは最も遺憾とする所にして桑樹培養の最急務なるを信す蠶種及生絲にありても亦改良を要すべき點尠からず今や來國相業協會は淸國廣東の製絲業者に向て切に其改良すべきの點を指摘勸獎しつゝあるの時に際す大に我製絲業者の奮勵を要するは素より養蠶家も又た是れか警告に注意し相俟て常に彼の市場に優先權を掌握するの覺悟なかるべからず

出品の成蹟と褒賞表とは既に呈する所の如し希くは優等者に對し褒賞の授與あらんことを謹て稟請す

明治四十二年十月四日

大日本蠶絲會島根支會繭外二品々評會審查長

正六位勳六等　練木喜三

右終りて左記優等賞及一等賞者には銘々に二等賞以下には

総代に藤本鐵會長は疲弊を再山会員部長は賞品を授與せり。

島根縣八束郡桑山村　等　賞　花木鹿次郎
備　等　賞　能義郡赤江村　錦　貫　館　八束郡出雲村　野津　勘七
春蠶備　能義郡赤江村　門　脇　雅　恒　能義郡安来町　渡部榮三郎
秋蠶備　仁多郡布勢村　恵　田　林　市　仁多郡三成村　長尾善太郎
春蠶種　八束郡佐太村　安　達　孫右衛門
生　絲　鹿足郡知覇町　與　井　徳　能義郡安来町　九　宣　理之助
（武部賞状下略之）

夫れより九山安会長は左の告辭を朗讀したり。

告　辭

大日本蠶絲會島根支會部五周年記念日に當り謹んで一言を述べ度く存じます。

由来本邦は蠶種の統一上以て世に誇らるる今報しく出品物を通覽し且つ審査員の報告を聴くに其成績著しきものあり殊に形質殆んど一定せるが如き点に於ては未だ以て完全為り得たりと言ふ能はず將来改良の餘地多からざるを認む

本會此に見るあり明治三十七年以来品評會を開催し年次所望進歩の實績を例観し以て鼓舞奬励せんとす

今や本邦は蠶業上に大蠶絲業の興發達を同らんとするの秋に際す當業者諸氏宜しく審査の成績に鑑み所望實質の改善に力み致し益益久敬の時勢の要求を察し本邦蠶絲の特色を發揮し以て國家富源の涵養に努めんことを期すべし一言以て告辭となす

明治四十三年十一月四日

大日本蠶絲會島根支會長　正五位勲四等　丸　山　重　俊

右に次て來賓の祝辭及祝電の披露あり、受賞者總代渡部榮三郎氏の答辭ありて、午後四時五十分全く終れり、續て同

中野治四郎　印藤岡信酒右衛門　土肥卯　香取　五十嵐在太郎　高橋來吉　海上　林常吉　原橋　布施鍵吉　黒木豊吉

群馬支會委員部長　曾根　江原桂三郎

地方委員部職員の囑託

岡山地方委員部支部長中興勤ありたるに付地方委員長の指嘱により本會々員より左の通り囑託せられたり。

岡山地方委員部支部長浮吉田　久山知政　久米　飛田謙蔵

特別會員の推擧

左記の會員に本會々務に貢献せる勞績顕著なるの故を以て今回本會々員より特別會員に推擧せられたり。

下野文吾　氏栄菊太郎　上野　幸次
愛知支會　高橋要治郎　木原　整太郎
岸　田　浩　氏　山　田　正　島内　弼
高　木　其　輔　伊藤喜平　島屋義純　上野徐二郎
内田　春　起　田中信義　堀本文雄　高須市太郎
堀江貞二　原田國作　武市柴三郎
伊藤禮治　渡邊一雄　山本儀三郎　白岩久八
佐野定四郎　村上金二郎　名倉利三郎　杉浦幸吉
加藤米吉　山田英保　岡島彦太郎
木金彌一郎　山田治正　鈴木長蔵　白井逸治
鈴木彦助　大田米吉　平松治郎左衛門　伊藤米四郎
大野幸雄　柴田善松　加藤庄三郎　杉浦源七
岡本英馬　鈴木登　小川重兵衛　島田常之丞
野田惣三郎　野田惣一　鈴木鶴三郎　松原嘉次郎
山田豊三郎　鈴木四郎次　今井鉄一郎　民部郎
鹿父江森之助　宮田民部郎　竹村長義　高瀬慶作
大竹茂市郎　藤原新一郎　四村政二郎　川村房次郎
三重支會　佐藤守郎　古川三治郎　刑本虎吉
橋　本　敬　三　郎　吉川源太郎

藤岡支會發會式並九州沖縄大會

大日本蠶絲會藤岡支會發會式並大日本蠶絲會九州沖縄大會は去四月三日藤岡市公會堂に於て挙行せられたる趣該殿下令旨を賜り張原支會長の挙答文松平會頭の告辭藤岡市大臣の祝辭者の答辭等ありて發會式を終り惹て九州沖縄大會に移り三重郡富吉蠶絲試験場生絲検査所長氏の有益なる講演ありたり來會者一千名余に達し盛況を極めたるは慶賀すべし。

三重支會第九回總會

三月二十九日午前第自第部事務所に於て大日本蠶絲會三重支會第九回總會を開きて支會長の告辭に次て幹事長の事務報告ありて二三の問題ありたる後議事に移りたり詳細は次號に掲載すべし。

支會職員の囑託

島根支會副會長久手業支會委員部長に副長、群馬支會委員部長中興勤ありたるに付各支會長の委員部長に副會長は、藤蔵殿下より其他に本會々頭より夫々左の通り囑託せられたり。

島根支會副會長　錦　織　幹
千葉支會委員部長　安場　澤　寛蔵　寒隅　山田　智　市原　渡邊　信　山武
太田賞行
同　委員部副長　南隅　田邊長者館門　浪田直吉　岩津　重蔵　敬　鳥海榮次
郎　長生　久我内蔵助　佐野庭太郎　山武　武田律三郎　齊藤藤次郎　市原
門倉　徹　横崎堅四郎　千葉　高澤清太郎　稲生庄五郎　東鳥飼　松丸　鍾

蒸汽罐試驗集積器の件に就き質問

山梨縣
選常會員　武井定市郎

一　蒸汽罐を使用すること四十日間以上に及ぶ場合一度も除灰せなければ汽罐内の湯に混雑を含のあるが生絲の色澤等に差異がありますまいか、又汽罐保存上や生絲品位上から其使用日數は幾日位に迄を抑除した方が其しいでせうか、使用時間は一日十六時間封度は十二三封度位でありますか。

二　繭絲用集積器フヂャ（ママ）ンを反覆して使用致して居りますが反覆の上に於て、染来の反覆せるものと如何なる差異があります明細に御示教下さい。

答

（一）汽罐内に沈澱物を多く生ずるも、生絲の品位に影響しないであらう、何となれば汽罐は發熱するものに寄る蒸氣のみであるからである、而して沈澱物を多く含むから水を汽罐に使用する場合は一日若くは二日に一回位少量を放水して沈澱物を除去する水は汽罐保存上良好である、然れども放水を過度にするか又急激に放水するは宜しくない、何となれば過度にすれば熱量を損じ急激にすれば罐を寄するを為るからである。

（二）集積器を反覆して使用すれば工女が節節なる見る様な感あるも、之に伴ふ缺點に発かれない、即ち右の便利な得んに拘ひ節節を反覆せざれば反覆せざれば、生絲の膠着茶數を増じ、其結果動もすれば切断が多かるしか、延て

は生絲量を減ずる傾向を生ずるに至るものである。

人造絹絲と普通絹絲との件に就き質問

特別會員 愛媛縣 西 村 彌 吉

人造絹絲と普通絹絲との化學的成分並に分子配列如何を伺ひたい

答

學藝委員 農學士 針 塚 岩 太 郎

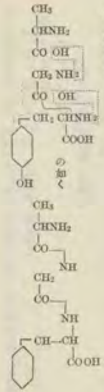
農學博士鈴木梅太郎氏の調査研究に依れば左の如くである

天然絹絲はフヰブロインとセリシンの二層より成り兩者少しく其性質を異にする所がある、されども共に蛋白質に屬すべき物質であつてセリシンは膠質に能く似てなる、其元素組成は兩者共炭素水素窒素及酸素より成り微量の硫黄を含むが、之れを酸により分解すれば

(1)

	百分中 フヰブロイン	セリシン
グリコゴール	三六%	〇、一―〇、二
アラニン	二一	五、〇
ロイシン	一、五	+
プロリン	〇、三	―
セリン	一、六	六、六
チロシン	一二、〇	五、〇
アルギニン	一、〇	四、〇
アムモニヤ	一〇、五	一八、七

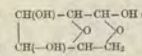
の如き分解物を生ずる、之等のアミの化合物が相連結してフヰブロイン若しくはセリシンの分子をなすものであつて、其化合の狀態は未だ充分明らかでないけれども恐らくは



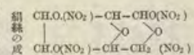
の如く

の如くになつて複雜なる化合をなすものであらう、未だ之れは人造するに至らない人造絹絲は之れと全く異なり、木綿纖維に硝酸に硫酸を働かしめて得たるものであつて、木綿纖維は窒素を含まない、其構造は

(2)セルロース



の如く之れに(NO_2)の原子團が數個入り込みたるもの即ち（ニトロセルロース）にして人造絹絲の原料である、即ち



の如きものか又は此數分子相連結して複雜なる化合體をなせるものであらうけれども充分明らかでない要するに普通のセルロースの分子中の(OH)中の(OH)を(NO_2)にて換置したるものである、其(NO_2)の數はセルロース一分子に對して三分子乃至四分子位であらう。

絹絲の成分に關しては農科大學紀要第一卷第一號（鈴木梅太郎 吉村清尙共著）の分及東京化學會誌、第二十八卷第十一冊（四十年十一月分）及昨年の大日本蠶絲會報（鈴木梅太郎他二人共著）就て見られたが宜しからう。

育蠶に就き質問

通常會員 愛媛縣 宮 脇 岩 五 郎

晩秋蠶を（九月十日掃立 十月十日上簇）飼育したるに、二眠頃より白殭蠶往々顯れ、除沙毎に全箔中二三頭の斃蠶があつて、四眠後に於ても同樣の步合であつた、併し結繭は相當作で蟻量五匁に付收繭十貫目を得た、該蠶繭にて蠶種を製造する場合は如何なる後患があるものでせう。

（二）又本年の春蠶より使用せんとする時蠶具消毒を普通消毒（フォルマリン液を用ふ）にて傳播の患がないでせうか、御明教下さい。

答

學藝委員 農學士 林 驛 作

一、飼育中白殭蠶を發生せる蠶中異狀なく結繭せるものより蠶種を製造するときは其蠶種内に直接病菌の傳はるが如きことはないけれども、斯の如き場合にありては病菌の胞子蠶室並に蠶具に附着して存在するものが多數であらうから、蠶種の表面に病菌胞子を附着することなしとも限らず否な往々本病蠶の發生せる場合に製造せる蠶種には病菌の附着を見るものであるから之れを除去することが必要である。

蠶種の表面に附着せる病菌を除去するには、寒水にて叮嚀に洗滌するを以て其法なりとする。

二、白殭蠶を發生せる蠶室蠶具を消毒するには、普通の消毒法にて充分である、即ち「フォルマリン」液の撒布も有効である。

蠶 桑 雜 觀

▲生絲檢査所並東西蠶業講習所の官制改正

三月二十六日の官報を以て公布せられたる處に依れば生絲檢査所官制並に蠶業講習所の官制中には左の如く改正せられてある

勅令第八十一號

生絲檢査所官制中左の通改正す

第二條中技師の下「六人」を「七人」に、「二十二人」を「十八人」に書記の下「六人」を「五人」に改む

附 則

本令は明治四十三年三月三十一日より之を施行す

勅令第八十三號

蠶業講習所官制中左の通改正す

第八條中「十九人」を「二十二人」に「二十三人」を「二十一人」に、「十人」を「九人」に改む

附 則

本令は明治四十三年三月三十一日より之を施行す

▲桑園奬勵規則改正

農商務省は全國の桑園幷に農家經濟を視察したる結果桑園を新設するよりは、既成桑園を改善するを以て更に急務と認むる地方多きも、現行規則にては桑園改良上の有益なる事業に對する奬勵の途なきを以て、今度右の趣旨に基き補助金交附規則を左の如く改正せられた、

農商務省令第二號

明治四十二年農商務省令第四號桑園增殖奬勵費交付規則中左の通改正す

明治四十三年三月二十四日　農商務大臣　男爵　大浦兼武

第二條第一項第二號の次に左の一號を加へ以下繰下ぐ

三　桑園品評會其の他桑園改良に關し奬勵金を交付するとき

第二條第一項第三號中「前二號」を「前各號」に改む

第三條第二項中「第三號」を「第四號」に改む

第九條中「明治四十二年度」を「明治四十三年度」に「明治四十二年四月末日」を「明治四十三年四月十日」に改む

樣式第三を左の通加ふ

郡市別	桑園品評會開設數	同上出品人員	同上桑園段別	補助金 奬勵金 交付額

備　考

一　奬勵金補助金は第二條第一項第三號第四號に依り府縣より交付したる金額を記載すべし

二　品評會以外の桑園改良事業も此樣式に準して報告すべし

▲蠶業講習所分課規程

蠶業講習所の官制中に改正條項のありたることは前項記載の如くであるが、分課規程を左の如く定め去一日より施行することに

せられた。

東京蠶業講習所分課規程

第一條　東京蠶業講習所に講習部、試驗部、夏秋蠶部及庶務課を置く

第二條　講習部に於ては養蠶製絲に關する學理及技術の講習並講話に關する事務を掌る

第三條　試驗部に於ては養蠶製絲に關する試驗及調査、質問應答並蠶種の配付に關する事務を掌る

第四條　夏秋蠶部に於ては夏秋蠶に關する試驗及調査、講話並質問應答に關する事務を掌る

第五條　庶務課に於ては左の事務を掌る

一　文書の接受發送及保管に關する事項

二　報告書及圖書等に關する事項

三　會計に關する事項

四　他部の主掌に屬せざる事項

京都蠶業講習所分課規程

第一條　京都蠶業講習所に講習部試驗部及庶務課を置く

第二條　講習部に於ては養蠶に關する學理及技術の講習並講話に關する事務を掌る

第三條　試驗部に於ては養蠶に關する試驗及調査質問應答並蠶種の配付に關する事務を掌る

第四條　庶務課に於ては左の事務を掌る

一　文書の接受發送及保管に關する事項

二　報告書及圖書等に關する事項

三　會計に關する事項

四　他部の主掌に屬せざる事項

▲蠶絲業主任官會議　農商務省にては去十四日より七日間各府縣蠶業主任官を召集し蠶病豫防法施行上及び蠶絲業獎勵其他蠶絲業上の重要問題に關し協議會を開かれたが、諮問事項は左の如くである。

一、蠶病豫防に關する件

イ　蠶種製造者の資格を定むるの可否若し可なりとせば其方法並程度如何

ロ　自家用蠶種取締の程度如何

ハ　原種製造額の激増に伴ひ現行法令中改正を要すべき點なきや

ニ　蠶種製造者中不正の手段に依り蛾體檢查を受くるもの、あるを聞く之が矯正の方法如何

ホ　蠶病豫防に關する法令中改正を要すべき點如何

二、繭買統一に關する件

三、蠶絲業に關する共同經營の普及を圖る方法如何

四、桑園の改良増殖獎勵の實績並に其方法に付利害得失の存する所を問ふ

五、蠶兒飼育法の變遷並に之れに伴ふ利害若し弊害ありとせば之が矯正法如何

六、蠶絲業改良發達上特に政府の保護獎勵を必要とする事項如何

七、女子に蠶業教育を普及する法如何

文藝

懸賞　俳句

花の本花翁宗匠選

秀逸

[illegible]

雪風に初聲さらす雲雀哉　上毛　白秀

草餅や未た裏山は雪の儘　羽前　破窓

人

[illegible]

地

[illegible]

あすと云ふ人にまたれぬ花見哉

天　人の見る花にも願ふ日和哉　武藏　盛仙

追加　思ふ程遠くもゆけす花の旅　選者　花翁

懸賞募集 狂句（第二十六回披露）

金坊子選

▲秀逸

過ぎた桑蠶及ばざる如くなり　丹波　古城
常待たされて蠶は倉を食ひ　山梨　二笑
養蠶が當つて教師豪く見へ　信濃　放言

違蠶の證據桑園が荒廢し　埼玉　晴風
腕肥て蠶飼ふ頃資本がやせ　羽前　東雲
蠶飼には口八丁より手八丁　福島　紅峰
當り蠶に亭主ば嫁の自慢なし　伏見　松翠
微粒子は見えれど大きな穴を明け　信濃　其米
缺け碗も世に出るゝや蠶時　栃木　露蓮坊
若主人上簇にのみ手傳ひし　同人
買ひ桑はお蠶も首肯くやうに食ひ　備後　天外

夫婦喧嘩罪ない蠶斷食し　島根　東雲
蠶下手嫁は入去に追加され　山梨　富士子
孫の飼つた繭はこれよと爺が見せ　栃木　思米
新開地養蠶紳社も建立し　信濃　星外
厚く飼ひ繭と信用を薄くなし　富士　蘇山
豐作でお蠶様と様をつけ　富山　長庵
天氣晴朗お蠶の御機嫌只ならず　滋賀　梅島
當り蠶に秘密の室も明渡し　同人

▲人賞
出稼工女腹に土産を持歸り　富山　中田　長庵

▲地賞
蠶種廣告に創業記念の芝居をし　熊本　才太郎

▲天賞
猫ほめつ蠶祭めつゝ居候　滋賀　田村　梅島

▲選者吟
机上の空論空頭病の種をまき　金坊子

懸賞募集 俚謠（第二十六回披露）

高橋鬼川選

▲秀逸

罪のやうだか工女の役で、靜かにやなるまい二ツ繭　静岡　要蠶
呼べば返事をするより先に立ちて、働け蠶時　静岡　谷水
少し待たんせ身も輕々と、解ける間近き二ツ繭　磐城　緑水
蠶飼する度屑繭ためて、今年や花見の晴着まで　京都　黄島
里へ歸りの女房をとめて、お蠶の機嫌を走り書き　岐阜　闌月
廣い名古屋の共進會で、お初お絲は人目ひく　豐橋　雅風
田舎育ちのあのお蠶さんは、今は紳士の肌に添ふ　同人
引くにや引かれず見捨もならず、困り果てたるあの工女　同人
製絲工場の滊笛に覺めて、雨戸開けば日が笑ふ　埼玉　雲屋
桑に春風さゝやくやうに、桑をたべますさわ〳〵と　高知　泣蝶
慈悲は蠶だよ五穀を包み、繭の俵を守り包む　熊本　平山
繭が堅けりや心も堅ひ、殊に身上は鍋堅い　三河　東里
立たぬ〳〵と思へば立たぬ、立たぬ〳〵で腹が立つ　信濃　素骨
星の數程ある其の蠶を、育て上ぐれば繭の山　茨城　流星
お稲嫁入り桃咲く村へ、やがて蠶咲かせん繭の花　羽前　枯葉

▲五彩

包む家ても遂ほころびて、切こぼるゝ繭の花　信濃　農生
浮くも沈むもお主の齒ゝと、解けて裸になる蛹　丹波　古城
朝はそよ風夕べは眠、蠶さかりが懷しい　東京　佐久郎
鳴いてくれるな朝の鷄よ、蠶過ぎての初枕　秋田　思季
外してならうか今年の蠶、買つた女房の前もある　信濃　放言

▲人賞
晴るゝ空にも氣つかふ葉桑
　八十八夜の別れ霜　信濃　中島放言山人

▲地賞
工場出て見りや宵月見えて
　在所あたりに灯が點る　東京　島　佐久郎

▲天賞
お顔見たいや素足が白い
　工場通ひの蛇の目傘　羽前　青木　枯葉

▲選者吟
仇な浮名もちらほら立つよ
　工女仲間に花見時　鬼川

◎

春の夕べのさて面白ろや
　工場踊りかあの唄は

懸賞募集 一と口噺（第二十六回披露）

秀逸

◉先生の落第　信濃　中島　放言山人

子供『お母さん、私の組の先生は落第したのよ』母『どうして』子『だつて私が六年になつても先生は一年に居るもの』

◎世界で強いもの　熊本　平山　才太郎

甲『世界で一番強いものは何だらう』乙『それは蠶絲よ』甲『なぜ』乙『蠶絲は一等國の日本の命脈を繋いで居るから』

◎微粒子　埼玉　淺見　蠶友

豫防吏員『何でも微粒子は二階の蠶に出來ないれ』蠶業家『それでは櫓飼なら高いから出來ないでせう』

◎蠶は男　武藏　大貫　八重

子供『蠶は女ですか男ですか』母『繭を作る時には繭島田が好きで又た老熟したのを番蠶と云ひますから男でせう』

◎フォルマリン　備後　藤原　白峰

甲『フォルマリンで蠶室を消毒するも困るよ目も鼻も痛んでしやうがない』乙『何に水を澤山入れて薄くして障子や何かを明放してやれば差支はない』

▲地賞

◎不眠症　京都　水野　勝太郎

甲『僕は近來夜寝られんのは何故だらう』乙『そりや君の蠶の不眠症が傳染したからだらう』

▲天賞

◎世界一の事業家　福島　高橋　光藻

甲『世界一の事業家は誰だらう』乙『大日本蠶絲會さ』甲『ナゼ

乙「英京倫敦へ富士山を運んだから」

選者曰く『一口噺の投稿澤山あれど、平凡にして面白きもの頗る少なし、會員諸君奮勵して投稿あれ』

懸賞募集 寫生文

▲秀逸

◎花曆　丹波　大槻古城

僕は隣の八重櫻を花曆にして居る、じめじめと降る春雨に、ふつくりと蕾が膨らんで來た、あの蕾の花になる時分、僕は蠶育に取掛かるのだ、桑の芽も先々青い舌を吐いて居る、いよいよ腕を試す時が近くなつた

◎晩春　愛知　櫻井孤山

穗に出たばかりの麥畑に續いて桑畑がある、軟かい風が麥の穗をさらさらと吹いて通ると桑の葉がひらひらと動いて優しい葉ずれの音がする、何所となく桑摘み女の謠ふ唄が長閑に聞える

◎春の日　京都　田幡晩塵

漸う肥培を終たので若草萌ゆる畦へ腰を下した、ポカポカと日の光が照つて、晴れた空には雲雀が長閑な天地を歸つて居る、何所からとなく和かい風が吹いて來る、桑の芽が可愛い雀の嘴のやうになるのも近い中であらうと實に嬉しかつた

◎彼の女　備後　藤原白峰

靜さんは毎年僕の家へ養蠶の手傳に來てくれた、或る晩のこと、妾は一生此家で養蠶がしたいと僕に云つた事がある、去年の十月に村長の勸めで靜さんは京都の蠶業講習所へ入學した、靜さんの希望は最早遂つて居るであらう

▲人　賞

◎工女　三重　丸林夕陽子

『ねえお前、今云つた通りだから來年の盆まで辛棒しておくれ、阿父さんはあの病氣、兄さんは未だ三月經たなくては歸らないから、どうぞ其所をよく嚙分けて辛棒して來ておくれ』と赤兒を抱いた母はポロリと涙を溢した、暮鐘の響く頃、白い包みを背負つた娘は、寒い風に吹かれながら雜木林に隱れた、製絲場の汽笛が微かに聞える、母は未だ裏畑に立つて居る

評に曰く『親子の情を巧に寫したり』

▲地　賞

◎春雨　丹波　大槻彌生

藪鶯は濕つぽい聲で啼いて居る、まだ雨は歇みさうにもない、僕は催青室の窓から、ポッと上氣せた顏を出して眼下の桑園を見渡した、露をもつた桑の芽は、茫乎と夕靄に煙つて居る、蛇の目傘が一つ、尾川橋の袂へ來た

評に曰く『着眼は面白けれど、蛇の目傘の點景は古し』

▲天　賞

◎桑摘　信濃　中島放言山人

裏の畑に桑を摘んで居る綾ちやんが『嫁入り前たよ可愛がつておくれ何所へかたつく當もない』と謠つた、隣畑に居た與作は『俺ア可愛がるべえ』と云ふと綾ちやんは知らないわと下を向いたが、もう戀を知り初めて居るのであらう

評に曰く『着眼頗る面白し』

蠶海涓滴

△國定教科書使用數年々增加の趨勢にて四十三年度に使用さるべき尋常高等科總冊數實に二千九百二十二萬九千四百餘冊に達すとは文部省の調查可驚。

△露國政府本年度陸軍省歲出豫算中空中飛行機の經費二千五百萬圓を計上し上院の協賛を得たりと傳ふ飛行機熱は各國百度以上本邦の飛行機熱は如何。

△四月十一日より五月九日迄上野公園池ノ端勸業協會會場に於て飛行機模型展覽會を開き內田式飛行機は實地飛揚を試みて一般の觀覽に供すと是好擧。

△許嫁の良人に死なれて剃髮轉尼の身となりたる新潟縣魚沼郡熊ノ內村生絲商五十嵐熊三氏の二女今回目出度日本女子大學を卒業す、その喜びや如何。

△圓頂緇衣の身を數多き女學生の中に擬して鑽研苦學を重ね遂に今日の名譽を擔へ今後益々佛門に歸依して尼衆界の模範者たらんとすと麗有き尼僧哉。

△英國人中最も強硬に菜食主義を固持し主張し鼓吹せしエル、マーシャル(八十二歲)エー、マーシャル(七十五歲)シー、マーシャル(六十五歲)の三人兄弟。

△此程相携へて來朝す本邦の肉食者流其門を叩て說を聞き比較研究する處ありては如何肉食ならずんば長命し難しと思ふ愚迷中或は夫れ得る處あらん。

△豫て改築工事中なりし神奈川縣津久井郡立蠶業學校愈落成して盛大なる開校式を擧ぐ新校舍成て新人材續々出づるあらば蠶界の慶事何物か之に如ん。

△群馬縣蠶病豫防事務所高崎支所管內各郡市に於ける本年度の框製豫定產額數二百萬蛾に達し前年度に比して約五割の增加也と全國概ね此類ならんか。

△框製蠶種製造近年殊に激增の結果蠶病豫防費の激增となり各府縣共之が負擔に堪へずと豫防費全部を國庫の負擔に移さんとの議出づ實に所以ある哉。

△輸出生絲二十四萬個中七割中は百個以下の製絲家なるに見ても我養蠶の小規模なるを知るべし此際養蠶飼育等の共同組織大に可なりと下岡局長語る。

△政府本邦產業中の根底たる蠶業の改良發達を期する爲蠶病豫防蠶種統一等を一括して生產調查會に附託し以て其大方針を決定すと念には念を入れよ。

新刊紹介

養蠶法教科書　全　土屋泰著

從來養蠶法に關する教科書の上梓されたるもの枚擧に遑あらずといひたいほどである、けれども其果してよく教科書の體を得たるものありやとの問に對しては不幸にして吾人には大に在りと答ふるの勇氣はない、此秋に際し著者本書を公にして以て世の蠶學者を益せんとせられたのは感謝に堪へない、義さに著者が世に公にせられた養蠶法に依りて類推するも如何に本書の實質が其究極に近きかを窺ふことが出來ると共に、養蠶法を教授せんとする者は本書を手にして始めて養蠶の極意を蠶學生に敎ふることが出來やう、又養蠶法の教授を受けんとする者は本書に依りて始めて遺憾なく養蠶法の如何なるものなるかを學習し得るであらうと思ふ菊版總クロース三百頁の美本にして定價八拾錢は頗る安直、發行所東京市神田區美土代町三ノ一明文堂。

實驗顯微鏡學　全　田邊傳太郎　齊藤久之　共著

科學の進步と共に顯微鏡使用の範圍益廣大となり、殊に我蠶絲業の如き顯微鏡應要の場合日一日と多きを加ふるのときに當りて本書の公刊を見たるは、所謂天來の福音たる感がする、本書の內容は第一綱緒論、第二綱顯微鏡の歷史、第三綱顯微鏡光學、第四綱顯微鏡の種類及構造、第五綱顯微鏡微尺器及其使用法、第六綱顯微鏡の檢定、第七綱顯微鏡的實檢、第八綱顯微鏡使用法、第九綱顯微鏡的標本製作法、第十綱染色、第十一綱固定硬化及其方法、第十二綱包埋劑及包埋法、第十三綱みくろとーむ、第十四綱切片貼付劑及貼付法、第十五綱切片封鎖法、第十六綱轉寫器及其使用法、第十七綱顯微鏡寫眞、第十八綱地球調査器、第十九綱顯微鏡實驗等に分類し、斯學に關する細大の記事悉く網羅して遺憾なしてある、定價壹圓八拾錢發行所京都市二條通烏丸西入百木書籍部。

製絲工業簿記　全　岡戶一榮著

製絲業經營の目的が利益の獲得に存すること三歲の童子もよく知る處である、果して然らば常に其收支計算を明かにして、其經營に誤りなきを期するは、製絲家として寸時も忘るべからざることである、この點に於て製絲家に簿記の必要なるは敢て多言を要せざる事なれど、本邦四千餘の製絲家中簿記の何物たるかを解

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI EN DIVERSES INDUSTRIES.

(Février 1910.)

TABLE OF MOVEMENT OF SILK IN DIFFERENT INDUSTRIES.

(February 1910.)

	Report.	Brought over.	Arrivé.	Arrived.	Vendu.	Sold.	Exporté.	Export.	Rentrayé.	Sent back.	A reporter.	Brought forward.
	Picul.	*Picul.*		*Picul.*		*Picul.*		*Picul.*		*Picul.*		*Picul.*
Filature. Filature.	14,849	724	82,17	1,10	8,068	—	—	—	1,378	181	13,620	289
Zaiguri. Retorl.	724	1,10		364								
Kakoiki. Orikayoshi.	612	50		179								
Autres. Other.	97	8		—		—		—		198	295	32
Total.	16,253	8,355		8,611		4,011		1,790			14,206	
1909.	15,248	8,169		7,449		6,302		1,149			14,351	

新刊紹介

する者無人あるべからう、多くの製絲業中其の根幹を誤て根尖又損失中には遂に救ふべからざる悲境に沈淪する者さへあるは怪しむに足らぬ、年倆怪しむに足りぬといつて此儘捨ておく譯にもゆかぬから、先づ以て製絲家に應記の素要を與ふることは急務中の急務である故に此際本書の公刊せられたのは大に歡迎すべきことであつて、吾人は世の製絲家に大に買つて大に讀め、讀んで一日も速に製絲工業應記の何物たるかを解し、機業の收支計算には如何なる點が不穩であつたかを詳索し、惡しきを改めて善法に就き、而して大に利益を獲得せよと勤奬するのである。正價金五拾錢發行所東京市日本橋區浜屋町十四番地丸山舍書籍部。

改訂增補 **蠶體生理** 全　池田榮太郎 著

わが蠶作未だ蠶生理の如何なるものなるかを知らざる者多き秋に本書が生れて世の蠶業者に一大福音を與へたることは何人の認覺にも存するところであるが、爾來本書版を重ねること五度、絃に又大阪を公にするに當りて、學に悉實なる著者は全部に改訂を加へて、蠶業家にして本書を座右に備ひ、時に學理の上より觀察し、時に實驗の上より攻究して怠らかつたならば、根本的に蠶益を免れ得て、某々たる美讃を收むることが出來やう、定價正價五拾錢發行所東京市日本橋區浜屋町十四番地丸山舍書籍部。

工女調全　加藤知正 述

現今製絲界に於て最も急務とする者何ぞと問はゞ、言ふ迄なく工女の養成である、而して工女の養成には技術上の養成と精神上の養成との二つある如く、本書は如何に技術が立派さへ、精神上の養成なければ眞い絲は出來ぬといふ見地から述べたものである、第一國の花、第二鶴巣の花、第三人の花、第四心の花、第五工場の花の五項目に就て、勞働者や經營場に居る婦人の心得方を實錄體の上から最も平易に說明してある、殊に大日本蠶絲會から表彰されたる工女の寫眞を載せてあるから其人の名譽を永遠に傳へ得るとは勿論之を見たる工女は如何に本文を讀むことが出來なくても、「あゝ眞い行ひをすれば此通りに成るを、自分も品行を方正にし、技術を磨きて、同一工場に水準勃興したいものである」といふ考へを起すことゝあるから工女養成に苦心せらるゝ製絲家の如きは、手拭代りに一冊づゝ工女に與へられて、其効果は著しいであらう、定價一部十錢乃至一打五拾錢の申込に對しては大に割引することになつて居る。

注意

文藝に關する規則は本年一月發行第二百十四號の會報文藝懸賞募集欄を見られたし

大日本蠶絲會報廣告料

特等		並等	
回數	一頁	半頁	四分ノ一頁
一回乃至六回	貳拾圓	拾貳圓	七圓
一回ニ付	拾七圓	拾圓	六圓
七回以上一回ニ付	拾圓	拾五圓	八圓
	拾貳圓	七圓	四圓

●會員は右料金の二割引とす●四分の一頁未滿は謝絕す●前金にあらざれは掲載せす●一頁は一行二十七字詰七十二行とす

◉本報定價

一冊金拾五錢
一ヶ年分前金壹圓七拾錢

明治四十三年四月二十日印刷發行

禁轉載

編輯兼發行人　東京市神田區錦町三丁目十八番地　小池市松
印刷人　東京市神田區美土代町二丁目一番地　島連太郎
印刷所　東京市神田區美土代町二丁目一番地　三秀舍活版所

發行所　大日本蠶絲會（電話本局一四七三番）

MARCHÉ DES SOIES.

MARCHÉ DE YOKOHAMA.

Citons sommairement la situation de notre marché au mois de mars dernier.

Les acheteurs n'ayant voulu payer trop cher et ayant attendu l'époque favorable venir, notre marché a été toujours dans l'accalmie. Mais les nouvelles demandes ayant été arrivées de l'Europe et de l'Amérique, le marché a pris soudainement une activité vers le 9 du même mois : Extra No. 1 accusa une hausse de 20yen, zaguri, Kakeda ainsi que les titres fins accusèrent chacun une hausse de 10 à 15yen. Cependant dès le milieu du mois, l'accalmie vint de nouveau régner sur notre place et cette situation ne s'améliora pas jusqu' à la fin du mois. Les articles recherchés faisant d'ailleurs défaut, aucune transaction importante n'a été enregistrée. Les prix ont baissé de 5 à 10yen, Extra No. 1 finit par accuser enfin le prix de yen 830.

Les tableaux suivants indiquent d'ailleurs le mouvement de la soie durant la même période.

RAW SILK MARKET

THE RAW SILK MARKET OF YOKOHAMA.

To state the condition of the Yokohama raw silk market in March, buyers were at first more ready to wait than to buy at high prices. About the 9th, however, fresh orders arrived from Europe and America, giving great activity to the market. Extra No. 1 gained 20 yen, while zaguri raw silk, skein books of Kakeda style and raw silk of fine size went up 10 to 15 yen. But such a prosperous state was not to last long. From the middle of the month the market again became dull and showed no hopeful signs at the end. To make the matters worse the scarcity of raw silk of good quality caused an average lowering of 5 to 10 yen and Extra No. 1. stood at 830 yen.

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI PAR JOURS.

DIAGRAM SHOWING DAILY MOVEMENT OF RAW SILK.

Jours. Days.	Arrivée. Arrived.	Vendue. Sold.	Renvoyée Sent back.	Exportée. Exported.	Noms des filateurs. Names of filatures.	Prix. Prices.
	Soie. Silk.				Maximum du prix. Highest prices.	
	Piculs.	*Piculs.*	*Piculs.*	*Piculs.*		*Yen*
1	246	312	47	—	——	—
2	174	232	60	—	Seishinsha	870
3	271	183	80	—	——	—
4	173	296	110	—	Tôeisha	830
5	204	237	60	209	——	—
6	—	—	—	—	——	—
7	493	223	35	—	Kôeisha	830
8	196	398	70	379	Kinpôsha	890
9	179	392	57	—	Mitsukesershi	900
10	224	527	93	399	Syunmeisha	885
11	276	393	61	—	Tôkôsha	895
12	195	272	102	296	Kogutigumi	835
13	—	—	—	—	——	—
14	505	394	76	—	Tôyôsha	890
15	323	416	77	—	Kinryusha	895
16	381	168	41	822	Nakanokan	890
17	335	180	58	—	——	—
18	241	438	91	—	Kakubôkan	890
19	233	289	56	315	Kokuôsha	900
20	—	—	—	—	——	—
21	—	—	—	—	——	—
22	898	168	80	—	Meijisha	900
23	201	289	69	575	Tôkôsha	900
24	550	510	34	105	Taisaikan	835
25	174	228	90	—	Sueyamaseishi	885
26	469	245	68	268	Kogutigumi	845
27	—	—	—	—	——	—
28	477	313	38	—	Inuyamasha	900
29	390	529	113	—	Ohashiseishi	880
30	229	403	47	543	Etsuyôkan	850
31	155	575	106	—	Susamotoseishi	920
Total	8,355	8,611	1,720	4,011	——	—

1 yen vaut environ *fr.* 2.50. 1 Picul = 60 kilg environ.

Lepidoptera

Tortricidae

21. **Exartema morivora** Mats.
22. **E. mori** Mats.
23. **Cacaecia reticulana** Hübn.
24. **Archips crataegana** Hübn.
25. **A. asiaticus** Wals.

Pyralidae

26. **Glyphodes pyloalis** Walk.
27. **G. pryeri** Butl.

Psychidae

28. **Pachitelia unicolor** Hufn.
29. **Acanthopsyche bipars** Walk.

Arctiidae

30. **Diacrisia lubricipeda** L.
31. **D. bifasciata** Butl.
32. **D. inaequalis** Butl.
33. **D. obliquizonata** Miyake.
34. **D. obliqua** Walk.
35. **D. Subcarnea** Walk.
36. **D. imparilis** Butl.
37. **D. infernalis** Butl.
38. **Arctia caja** L.

Cochlididae

39. **Parasa consocia** Walk.

Geometridae

40. **Crocalis fuscomarginata** (n. sp.)
41. **Hemerophila atrilineata** Butl.
42. **Zamacra albofasciaria** Leech.
43. **Boarmia selenaria** Hübn.

Noctuidae

44. **Calocampa exoleta** L.
45. **Polia illoba** Butl.
46. **Barathra brassicae** L.
47. **Acronycta major** Brem.
48. **A. rumicis** L.

Bombycidae

49. **Bombyx mandarina** Moore.

Lymantridae

50. **Orgyia thyellina** Butl.
51. **Porthesia similis** Fuess.

Diptera

Cecidomyidae

52. **Diplosis 4-fasciata** (n. sp.)
53. **D. sp.**

Coleoptera

Chrysomelidae

54. **Phyllotreta funesta** Baly.
55. **Luperus impressicollis** Motsch.
56. **Luperodes pallidulus** Baly.
57. **Calomicrus sp.**
58. **Xanthonia placida** Baly.

Cerambycidae

59. **Apriona rugicollis** Chevr.
60. **Xylotrecus chinensis** Chevr.
61. **Hammoderus suzukii** Mats.

Scolytidae

62. **Xyleborus morivorella** Niishiwa.
63. **X. praevius** Blan.

Curculionidae

64. **Baris deplanata** Roel.
65. **Septucus insularis** Roel.
66. **Catapionus modestus** Roel.

Scarabaeidae

67. **Lachnosterna inelegans** Lew.
68. **Aserica japonica** Motsch.
69. **A. orientalis** Motsch.
70. **Anomara orientalis** Wat.

A List of Injurious Insects of Mulberry-tree in Japan

S. Niwa.

Orthoptera.

Locustidae.

1. **Holochlora brevifissa** Brunner.

Thysanoptera.

Thripidae.

2. **Belothrips mori** (n. sp.)

Hemiptera.

Coccidae.

3. **Pseudococcus** (Dactylopius) **comstockii** Kuwana.
4. **Phenacoccus pargandei** Ckll.
5. **Pulvinaria kuwacola** Kuwana.
6. **Ceroplastes ceriferus** And.
7. **Takahashi japonica** Ckll.
8. **Lecanium nishigaharae** Kuwana.
9. **Diaspis pentagona** Targ.—Tozz.

Psyllidae.

10. **Anomoneura mori** Schwarz.

Fulgoridae

11. **Geishia distinctissima** Walk.
12. **Ricania japonica** Melich.
13. **Euricania fascialis** Walk.

Jassidae

14. **Chrorita mori** Mats.
15. **C. niwae** Mats.
16. **Eutettix discigutta** Walk.
17. **Tettigonia viridis** L.
18. **T. guttigera** Uhl.
19. **T. ferruginea** F. **var. apicalis** Walk.

Cercopidae

20. **Aphrophora intermedia** Uhl.